

本誌
三十五卷
總目録

一月號

卷頭(よろこびの人)

問題をもつ子供をどう見るか

保育事項としての遊戯に就いて

幼稚園の圖畫及手工に就いて(一)

新年二題

幼稚園々歌ものがたり(上)

月夜の太鼓(幼児童話)

保育項目配當に就いての座談會

兒童心理學文獻抄(親の職業、貧富の影響)

手技の材料

あなたの机上へ

情操保育の一日

童話王女の猫の話

二月號

卷頭(にじみ出る眞實性)

小學校が望む幼児

倉橋惣三……一

青木誠四郎……二

和田實……二

伊藤堅逸……二

松の屋主人……二

葛原 齒……三

内山窓堂……三

牛島義友……三

及川ふみ……三

松若幼稚園……九

中野好夫……一〇

倉橋惣三……一

淺黃俊次郎……二

幼稚園の圖畫及手工について(二)
幼稚園々歌ものがたり(下)
來月のお節句に準備して
生きて來た雛祭

雛十句

幼稚園のお雛祭

幼稚園に慣れるまで

兒童心理學文獻抄(田舎兒童と都會兒童)

小さい猛者連

あなたの机上へ

二三月の仕事

童話王女の猫の話

伊藤堅逸……六

葛原 齒……七

山田徳兵衛……二

水谷年恵子……三

久仁子の母……四

牛島義友……五

菊池ふじの……六

大岩 金……七

中野好夫……七

倉橋惣三……一

森川正雄……二

堀七藏……五

霜田靜志……二〇

石井庄司……二九

伊藤堅逸……三五

蠟山銀子……四〇

岡田道一……四六

幼稚園の圖畫及手工に就いて(三)
衛生上より見たる幼稚園の効果
兒童心理學文獻抄(幼兒の運動機能の發達)

プナホの幼稚園

遺傳と環境
小學校入學檢定を終へて(一)
童話は何處にあるか

幼稚園児の健康教育

大型の動物製作

「父と子」の映畫

童何故さう物語(一)

四月號

卷頭(進歩するものと進歩しないもの)

都市幼児教育の問題(一)

獨逸プロシヤの幼稚園規定

小學校入學檢定を終へて(二)

獨逸の人形芝居に就いて

幼兒ねずみの話

幼兒不思議な金の鈴

童話(へうたんラヂオ)

あなたの机上へ..... 齋

兒童心理學文獻抄(幼兒の感覺機能の發達)

第六回全國幼稚園關係者大會出席所感

芝に就いて

童何故さう物語(二)

牛島義友... 三

野津謙... 六

村上露子... 六

奥平英雄... 七

中野好夫... 七

倉橋惣三... 一

倉橋惣三... 二

多田鐵雄... 三

堀七藏... 三

東山新吉... 三

氏原銀... 三

青木信子... 四

須子啓子... 四

牛島義友... 五

大塚喜一... 六

大岩金... 六

中野好夫... 七

五月號

卷頭(五月の日光)

都市幼児教育の問題(二)

農繁期託兒所の經營

童話の教育的價値

英國文部省の幼兒保育指針

幼稚園とラヂオ

兒童心理學文獻抄(幼兒の言語の發達)

一年間の保育(一)

綠植の二、三に就て

童何故さう物語(三)

雜錄

倉橋惣三... 一

倉橋惣三... 二

朝原梅一... 四

田中兵治... 四

白根孝之... 五

倉橋惣三... 六

牛島義友... 七

宮本光代... 五

大岩金... 五

中野好夫... 六

六月號

卷頭(并)

行き過ぎた幼兒教育

夏の幼年童謡の中より(上)

幼兒童話の特殊性

都市幼児教育の問題(三)

兒童心理學文獻抄(幼兒の社會性並に情緒の發達)

倉橋惣三... 一

和田實... 二

葛原齒... 六

内山憲堂... 九

倉橋惣三... 七

牛島義友... 七

素人に来たる木工の話(一)

一年間の保育(二)

あなたの机上へ

ひとりごと

まはる水車、走る小舟

七月號

卷頭(幼稚園令公布十週年)

幼児保育に関する研究調査

保姆への希望

夏の幼児童謡の中より(下)

木の葉を觀て描く

當選童謡

素人に来たる木工の話(二)

あなたの机上へ

兒童心理學文獻抄(兒童の知覺界)

話大きな贈りもの

幼兒の談話について(速記)

雜 録

山形 寛……………三

宮本光代……………三

新庄よしこ……………七

小島その……………七

倉橋惣三……………一

堀七藏……………二

佐々木等……………二

葛原 鹵……………三

新庄よしこ……………三

山形 寛……………三

牛島義友……………三

武田雪夫……………三

内山憲堂……………三

雜 録……………三

こどもが自分を見出す時

秋の幼年童謡の中より(上)

幼稚園令公布十週年記念講演

フランスに於ける幼児保育に就て(上)

兒童心理學文獻抄(幼兒の辨別力と記憶)

或日のこと

本會主催夏期講習會

今年の講習會

講習出席の所感

感想

おみやげ問

幼兒の性情の涵養

雜 録

齊藤善太郎……………二

葛原 鹵……………九

白根孝之……………三

牛島義友……………七

赤 頭 布……………九

新庄よしこ……………八

大塚喜一……………七

徳 久 孝……………二

S 孝……………二

倉橋惣三……………二

倉橋惣三……………一

蘆谷重常……………二

白根孝之……………八

葛原 鹵……………三

牛島義友……………三

武田雪夫……………三

童おみやげお園子

育兒の神様少子部する

幼兒に聽かせるお話の實際(速記)

仲 川 明……………三

久留島武彦……………三

倉橋惣三……………一

倉橋惣三……………一

倉橋惣三……………一

十一月號

卷頭(爐邊味)

幼稚園六十年

幼兒に於ける習慣の問題

唯、活ける信仰ある者のみ

アンダアセン物語

兒童心理學文獻抄(幼兒の智能検査)

保姆の心理考察

保姆のよろこび

花園の仕事

幼兒性情の涵養

子供の繪について

十二月號

卷頭(廊下で)

行き過ぎた幼兒教育(二)

子供の繪(其二)

兒童心理學文獻抄(十三)

臺灣幼兒保育について

兒童の性格

冬期のこどもの衛生

一年間の保育(三)

主任の先生方へ
思ひまゝを述べて
雜錄

大塚喜一
米山エン

四

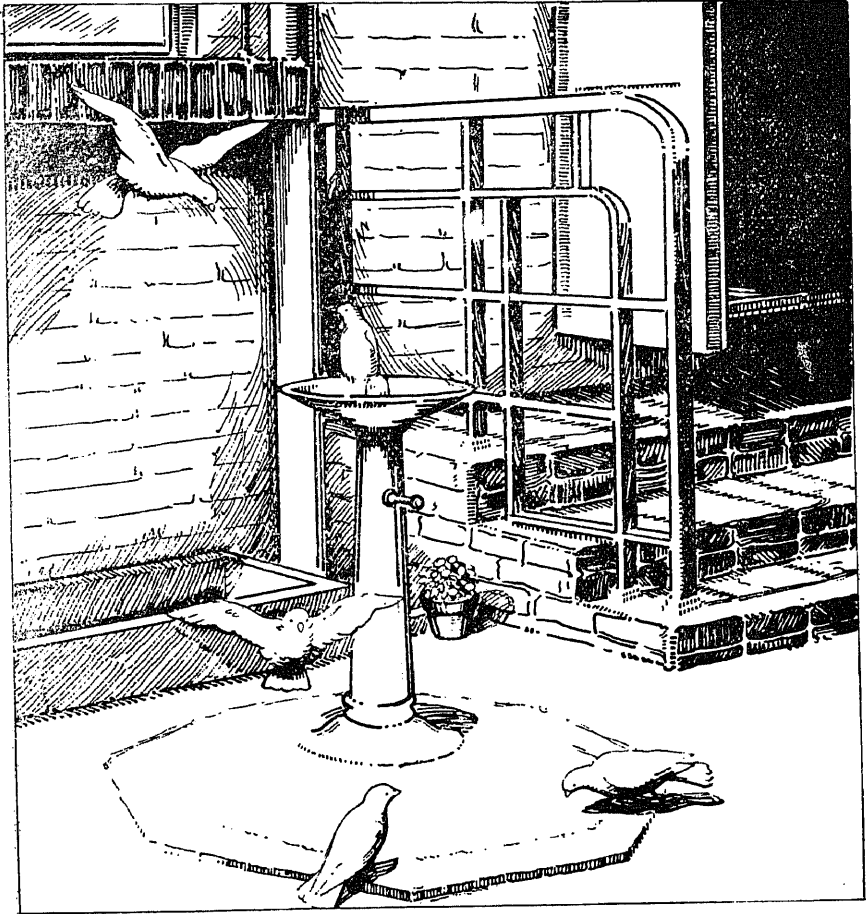
三

倉橋惣三	三
倉橋惣三	一
山下俊郎	二
齋藤善太郎	四
平林廣人	八
牛島義友	五
坂内みつ	四
及川ふみ	四
大岩金	四
倉橋惣三	五
菅原教造	五

倉橋惣三	一
和田實	二
菅野教造	八
牛島義友	六
安部光穂	三
岡田道一	四
宮本光代	三

幼 兒 教 育

第 三 十 五 卷 一 月 號 第 一 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

學 校 體 育 叢 書

東京高等師範學校教授 大谷武一 著 菊判洋綴紙數四百餘頁
 定價二圓五十錢送料廿二錢

第二學 學校體育概論

文檢受驗者
 唯一無二の
 必請要書!!

先づ學校體育の目的論から書き起し、體操科の各種教材を文部省體操教授要目に準據して説明し、課外指導、課外體操、(各師の社會的體操)を述べ、殊に瑞典式醫療體操の實際は、現今漸やく暗ましい各種矯正運動の原理並に實際を示すものである。次いで國際的の體育運動についてソコール運動、オリムピック競技を擧げて、體育家のみならず、一般國民に對する強い反省と努力を求めてみられる。澤市の體育施設は、各體育家の參考ともなり刺戟ともなる事であらう。

東京女子高等師範學校助教 宮田 覺造 著 第一 學校體操の教授 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

文部省檢定試驗委員 三浦 ヒロ 著 第三 行進遊戯 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校助教 安田 弘嗣 著 第四 運動の施設經營 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

大日本體育學會理事 二宮 文右衛門 著 第五 中心體操指導法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校助教 中島 海 著 第六 小學校體育 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

附屬小學校訓導長 藤村 トヨ 著 第七 學校體育論 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

日本女性體育研究會長 藤村 トヨ 著 第七 學校體育論 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校教授 佐々木 等著 第八 球技指導法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

文部省檢定試驗委員 野口 源三郎 著 第九 陸上競技指導法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校教授 野口 源三郎 著 第九 陸上競技指導法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

陸軍省軍務局長 本義 一著 第十 學校教練 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

神戶商科大学講師 多田 德雄 著 第二 排球競技法 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

東京高等師範學校助教 森 悌次郎 著 第三 歐洲に於ける體操の傾向 菊判洋綴紙數四百餘頁 定價二圓五十錢送料廿二錢

發行所 東京市牛込區 中 文 館 書 店 電話 振替 東京 三三三 番 七二四八 番 七五

賀正

日本幼稚園協會

昭和十年元旦

童話募集

昭和十年の新春を迎へまして本協會も、皆様の御協力により、一段の發展をしなければならぬ時と存じます。まづその手始めに申しますと大げさですが、今回廣く皆様から幼兒童話を募集することに致しました。左記規定御一讀の上、奮つて御力作を多數應募なされますやうおすゝめ申します。

募集規定

- 一 應募作は幼兒童話であること、内容は任意但し在來の童話の改作はお受けしませぬ。必ず創作のこと(舊作にてもよろし)
 - 一 應募篇數任意
 - 一 (原稿用紙にペン書のこと)挿繪、カット等入れるも可(尙、原稿は一切返却せず)
 - 一 應募者は宿所氏名(誌上匿名隨意)、奉職園(校)名明記のこと
 - 一 宛名 日本幼稚園協會童話研究部
 - 一 締切 昭和十年二月末日
 - 一 選 本協會童話研究部委員
- 入選作若干は本誌に掲載の上帶留或はピンを賞品として贈呈致します
- 尙御不明の點は往復はがきにて本協會にお問合せ下さい

生徒募集

募 集 人 員 百 名
出 願 期 限 自二月一日
至三月三十日

無試験檢定ノ特典アリ

規則書ハ二錢切手封入申込マレタシ

東京保姆專修學校

校長 ジー・マイエ

東京市杉並區高圓寺三丁目二九八聖心學園内
西武電車及青バス妙法寺口下車(電話中野二四八四)

生徒募集

本科生 四十名
研究科生 若干名

願書受付 昭和九年十二月一日ヨリ
昭和十年三月二十日迄
規則書は貳錢切手封入の上申込まれよ。

玉成保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン
東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來二十年。
大正五年東京市麴町區に創立。
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。

生徒募集

一本 科 七十名

一研究科 若干名

右 募 集 ス

出願期限 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎

顧問兼講師 倉橋 惣三

生徒募集

本科生 五十名

書間の授業です

聴講生 十名

夜學ではありません

出願期日 三月末日限り

規則請求 二錢切手封入して御請求下さい

東京目白保姆學校

校長 和田 實

位置 淀橋區下落合三丁目一、三八八

(目白驛下車西方ニ約五丁)

電話

落合長崎五五九番

文學士 山本 猛著 (最新刊)

幼稚園 託兒所 保育學 綱要

菊判洋裝 三七〇頁
定價金貳圓五十錢
送料金十四錢

本書は保育學の一般を平明に實際的に概説したもので常に理論と實際の融合を圖り、又力めて主觀的獨斷を避けて客觀的定説に従はうとしてある。外篇八章に亘る幼兒教育史も一應整備したものである。蓋し著者の如き篤學且達識の實際教育家にして始めて能くする所である。實際家の参考書としても、初學者の入門書としても、類書中の最高峰に位置すべきもの敢て本書を幼稚園、託兒所保母の諸姉、保母養成所生徒諸姉、保母檢定受験者諸姉に奨める次第である。

第一章	保育の意義及目的	第十九章	保育項目の實施
第二章	幼稚園の設置及經費	第二十章	養護
第三章	幼稚園の職員	第二十一章	幼兒保育の手段
第四章	幼稚園の設備	第二十二章	幼稚園の施設
第五章	幼稚園の生活形式と	第二十三章	幼稚園と家庭及小學校
第六章	保育の根本原理	第二十四章	幼稚園の附帶專業
第七章	保育作用の立案	外編	幼兒教育史
第八章	保育作用の立案	附錄	幼兒教育史

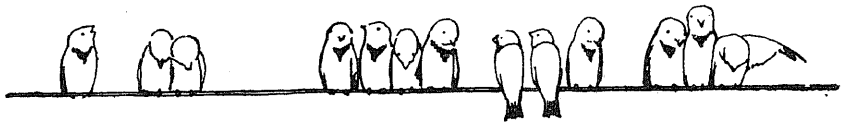
文學博士 田中寬一校閱
文學士 丸山良二著

幼兒の心理

幼兒の心の發育の仕方及智能、感情、性格等が外界のどの入事情で惡化するか其等の最も注意すべき實際上の事柄を保護者、保母一般教育者に分り易く懇切に説いたものである。

菊判洋裝・二二六頁
定價金貳圓
送料金十四錢

發行所 東京市四谷區新宿一八八番三友社



第 一 號 幼 兒 教 育 の 第 三 十 五 卷

— (次 目) —

口 繪	倉橋惣三 (一)
卷 頭 (よろこびの人)	青木誠四郎 (二)
問題をもつ子供をどう見るか	和田 實 (二)
保育事項としての遊戯に就いて	伊藤 堅逸 (六)
幼稚園の圖畫及手工に就いて (一)	松の屋主人 (七)
新年二題	葛原しげる (三)
幼稚園々歌ものがたり (上)	内山 憲堂 (四)
月夜の太鼓 (幼兒童話)	
保育項目の配當に就いての座談會	(嬰)
兒童心理學文獻抄 (三)	牛島 義友 (七)
手技の材料	及川 ふみ (七)
あなたの机上へ	新庄よしこ (七)
情操保育の一日	松若幼稚園 (九)
童王女の猫の話	中野 好夫 (二〇)
雜 錄 (第二十五回福島縣保育會總會並に二十五年記念式・東京女高 師保育實習科新卒業生一覽)	(二〇)

東京女子高等師範教授
同附屬小學校主事
文部省學校衛生官

堀 七藏先生序
大西 永次郎先生序

日本赤十字社救護部長
東京女子高等師範
同附屬小學校、幼稚園

高橋 篠崎

高先生序
ハル先生著

學校衛生 兒童養護の實際

四六紙定價送
總數三圓二角
布製二圓四角
印刷三圓
全優餘十二錢
冊一美頁錢

保母や學校衛生 婦生の生活指針

著者は我が國の學校看護婦事業創設の當初より、文部省學校看護婦として多年東京女子高等師範附屬小學校及幼稚園に於て學校養護の實務に従事せられ、深き研究を永き體驗は實に貴重なる本邦學童養護の文獻なり。本書は其の豊富なる資料を基とし、各方面の學校衛生に關する講話を參酌して、教育の基礎であり、保育の大半を占むる養護の實際を指導せられたるものである。されば學校看護婦はもとより教師・保母等の實際家の良參考書たるのみならず、一般家庭に於ても父母・兄弟の好伴侶として推奨する。

内容 綱大

- 一、教育に於ける養護の必要
- 二、學校に於ける設備衛生の實際
- 三、教授衛生の取扱
- 四、體育運動に於ける看護
- 五、學校に於ける衛生養護の實際

- 附録(文部省令)
- 1 學校清潔方法
 - 2 學生・生徒・兒童身體檢查規程
 - 3 學校傳染病豫防規程

東京女子高等師範教授
同附屬小學校主事
堀七藏先生著

歐米の幼稚園及低學年教育の實際

四六判函入全一冊
總數五三〇餘頁
紙數六〇餘圖
寫真六〇餘圖
定價金二圓八拾錢
郵税金拾四錢

東京市神田區錦町一丁目二番地
三 元 堂
振替東京七九四〇九番
電話神田五三三番



イモがコロガル
ロバがニゲル
ハチがサス
ニンジンタバル　ウサギサン
ホシイ　オクリシガ　ナクナツタ

幼 児 の 教 育

昭 和 十 年 一 月

よろこびの人

子ぎもの傍にあるものは、よろこびの人でなければならぬ。

よろこびの人は、子ぎもらのための小さき太陽である。明るさを預ち、温かみを傳へ、生命を力づけ、生長を育てる。見よ、その前に立つ子ぎもらの顔の、照々として輝き映ゆるを。なごやかなる生の幸福感を受け充ち溢ふるを。

これに反し、不平不満の心ほぎ、子ぎもの傍にあつて有毒なものはない。その心は必ずや額を険はしからしめ、目をぎげくしからしめ、言葉をあらくしからしめる。假りに自ら抑へて表情をつしむ繕つたとしても、底に溜滞し、泡沸するところのものは、識らずく漏れて酸辛の瘴氣となり、流れて苦澁の毒液にならずにゐない。これほぎ子ぎものやはらかき性情を傷けるものはなく、これほぎ子ぎもらのために相濟まぬこゝちはない。

不徳自ら愧づ。短才自ら悲しむ。しかも今日直に如何んごもし難い。たゞ、愚かなる不満ご、驕れる不平ごを捨ててこゝちは、今日を轉機として必ず心がけなければならぬ。然らずんば、子ぎもの傍にあるべき最も本質的なものを缺くのである。

年新たなり。希くは、子ぎもらのために小さき太陽たらんこゝちを。

問題をもち子供をどう見るか

青木誠四郎

一

私達が子供の保育にあたつてゐる場合、澤山の子供の中には、いろいろな問題をもつてゐる子供がゐませう。この問題をもつてゐる子供をどうしたら、問題を失くすことができるだらうか。どうしたらあたりまへの子供にすることができたらうか。それを考へる手順をどうしたらよいか。これがこゝで私に課せられた問題なのです。併し正直に申して、私にもさう整つた理論があるわけではないので、かうしたらよい、あゝしたらよいと、はつきり申上げる事は、六づかしいのです。そこでこゝに述べますものも、まだ、私がこゝにも決定的なものを發表してない、いはゞ未定稿について、その極めて一般的なこゝに他ならないのです。不完全なところは、追々に治してゆくこゝにし度いと思ひますので、こゝはさうかき思ふさ云ふやうなこゝがありましたら御忠言を頂きたいと思ふのです。

さて、私達がかう云ふ問題をもつた子供達にぶつかつた場合、何が最初になされなくてはならないか云ひますと、それはやはり、その子供のもつてゐる種々な生活のいろいろな場面に觸れて、その子供がどんな性質をもつてゐるかを見てみるこゝ、いはゞその性格の現象記述をするさ云ふこゝにあるでせう。

この現象記述さ云ふこゝは、子供のもついろいろな生活の、いろいろな場面をよく見て、それがどんな風のものかさ云ふこゝを、觀察してゆくこゝなのですが、さう云ふ風にいろいろな生活に觸れてさ云つても、あらゆる方面に觸れてゆく

ミ云ふことは、到底できることではありません。そしてまた、子供の性質を見るのには、その性質の特徴のよく現れる場面ミさうでない場面ミがあるのですから、その要點要點を把えなくてはならないので、必ずしもあらゆる方面を見るの要はないのです。

では、どんな點を把えたらよくその性質を窺ふことが出来るか。これについては、性格ミ云はれてゐるものゝ性質上、子供の物事に對する態度を見るこゝが大切ミ思ひます。物事に對する態度ミは、子供がいろ／＼な人に對してさうか、ミ云ふこゝに、物に對してさう云ふ態度をもつてゐるかミ云ふこゝに、分けて見る事ができるでせう。

人に對する態度ミは、その子供が他に對して内氣な態度をさるか、陽氣な心持で接することが出来るかミ云ふやうなこゝ、両親や、先生や、お友達に對してどんな態度でゐるか、云ふこゝをよくきくか、親しくするか、反抗するか、甘つたれるかミ云ふやうなこゝがそれなのです。物に對する態度ミ云ふのは、物事を几帳面にするかミか、物についての欲はさうか、物もちがさうか、物おしみをしないか、あるひは食物について、選り好みにこだはらないかさうか、ミ云ふこゝをあげる事ができませう。

かうした、子供について、いろ／＼窺つて來るミ、その子供のさう云ふ方面に問題があるのかミ云ふ事が、やゝ明かになつて來るでせう。例へば、この子供は非常にやりつばなしで困るミ思つたが、偏食でもある。云ふこゝもきかぬ。そのくせ成人ばかり便りにしてゐるミ云ふ風に、見られたこゝが綜合されて、その子供の問題が、少し輪廓を見せて來るやうなものです。人の性格ミ云ふのは、全體が關係し合つてゐるものですから、一方に何か缺點があれば、これは他の面に出て、その長短を形成るミ云ふ風になつて來るものですから、かうして輪廓をつくつて來れば、まづ性質の全貌ミ云つたものが見られるでせう。

かうして、大體のこじに見當がついて來て、この子供は我儘だ云ふやうなこじが、判つて來たら、次にはこれと關係した、いろ／＼な方面について、もつと詳しく性格の全貌を窺ふこじのできるやうな、さぐりを入れて見るこじが必要で
す。

このさぐりを入れるのに、さう云ふこじを眼あてにしたらよいだらうか。次にあげるものは、私が、アッケルソンの問題兒の示す現象事項を整理して、似よりによつて集めたものですが、これによつてさぐつて見るに、更に子供が、さう云ふ問題をもつてゐるからよほぎまで理解することができるやうに思ひます。

1、落ちつきのない神經質な子供に屢々存する性質

(1) 活動し過ぎる。(2) いろ／＼なことに手を出す。(3) 辛抱強くない。(4) 不眠症。(5) 睡眠不規則。(6) 安全感がない。(7) 恐怖心強し。(8) おじやべり。(9) 感情が變化し易い。(10) 夜中にうなされる。(11) 眠つてから動き易い。(12) 衝動的。(13) 抑制力の不足。(14) 自己統制力の不足。(15) 劣等感。(16) 自信の缺乏。(17) 嫉妬深い。(18) 爪をかむ。(19) 指を吸ふ。(20) 鼻をつまむ。(21) 不規則な食慾。(22) 食慾の缺乏。(23) 怒り易し。(24) 殘酷。(25) 火遊びを好む、等

2、喧嘩好きの子供に屢々存する性質

(1) 格闘する。(2) 挑戰的態度をとる。(3) 不作法。(4) 恐れ of 異常な缺乏。(5) 亂暴。6) 蹴る噛みつく。(7) 復讐すると脅す。(8) いちめる。(9) 赤坊を傷ける。(10) 殺してやると脅かす。等

3、我儘の子供の有し易い性質

(1) 自己中心的態度。(2) つけのぼせる。(3) 自惚が強い。(4) そんな事は皆知つてゐると云ふ態度。(5) 食事中の不作法。(6) 餓鬼大将になりたがる。(7) 責任感の缺乏、等

4、強情な子供の屢々もち易い性質

(1) 友達ができない。(2) 感謝の念の缺乏。(3) 愛嬌なし。(4) 拒絶症。(5) すれる。(6) 意地悪。(7) 食事を拒む。(8) 他人に唾をかける、等

5、感じ易い子供に屢々見られる性質

(1) はにかみや。(2) 心配過度。(3) 疲れ易し。(4) 淋しがり。(5) 晝夢。(6) くよくよする。(7) 引こもり好き。(8) 恥しくて便通を我慢する、等

6、緩慢遅鈍な子供のもち易い性質

(1) 理解がおそい。(2) 被暗示性強く影響され易い。(3) 年下の子供と遊びたがる。(4) 友達からいぢめられる。(5) 泣き蟲。(6) 不器用。(7) 記憶が悪い。(8) 非進取的。(9) 遊びに對する興味の缺乏。(10) 身體がきかぬ、等

まづかう云つた種々の具體的な生活事實について見るに、この子供のもつてゐる缺陷がはつきり極めるやうに思はれます。そしてこの子供の有つてゐる主な缺點と共に、他にどんな點に缺點があるか云ふことが考へられて、子供の問題の種類がわかつて來ると思ひます。

かうして、所謂現象の記述ができて、その子供の問題が、どんな方面に互つてゐるか云ふ事が解るに、次に考へなくてはならぬのは、その原因がどこにあるか云ふ事です。この原因がわかるに云ふことが、その子供をさう導くか云ふことを知らせるものになることは、常識的にもよくわかる事でせう。

そこで、この原因ですが、その原因を考へるのに第一に思ひをいたして見なくてはならないのは、その子供がこれまでどんな風に育てられて來たか云ふ事です。子供の問題は、勿論その素質のことも大に關係しますが、素質だけで問題が出て來るのは、著しい異常な變質的な場合で、さうでない場合は、いづれも云つてよい程、育て方、躱げ方、の上に問題が潜んでゐるに云ふべきでせう。

この育ての態度、躱げの方法について、何があたりまへであるか、云ふことは相當問題があるのですが、その極端な場合、問題ミすべき態度を考へて見るに、凡そ五つ位の態度があるやうに思ふのです。第一は故意に放任するもので、子供のしたい放題に委せておくもの、第二はそれミ反對に、一々子供のする事に干渉するもの、第三は、御機嫌を害ぬまいミ溺愛するもの、第四は、親の心配が過ぎて、神経質ミも云ふやうに世話をやいたりいたはつたりするもの、第五は、親の機嫌で子供を可愛がつたり、叱つたりするもの、云ふのがそれです。大體親のする態度は、これ等の五つのどれかに考へて見るこゝができるやうに思はれるのです。

では、この態度のどれによつて、その子供が育てられて来たか、それを決めるのは、相當にむづかしい事です。親に、「子供を可愛がり過ぎはしませんか」云々「ききは」それ程にも思ひません。「いや決して」なご、答へはするが、實際には相當に可愛がり過ぎミ見なくてはならぬやうな事が多いからです。これはさうしてもその育ての状態を、何か客観的な具體的な事項によつてつかまへて、それによつて育て方の如何を決定して見なくてはならないやうに思はれます。

次にあげるものは、私が、さう云ふこゝの参考にもミ思つて、子供の嬰兒からの育て方の標徴ミなるこゝを拾ひ上げたうち幼児期の育て方がきんなどであるかのさぐりを入れるための、躱げの具體的な項目をあつめたものですが、これによつて上のやうな態度のきんなのが、特に其の子供に濃く現れて來てゐるかを判断するこゝができません。

幼児期の育て方の態度を示す徴標(假案)

1. 食物について

(1) 子供の食物をどうしたらよいかに、いつも頭を悩ますか。

(2) 食事が進まないで叱るか。

(3) 間食を與へるか。

(4) 間食は大體分量を定めて與へるか。

(5) 間食は時間を定めて與へるか。

(6) 食事の分量は大體定めてゐるか。

(7) 食事の好きなものは、いくらでも與へるか。

(8) 嫌ひなものは食へなくてもよいとしてゐるか。

(9) 離乳はいつからさせたか。

2、睡眠について

(1) 子供は獨りで眠らせるか。

(2) 眠つた時ではできるだけ静かにするやうに氣をくばるか。

(3) おそくまで起こしておくか。

(4) 睡る時間と起る時間は定まつてゐるか。

3、衣服について

(1) 厚着をさせるか。

(2) 薄着か。

(3) 氣候が變るとすぐに着物の加減をするか。

(4) 身なりは構はない方か。

4、動作について

(1) しばしば抱きあげるか。

(2) なるべく家の中にあるやうに仕向けるか。

- (3) 外で遊んでゐる時は、いつまでも放つておくか。
- (4) 遊びは何でも自由にさせるか。
- (5) 亂暴な遊びでも放つておくか。
- (6) 暗遊びでもだまつて見てゐるか。
- (7) 子供が喧嘩をすれば、叱るか。
- (8) 子供が喧嘩をする時、相手方の子供を懲すようにするか。
- (9) 子供の喧嘩は放つておくか。
- (10) 子供が怖れるとき、いたはるか。
- (11) 子供が怖れるとき、叱るか。
- (12) 悪戯は放つておくか。
- (13) 悪戯は叱つて止めさせるか。
- (14) 子供が怒ると、何とかしてなだめようとするか。
- (15) 子供が怒つた時は、放つておくか。
- (16) 子供が怒れば、叱るか。
- (17) 子供が物を訊けば、大體答へてやるか。
- (18) 子供が物を訊くと、面倒くさくて叱言を云ふか。
- (19) 子供が物を壊したとき叱るか。
- (20) なるべく友達と遊ばせるやうにしてゐるか。
- (21) 子供が散らかしたものは、自分で片づけさせるか。
- (22) 床は自分でとらせるか。

(23)玩具は欲しいと云へば、大抵のものは何とかして買つてやるか。

(24)子供の泣くのにつり込まれて云ふことをきく方が。

かうして、子供がこんな風にして育てられてゐるかゞわかつて来れば、前の調べでわかつた子供の性質を照し合せて見るに、その性質の上の問題が、こんな風にして生じて来たものかゞ、凡そ解つて来ると思ひます。たゞこゝで、具體的に一つ一つの問題に遭遇した場合を考へて見る場合には、何と云つても、子供のもつてゐる性質上の生來性が見られるものが考へられなくてはならぬやうに思ひます。この子供の生來性をおぼしいものが、こんなものであるかについては、こゝで簡単にさう云ふ事は、むづかしいと思ひますが、たゞ、私ながら、従來子供の問題を取扱つて来て、さうも素質として考へなければならぬやうに思つてゐるのは、その子供の生れつきの衝動的な動きの強さ云ふこと、その子供が、内氣で陰氣な子供か、或は陽氣でさばくした性質をもつてゐるか云ふことです。内氣な子供には、さうも内氣の子供特有の問題があり、陽氣の子供には陽氣の子供特有の問題があるやうに思はれます。その上、心持の強い子供として考へて、はじめてわかる子供の問題に、それが非常に弱く子供の活動性の少いために出て来ると思はれる問題も、またあるやうに思ひます。

ですから、前述の子供の性質上の特徴を、この生來の性質を考へられるものと照し合せて見て、尙更に生育上のことを考へ合せて、そこで、はじめて、この子供のかう云ふ性質は、どこから出て来たのかゞわかるやうになるわけです。

さて、かう解つて来るに、子供をさう取扱つてゆかなくてはならぬかゞ、考へられなくてはならぬのですが、それに就いていまこゝで簡単にこれはかう、あれはあゝ明確に答へる事は困難です。だいいちさう云ふ矯正法については、尙不明なものが多く、はつきりこれを敘述する事はできません。またさう完全なものでなく、私が経験により、また多少文献なきにたよつて調べた結果、これはまづ大體かう取扱ふべきだ、それはかう扱つて見たらさうかと思はれる躰け方の方法は、ない譯ではないのですが、それを一般的にこゝで述べるには、尙澤山の敘述をしなくてはならないので、それをこ

こでしてゐる餘白がありません。

そこで、ごく一般的なことを申して見ますと、まづその原因がつきまめられたら、現在のその子供のゐる境遇から考へて、さうしたらその原因となるものが除けるか、それを考へて見て、そこから矯正の方法を考へてゆくべきものでせう。例へば子供を外へ少しも出さないでおいたために、人なれない子供になつたを見られれば、できるだけ他の子供を遊ばせるやうにする。子供の好きなものならいくらでも食べさせるが、さうでないものは少しも食べなくてもかまはないと云つたやうなことで、偏食がつくられて來たことは、これは一定の方針のもことに、何でも食べさせねばならぬと云ふ方針を生むわけです。

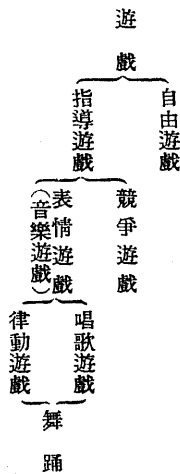
たゞ、かうして原因から考へることは云ひましても、子供には既に一度問題ができてゐるのですから、夫に對して考へてゆかなくてはなりません。社會性がないからと云つて、すぐに遊ばせようとしてはいけないでせう。偏食だからと云つてすぐ何でも一人前に食べさせること云ふわけにはゆきません。そこには徐々に進むこと云ふ極めて大切な方法上の立場があるわけです。これと共に考へなくてはならぬのは、子供の生來性も見られる性質について考へをめぐらすこと云ふことです。同じ處置でも内氣な子供は、陽氣な子供では、それに對する動き方が違ふやうに、躰けをして矯正してゆくのに、その點は非常によく考へなくてはならぬものをもつてゐるでせう。例へば内氣な子供は氣をひきたてるやうに、ひきたてるやうにさゆかなくてはなりません。陽氣な子供には比較的さう云ふ方法がなくともよい、なきがそれです。

これを要するに、私達が問題をもつてゐる子供を見出したやうな場合には、まづその性質がどんな性質かをよくしらべ、その生育の状態と生來の性質とを考へ合せて、子供の性質に合つた矯正法を講じてゆくこと云ふことになるのです。この事は理窟に至極簡單ですが、今日の事情としては、私達にはさう簡單でないのです。試みを重ね、方法を訂正して、根氣よくその處置をしてゆくのでなくては、充分の效を收めることはできません。

保育事項としての遊戯に就いて

目白幼稚園 和田 實

五つの保育事項其ものが、幼児の遊戯生活の分類である云ふ考へからするに、保育事項の中に、遊戯云ふ名前を置くことは、一寸妙な感じがしますが、是は便宜上の名前で、他の四つの保育事項に含まぬものを含ませた雑種なものご解すればよいでせうが、然らば其雑種なものの中に何んなものが、含まれるだらう云ふに、小學校の先生は



上の表の様に分類して居る。保育事項としての遊戯は保育の課程として取扱ふ可きものであるから、自由遊戯でないことは、判り切つたことである。又、小學校に於いての遊戯は體育教材云ふ迄もないことである。又、併し、保育として取扱ふものであるから、従つて、保育に直接効果あるもののみを扱つて、其他のものを閉却するのは、當然のことであるから、前記の分類にも、競技と舞踊だけに限つて居るのも亦然る可きもの云はねばなりません。併し、保育事項としての遊戯は、必ずしも、體育効果のみを求むるものでもありませんから、遊戯の種類を競技と舞踊のみに限る理由はありません。然るに、従來何處の幼稚園を參觀して見ても、遊戯云へば舞踊に非ざれば競技で、舞踊と競技の外は何もしていません。是は果して適當なものでせうか。私の考では、保育事項としての遊戯は次の三つのものが、尠くもある可きものと思ふのであります。

競争的遊戯(競技)
 音楽的遊戯(舞踊)

模倣的遊戯(劇的模倣)

劇的の模倣遊戯云ふのは色々な、断片的な模倣動作を統合して、一つのましまつた事件云ひ得る様なものを模倣するこゝで、最も恰好なる實例は彼の飯事まじであります。「飯事」は多くは自由遊戯として、日常幼児に因つて、能く遊ばれて居るものではありませんが、之を少し統制して、保姆の指導の下に大掛りに遊ばすこゝが出来たならば、立派な保育事項云ふ可きだらうと思ひます。其他、桃太郎遊び、花咲爺遊び、こぶ取り遊びなき何れも、立派な劇的遊びであつて、然も教育的効果は充分に得らるゝこゝではないでせうか、勿論、幼児の事であるから一つの劇を、始めから終り迄、完全に行らせる譯には行かぬかも知れませんが、其幾分を部分的に行ふこゝは容易な事でもあるし、幼児の好むこゝろではないでせうか、此點に就いて、實際の保育者は大に研究して見る必要があると思ひます。殊に、唱歌が問答體になつて居るものなどは、人を分けて問答的に唱はしむるばかりでなく、今一步進んだ劇的場面として、行はしむるこゝの必要もありはしませんか、尙、進んでは、童話を劇の筋書として取扱つて見るのもよいと思ひます。是は随分、實行して居る所がある様です。小學校では盛んに行つて居るこゝですが。

斯様にして、模倣的に、断片的に、劇の動作が練習されて行く中には、小さなものは、ましまつた劇なるこゝが出来さうに思ひます。假令、其處迄は、行かないにしても、此種の遊戯の必要なこゝは云ふ迄もないと思ひます。動作を通じての理解は、言語や觀察以上の感銘を持つに違ひないのですから。

保育事項としての遊戯の一部として、次に、今一つ注意す可き事件があります。夫れは音楽的遊戯即ち舞踊のこゝです

が、是には、律動遊戯即ち唱歌を伴ふことなしに、單に音樂だけに振りの付いたもの、唱歌に伴にするもの二つの部分があることは讀者諸君の疾くに御承知の通りですが、其詩歌音樂に伴ふ「振り」即ち表情的動作が、幼兒の自由に行はしむる場合と教師の振り付けたる動作を忠實に守らしむる場合とあります。リトミック主義の人は前者に重きを置いて、模倣的な表情的遊戯を排する向もありますが、一般には、既に振り付けられた表情的遊戯を模倣的に行はしむることが多い様です。是は一概に何れとも限つて仕まふことは正しくないと思ひます。幼兒の出來る程度のもは幼兒自身、自由な動作を付けしむることは決して悪いことではありません、否、却つてリトミック主義から云へば夫れが自然だとも、云へるでせう。併し、然ればして模倣的表情的遊戯も決して、悪いことは云へません。所詮、幼兒の發達は模倣の範圍を遠く脱出するこの出來ないものです。否、或度迄は模倣の中に發達あり云はねばならぬものですから、模倣的遊戯を排斥するなきは、飛んでもないことです。従つて、此二つの方面に夫れ／＼發達して行くことは當然のことだと思ひます。

所で、此模倣的動作即ち所謂「振り」なるものに色々の種類があつて、私共は從來、其取舍選擇に迷はされたものです。或舞蹈教師は子供本位に振り付を考へず、専ら人に見て貰ふこと、即ち子供を踊らせることに困つて、大人の歡心を得んことを主として振り付を行ひ、随分、殊更めいたポーズを振り付けて居るものがあります。而して曰く「斯くの如く振り付けることに困つて、弟子の入門を増す、バンの爲めに止むを得ず」と、甚だしきは振り袖を着せ扇子を持たしなきて、從來の大人の日本舞蹈其儘を行はんとするものさへあります。沙汰の限りであります。勿論從來の日本舞蹈（吾人は時代舞蹈と呼ぶ）必ずしも悪いことは云へませぬ。併しながら普通教育の基礎たる可き幼兒教育の材料としては衣服を改めざれば行ひがたき舞蹈を採るの必要何れにありやと疑はざるを得ません。又教育材料としての舞蹈は何處迄も幼兒本位でなければなりません。人に見せる爲めに教育するのではない。従つて、ステージに上すことを最後の目的として教ふ可きもので

はない。其行ふ可き動作は何處迄も幼児の發達上に必要な動作でなければなりません。

近來舞踊の先生は頗る多い。吾人の知つて居るだけでも十指を屈するに難くありません。が併し、多くは人に見せんが爲めの舞踊即ちステージ舞踊も稱す可きものが多くて、眞に、教育本位に考へられたものは誠に尠くない。概はしい次第です。保育の實際に當るものは材料選擇の際、大に注意す可きであります。

併し以上の諸點は注意して之を見れば、吾人の様な素人しょうじんにも、之を判斷する可き、決して、困難ではない。従つて、注意を要する可き云ふだけで、取捨に迷ふ可き程の可きでもありませんが、茲に一つ、吾人に判斷の仕兼ねる可きが一つあります。夫れは「振り付」の仕方に二つの流れがある可きです。即ち或舞踊教師は振り付ける動作を實際生活上の諸動作からして模倣的に持つて來やうにするに反して、他の舞踊教師は動作其ものゝ自然の美を強調する可きに困つて氣分を出さう可き務めて居る。前者は之を營生式模倣式の「振り付」を稱す可く、後者は審美式表徴式の「振り付」を云ふ可きでせうか、勿論、一切の「振り付」を何れか一方に限る可きではありませんまいが、振り付ける人に困つて、自然何れか一方に片寄る可きは止むを得ない様です。殊に、其人の出身の異なるに連れて、片寄る傾向も違ふ様です。日本舞踊即ち主として時代舞踊から出發した人の振り付けは營生式模倣式に傾き、西洋舞踊即ち新舞踊を主とする人は審美式表徴式の振り付けをする様です。（是は勿論、吾人の管見で、確定的の研究ではありませんが）従つて、同じ歌詞又は曲に、二つ以上の振り付があつて、何れを探る可きかを云ふ可きになる可き迷ふ可きが、往々にしてあります。勿論、實際には人々の好惡を云ふ可きがあり子供への難易を云ふ可きもある可きので、其點からして、然しても迷はず、何れかに極めて仕舞ふものゝ、理論的理由としては頗る薄弱なる感を持つ可きが、屢々あります。

音樂にも、同様な事がある様です。描寫曲と交響樂との差違が、是れを似て居る様です。自然描寫を主とした音樂が、

組織された交響樂に比して幼稚なものであるなら、同様な意味で、營生式模倣式の舞踊は審美式表徴式の舞踊に比して幼稚なものである云ふことが出来るでせう。若し果してそう云ふことが出来るなら我幼児教育上に採用す可き舞踊は前者であつて、後者でない云ふことが出来るでせう。何となれば幼児の踊る可きものは大人の夫れよりも幼稚であり、原始的であつて然る可きものであるからであります。併し是に就いては、まだ充分な研究をする機会がないので、確然たる意見が立ちません。世の舞踊に明かなる人の教を乞ひたいと思ひます。

實際、方々の幼稚園に就いて、聞いて見るに、何處でも、誰のがよいのか取捨に迷つて居る様です。中には舞踊を教育的に採擇するのではなく、之を一種の教授資料として父兄の歡心を得、課外教授の弟子を多く集めることに因つて、授業料の收入を得て、幼稚園經營の一助として居る所もありますが、是等は茲に論議す可き筋合のものでありませんから、本論の對象はしたくありません。吾人は、眞に、教育的の幼児舞踊云ふものが、果して何んなものであるかを明かにしたいものと思ふのであります。讀者諸君の中には随分舞踊に就いて研究されて居る方々も居らつしやることだらうと思ひます。大に教へて戴きたいものです。

幼稚園の圖書及び手工に就いて (一)

——お仕事に對する統計的觀察——

八王子幼稚園長 伊藤 堅 逸

目次

- はしがき
- 一、仕事に對する幼兒の興味
- 二、仕事ぶり
- 三、幼兒に興味ある仕事
- 四、むすび

はしがき

此所に述べんことしてゐるものは圖書及び手工に對する全般的のものではなくして極めて狭い範圍の觀察に過ぎない。私は昭和五年以來現在まで五ヶ年にわたり圖書及手工を幼兒の自由課題とし、種目の選擇も亦幼兒の自由にまかせるところにしてゐる。そしてそれを實施するために幼兒一人々々の「保育カード」なるものを作つて、それに幼兒が選擇するものを日附と共に一々記入することが出来るやうにし、そしてそれは一ヶ月毎に取り替へるやうにしたのである。それでは其カードを統計的に調査して見たのであるが其結果は幾分か幼稚園の教育上參考となるべきものがあるやうに思はれるので、こゝにそれを發表して諸家の研究に資することとした次第である。

一、仕事に對する幼兒の興味

幼稚園で所謂「お仕事」を云ふのは圖書及び手工の總稱である。故にこゝに仕事を云ふのは遊びを全然區別した意味のも

のでないことは豫め承知を願ひたい。併し若し遊びの中に仕事に類するものがあることは圖書及び手工は將にそれにあたるものであるから、こゝには仕事云ふ言葉をそのまゝ使用したのである。

さて、仕事に對する幼児の興味であるが、之は幼児が仕事をする数の大小によつて知ることが出来る。即ち多く仕事をするものほぎ多く興味を有し、少なく仕事をするものほぎ興味を餘り有してゐないものと見るのである。それで私は各兒の仕事平均回数を月毎に又年毎に求めて見たのである。だからそれによつて仕事に對する興味のあるものこないものが明かに見られ、月によつて興味の増減する有様や一年を通じての幼児が最も多く仕事に興味をもつたかなぎ云ふさうなこぎが明かに見られるのである。従つて又幼児の個性的相異を見るこぎも出来るのである。

次に掲げた表は一年を通じて各兒が得た仕事の平均回数表である。一年を通じて云ふてもカードを使用しない時期があるから其期間は統計には表はれない。回数云ふのは仕事時間(毎日一時間餘あり)内に、例へば圖書をしたならそれで其日の仕事は一回したこぎになり、若し圖書の外に粘土細工をもしたとすれば其日の仕事回数は二回とするものである。そして仕事をした時間の長短は敢て問はない。平均回数云ふのは、然うして計算した回数の實数をカード使用期間内に

第一表

(一)昭和五年度

組	大 き い 組												全部平均													
	男						女																			
人員番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
一日仕事	1.20	0.81	2.1	0.81	2.0	7.0	0.80	8.0	8.0	8.1	0.90	9.1	4.0	9.0	9.1	1.51	1.1	2.1	1.0	9.0	7.0	9.1	1.1	1.1		
全年平均																										

組	小 さ い 組																				全部の平均	本年度總平均			
	男										女														
性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	平均	全部の平均	本年度總平均
人員番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	平均	0.8	0.7
仕事平 均	0.4	0.3	0.5	0.1	0.3	0.8	0.8	0.8	0.8	0.6	0.1	0.6	0.8	0.9	0.9	1.4	1.4	0.9	0.9	0.7	0.8	0.6	1.1	0.8	0.7

(三)昭和八年度

組	大 き い 組																												全部の平均			
	男														女																	
性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	平均	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	平均	全部の平均	
人員番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	平均	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	平均	全部の平均	
仕事平 均	1.2	1.1	0.8	1.4	1.3	0.9	1.1	1.0	0.9	0.9	1.1	1.4	1.2	1.1	1.2	1.4	1.3	1.1	1.2	1.4	1.1	1.3	1.1	1.3	1.5	1.2	1.4	0.7	1.2	1.2	1.1	1.1

組	小 さ い 組																																					全部の平均	本年度總平均																	
	男																		女																																					
性	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	平均	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	平均	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	平均	全部の平均	本年度總平均
人員番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	平均	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	平均	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	平均	全部の平均	本年度總平均
仕事平 均	1.1	1.1	0.8	1.4	1.3	0.9	1.1	1.0	0.9	0.9	1.1	1.4	1.2	1.1	1.2	1.4	1.3	1.1	1.2	1.4	1.1	1.3	1.1	1.3	1.5	1.2	1.4	0.7	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.0	0.7	0.9	0.9	1.1	1.0	0.9	0.8	1.0	0.7	1.0	0.9	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1						

於ける出席數で除したものである。それ故、平均回數は一ヶ月の場合でも一ヶ月の場合でも一ヶ月の場合でも常に一日平均回數なるわけである。そこで其數字は直ちに圖畫及び手工(即ち仕事)に對する興味を表はすものである。

幼稚園で仕事を自由にさせる事がよいかどうか云ふことは今暫らく別問題として、若し定められた仕事の時間に圖畫

なり手工なりを厭應なく劃一的にさせるべきすれば、そして仕事の時間が一日に一回ありべきれば仕事の回数は一ヶ月でも一ヶ月でも常に一になるのであるが、仕事が全然幼児の自由になれば果してこの程度まで仕事に興味を以つてするか、此の疑問に對し右に掲げた四年間にわたる年度毎の表は明かな解答を與へる。即ち其表を見るに殆んど仕事をしない、例へば平均〇・三以下の者も五年度に一人、六年度に五人、七年度に六人ある。八年度には一人もない。故に四年間で百分比にして見るに三・一が平均〇・三以下であつたことなるから此の程度の者は極めて僅かである。次に〇・七以下〇・四までの者は云ふに、之れは五年度に五人、六年度に十人、七年度に十三人あつて八年度には四人ある。故に全體で三十二人である。之れを百分比にすれば一八・三九である。されば〇・七以下〇までのものを合算すれば二一・四九なる全體の二劃一分五厘は餘り仕事に興味をもつてゐないもの云へるであらう。残りの七劃七分五厘は〇・八以上のもので仕事に相當大きな興味をもつてゐるもの云へる。其中の一八・三九%、即ち一劃八分四厘は一・二以上のもので特に仕事好きなものであるから普通に興味をもつてゐるものは一・一以下〇・八までのもので五劃九分であることになる。

尤も年度によつて之らの割合は可成り相異して居る。〇・八以上のものは五年度には八劃五分で六年度には六劃四分三厘、七年度には五劃三分七厘となつてゐるが八年度には九劃二分二厘となつてゐる。各年度の割合は皆各々相異したものであるが四年間の割合としてはさきに擧げたやうに〇・八以上は七七・五になるのである。今假りに之れを標準として考へるなら自由主義でなく劃一的に仕事をさせる場合二劃二分五厘の幼児には可成仕事を強いてゐることとなるわけである。そして一劃八分四厘のものは普通以上に仕事をしたいのであるから之れらのものにも不満足を與へることとなり、結局五劃九分の者のみに満足を與へることになるであらう。次に掲ぐる表は前の表を整理したものである。

仕事に對する興味は男女によりて明かな相異を示してゐるものゝやうである。右の表で見るに〇・八以上のものゝ割合

據 口 帳

(一) 五年度

	三以上		二		一		無		人員
	三	以上	二	以上	一	以上	無	以上	
男	大	3	2	6	1				12
	小	91.67%		1	1	0			5
女	大	3	3	5	1				12
	小	91.67%		2	3	5			11
計	9		9	16	3	2	1		40
		86%							

(二) 六年度

	三以上		二		一		無		人員
	三	以上	二	以上	一	以上	無	以上	
男	大	0	2	5	0	3			10
	小	70.0%		1	0	1			6
女	大	2	7	4	1	0	2	2	18
	小	33.33%		0	1	4	1	1	8
計	3		10	14	5	5	3	2	42
		64.29%							

(三) 七年度

	三以上		二		一		無		人員
	三	以上	二	以上	一	以上	無	以上	
男	大	0	2	3	3	1	1		10
	小	50.0%		0	0	4	1	2	11
女	大	0	1	4	3	1	1		10
	小	50.0%		2	0	6	2		10
計	2		3	17	9	4	4	2	41
		53.66%							

(四) 八年度

	三以上		二		一		無		人員
	三	以上	二	以上	一	以上	無	以上	
男	大	5	5	4	0				14
	小	100%		0	5	3	1		9
女	大	10	3	0	1				14
	小	92.86%		3	6	3	2		14
計	18		19	10	4	0	0	0	51
		92.16%							

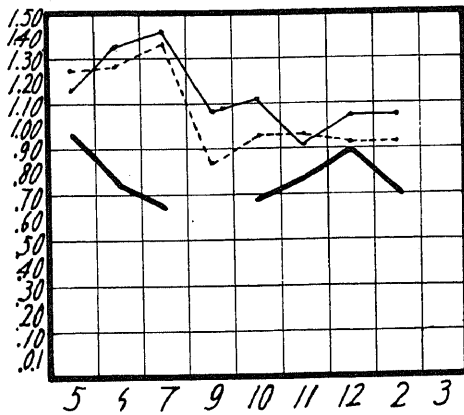
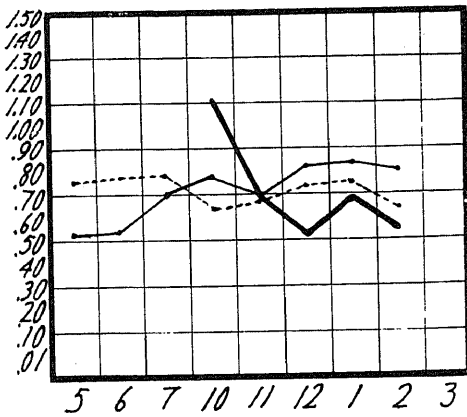
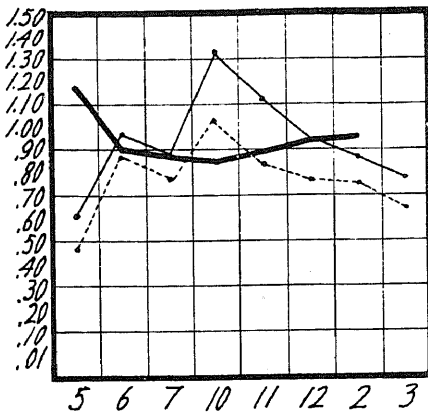
は五年度六年度七年度の三年度に於て男より女の方が遙かに大きな割合を示してゐる。たゞ八年度に於ては女よりも男の方が大きな割合を示してゐるが、其差は極く僅かである。若し最初に掲げた平均回数に表に於て見るなら大きな組は男一・一、女一・二、小さな組では男〇・九、女一・三となつてゐるから平均回数から云へば矢張り女の方が男よりも多くの仕事をしてゐるゝことになる。だから幼稚園の手工は男よりも女に興味が多くあるものゝ考へられる。實際見てゐるゝ男兒は女兒よりも活動的で室内に落付いて手工をするよりも寧ろ戸外に出て氣まゝに遊ぶのを好むやうである。(後に掲げる第三表参照)

仕事に對する興味の大小は又年齢によりても相異してゐるやうである。年齢の大きいものは年齢の小さなものよりも興味が多し云へる。第二表(ハ)の女兒の外は男女共に〇・八以上の仕事をしてゐるものは大きい組のものが小さい組のものよりも大きくなつてゐる。第一表に於て見ても平均回数は(ハ)の女兒の外は皆小さい組のものが大きい組のものよりも少くなつてゐるゝことがわかる。之によつて年齢の大きいものが年齢の小さいものよりも仕事を多くするゝ云ふことが解るゝ思ふ、即ち換言せば年齢の大きいものが年齢の小さいものよりも仕事に對する興味を多くもつてゐるゝ云へるのである。

次に仕事に對する興味が時期と共にさうなるかを見やう。時期に云へば自然的な時期が其一つである。之は季節名又は月名で云ふ時期で、此の外に事情に伴ふ時期がある。例へば入園當時であるゝか又は今まで小さい者の組に居つたのが大きい者の組即ち兄さん姉さんの組になつたゝか云ふやうなつまり或る事情に伴ふ時期である。

前から幼稚園に入園して居て新入園者を迎へ然かも兄さん姉さんの組に入れられた時期には當分は仕事の回数は大抵減少するものゝ見られる。併しそれは當分であつて又再び増加する。それは多分新しい多くのお友達を迎へた喜びゝ以前から幼稚園に来て居たゝ云ふほこらしさで一時心の落付きが失はれる爲めであらう。新入園者は入園當時は仕事の回数が比較的多い、これは幼稚園がめづらしいためであらう。併し慣れる従つて以前から入園してゐるものゝは反對に仕事の回数

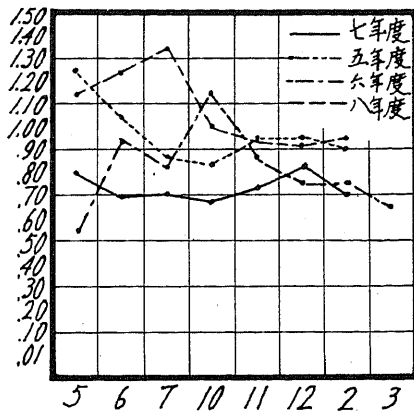
は幾分か少くなる様子に見へる。左は前から入るもの、新しく入園したものとの間に表はれる相異を示した曲線である。實線は前から入るもの、點線は新しく入園したものの、太線は前から入る者の前年度のものである。



之れを見るべきの年度に於ても前から入るものの方が新しく入園したものよりも多く仕事をするこゝが目して明かに知られる。そして七年度でも八年度でも新入園者が前から入る者よりも最初は多く仕事をしてゐる。六年度では趣を異にしてゐるが統計は五月からで四月の統計がない爲めにこれのみで何事も明かに云ふ事は出来ないが實際的には前から入るものよりも新しく入園した者の方が最初は多く仕事に興味をもつやうである。

次に自然的時期に仕事に對する興味との關係を見るこゝにする。左は各年度に於ける仕事の總平均回數を曲線にて表

はし月により増減する有様を示したものである。之れを見るに七年度と五年度とは他の二年度と全く變つた状態を示して



る。始め盛んに仕事をしてゐた年度には一時倦怠時期があつて又幾分か増加する傾向を示すが、始めぼつ／＼に仕事に取りかゝつた年度に於てはやがて非常な興味が出て来て盛んに仕事をするやうになる。急激的に仕事に取りかゝるか漸次的に取りかゝるかは年度によつて異つて居る。十月頃の暖い季節に於ては曲線が年度によりて甚だしい高低の相異を示して互に入り交はつてゐる状態であるが十一月頃から各線互に相接近して落付いた状態を示してゐる。これは氣温に對する心理的狀態が其原因をなしてゐる見なければならぬ。故に此の曲線によつて幼児が如何に氣温の支配をうけるかと略々推察し得られるであらう。

以上で幼児の仕事に對する興味に就いては今迄に得た材料での觀察を大體終へたのであるが、今一つ智能に仕事に對する興味との關係について述べて此の節を終ることにする。

前にも述べたやうに年齢に仕事に對する興味との關係は、幼稚園では、年齢の多い者が少ない者よりか仕事に對する興味を多くもつてゐるに見られる。此のことは次ぎの第三表によつて一層明かである。所が之れを若し智能年齢から見ると果してさうなるであらうか。此の點を明かにする爲めに私は昭和八年度に於て智能検査を行つた、併し或る者は検査室に來る事を厭がつたので結局全員五十一名の内四十一名だけの検査をすることが出来た。それで其四十一名に就いて先づ生活年齢に仕事に對する興味との關係を見るために作つたのが右に掲げた第三表である。更に又智能年齢に仕事に對する興

第 三 表

生活年齢	3		4		5		6		7		8	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員			2	3	3	6	12	12	1	2		
仕事平均回数			0.95	0.97	0.93	0.93	1.04	1.10	0.90	1.41		
男女平均			0.97		0.93		1.07		1.24			

第 四 表

智能年齢	3		4		5		6		7		8	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員		2	2	1	6	3	7	8	2	9	1	
仕事平均指数		1.08	0.95	0.96	0.96	1.20	0.97	0.90	1.16	1.17	1.21	
男女平均	1.08		0.96		1.04		0.93		1.17		1.21	

數百二十から九十までの間が比較的仕事が多なくなつてゐるのを見るに仕事に對する興味の一多いのは此の間のものである。併し勿論之れだけの材料ではまだ斷定的なことを云ふ事は出来ない。第五表は年齢は問はず唯智能指數に仕事回数

味との關係を見るために作つたものが左の第四表である。これによつて見るに智能年齢では年齢の進むと共に仕事に對する興味が多くなることは云へない。男女別々に見ても男兒の方では漸次増加してはゐるが其増加する數が餘りに小さ過ぎる。女兒の方は中途で全くくづれてしまつてゐる。して見れば智能年齢に仕事に對する興味との關係は生活年齢に仕事に對する興味との關係の如く相關的な關係がないと云へる。云ひ換へるなら仕事に對する興味は智能年齢よりも生活年齢により多く關係を有してゐるものと云ひ得るのである。更に進んで智能に仕事に對する興味を見る爲めに智能指數に仕事の平均回数を分配して見たのであるが、左の第五表は即ちそれである。これによつて見るに智能の高いもの必ずしも仕事の興味が多くない、其反對に智能が低いから云ふて必ずしも仕事の興味が少くない。智能指

第 五 表

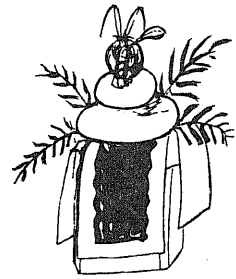
智能 回数	140		130		120		110		100		90		80		70	
	性	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人員		1	1	4	4	4	2	6	7	3	3	3	1	1		1
仕事 平均		0.72	1.36	0.87	1.06	1.04	0.93	1.19	0.96	1.13	1.01	1.18	0.90	0.96		1.03
男女 平均		0.72		0.92		1.05		1.15		0.99		1.10		0.91		1.03

第 六 表

智能 指数	140		130		120		110		100		90		80		70		
	性	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人員				1		3	4		3	5	2	3	2		1		
仕事 回数				1.38		1.09	1.04		1.11	0.97	1.12	1.02	1.21		0.96		
男女 平均				1.38		1.06		1.11		1.01		1.10		0.96			

を分配したのである。故に年齢から云へば七歳から四歳までのものが雑然入り交つてゐるわけである。併し前に見た如く年齢に仕事に対する興味は密接な関係を有してゐる。それ故同じ年齢のものゝみの仕事回数を智能指数に分配して見たらさうであらうか。智能検査をした四十一名の中六歳のものが最も多く二十四人ある。それで此の二十四人の仕事回数を智能指数に分配して左の第六表を得た、併し之れには人員の分配が不揃であるから之れを以つて正確なものを見る事は出来ないが、併し仕事に対する興味はこれによつて見ても智能に餘り關係がないことだけは明かに知られると思ふ。

智能に仕事に対する興味との關係については材料が僅かであるからまだ確定的なことは云へないかも知れない。併し仕事に對する興味は年齢に多く關係して智能に餘り關係しないものであることは略々以上の研究に於て觀察し得られることと思ふ。



新年題

松の屋主人

(一) 昆布

お鏡餅の上にもコンブ、お七五三飾にもコンブ、お雑煮の中にも、お煮しめの中にも。

なんじお正月はコンブづくめではありませんか。コンブ！ コンブ！ よろこんぶ！ コンブが、お正月に幅をきかすのも亦所あるかなです。

が、しかしコンブが目出たい時に用ひられるのは、よろこんぶの意味ではなく、長くて広いからだに云ふ事です。長く生きたい、広い地面に大きな家を建て、なまぎ、人間に云ふものは、どこまでも景氣のいゝ事を考へて楽しんで居るものです。さてコンブは一たいぎの位の長さになるのでせうか、長くてやつ三メートル、幅は、ざつ三三十センチ、まづ木綿の兵古帯に云つた調子。もつともコンブの中でも長いものになるに、三メートルは愚か、三十メートルに近いものがあるに云ひますが、それにしても揚子江の流れ、ゴビの沙漠にくらべれば、何ぞちつぽけな事ではありませんか。

しかしです。何に云つても海藻の中で一番大きくて長いのはやはり昆布科植物で、此の科の中には普通のコンブではありませんが、長さが百五十メートルにも達する種類があります。百五十メートル！、メートル法の嫌ひな人には五百尺

五百尺云へば八十三間で、ざつミ一町半、こんなのが大西洋の荒波にもまれ／＼て居る所はさぞ壯觀な事でせう。私どもの珍重するコンブが、せめて此の位もあつたら、お正月に用ひる價値が少しはあるなと思ひますが、皆様如何でせう。それからこの海藻の幅がどの位であつたか、つい聞き洩らしましたが、もしも前にあげたマコンブと同じ割合のものであるとすれば五十尺ですから、大凡十五メートル云つたわけで、これならば私どもの家の様なちつぽけな家だも、雑作なくる／＼巻いて、コブ巻をつくるこゝが出来ますね。お家のコブマキ？ こいつをむしやく／＼食ふ人間が現はれたら、さぞ痛快な事でせう。

君が代は蝦夷の千島のはてまでも

洩れぬ恵みのひろめ刈るなり

(網代弘訓)

昔は昆布のこゝをヒロメ云ひ、蝦夷ヶ島即ち北海道地方では盛に刈り取つたもので、古くから朝廷に献上して居たものです。それで昆布のこゝを一名エビスメも云ひました。エビスメ、ヒロメ、アラメ、ワカメなき幅廣の海藻に共通のメの字のついて居るのも亦興味あるではありませんか。

(二) エビ

エビの事を蝦ミ書きます。魚にしては少々風變りだから、蟲の仲間に入れたのでせうが、最も普通には海老ミ書きます。しかしあんな活潑なエビを「海中の御老體」はち／＼輕蔑した名前ではありませんか。況んやです、彼が生きて居る間は、決して腰を屈めたまゝのそり／＼して居る様な事はありません。何時も腰を伸ばして居て、たま／＼敵が来るこゝ、腰をすばやく屈伸してはねて逃げますが、その時はいつ腰を屈めたか、又いつ伸ばしたか、とても敏捷で分りません。唯伸ばす筋肉よりも屈める筋肉の方が遙かに強いこゝは、死んだエビの腰が悉く屈つて居るので、よく分ります。お正月の

しめかざりにエビを使うのは、腰の曲るまで長いきしたい云ふ念願からであります。折角お目出たい新年を迎へながら死んだエビの眞似なんか、餘り氣のきいたわざも思はれませんか。

しめかざりにエビを用ひはじめから、何年位たつて居るか知りませんが、何れにしても長い間新年を迎へる度に日本國中の人がいくらエビを使つても、腰の曲る人は次第に少くなつて、當世では殆んど見當らなくなりました。道理で、近頃のしめかざりにくつつけてあるイセエビを見るに、大抵腰を伸ばして居る様です。

イセエビは食用にするエビの中では一番大きい種類です。岩の間に棲んで居て、甲羅は堅く棘が生えて居り、色は黒茶色で如何にも丈夫相に見えます。さうして長いおひげを頭の前からピンピンと立つて居るその姿は、誠に勇ましく、まるで古武士の様で、腰の曲つたヨボ／＼の老人とは全く比べものになりません。だから私はこの意味で以てエビを使ふことにしたいと思ひます。

イセエビは日本海方面には居りません。又寒い地方の海にも居なくて、福島縣から南の太平洋の沿岸に居ります。

昔から燒野の雉子夜の鶴云つて母性愛の強い標本とされて居りますが、イセエビも亦母性愛の強い動物と云へませう。彼は自分の産んだ卵を腹肢(腹部)に附いて居る四對の筥の形をした足で、しつかり抱いて保護して居ります。さうして絶えず新しい水を送つて居りますが、その中に卵がかへつて子供が遊ぎ出すのです。皆さんの中にはエビの子供は鳥の雛と同様たゞ親の形を小さくしたものに、お考の方があるかも知れませんが、實際は餘程變つた形をして居ます。それが數回皮を脱いで初めて親エビになります。

幼稚園園歌ものがたり（上）

葛原しげる

〔序〕

國歌—園歌—會歌—校歌、そして、幼稚園には園歌—まごみに、園歌のない幼稚園はさびしく、情ないではないか。今の世に。工場にさへ工場歌のある今の世に。

専有慾の旺盛な幼児が、自分の歌、自分達の歌

としての自分の幼稚園々歌を有つ事は、嬉しく、有り難いではないか。否、それを有たす事は、園長先生にまつても、實に、幸福ではあるまいか。そこには、求める物と與ふる者の悦樂さへ伴つてゐるから。

かくて、私は全國の小學校に、校歌の無い小學校がなくなるのと同じく、全國の幼稚園に園歌のない幼稚園の無い様に、一日も早く、ま祈つては、頼まれては、園歌をものしてみたのが、いくつか有るやの數篇について、物語を試みたいと思ふ。

1、廣島縣 沼隈郡 鞆幼稚園々歌

本邦の國立公園の一つに、瀬戸内海が數へられてゐるのは、當然すぎる程當然であるが、その瀬戸内海を中心にして、殊に、風光明媚なるこゝに、日本第一の形勝だま讚へられてゐる「鞆の津」、「鞆みなぎ」、この「鞆」こそは、何處行つても、誰が見ても、飽きない名勝であり、麗はしい形勝である。否、その度毎に、その美しさが深まつて行くかと思はれるほど

である。名もめでた、玉津島たまつしま、また、津輕島つがるしま、皇后島くわごうしま、何れは有れど、仙酔島せんすいしまの名こそはめでたさや、美しや。それらの島々を前にしてゐる鞆は、げに、世にも珍らしい良港である。而うして、その幼稚園は、不斷に波の音も聞くかまばかり、狭い鞆の町ではあるが、その幼稚園のシンボルには、海に野菊をこりたいといふ。海に幼稚園児、野菊に幼稚園児、その結合の六かしさが、まづ作歌に苦心を要するのであつたけれども、二十年ではない、もう二十五年の久しき、只、一つ。ニコ／＼ピン／＼の一本槍でゐる私は、海にいへば波、また、船であるところから、海の波をこえる船を以て、まづピン／＼の活動をあらはさうとした。即ち、鞆の港の出船入船多くの中に、はいつて来る船の安心、やすみゆるみ、やがて、ねむりを誘ふ心持よりは、出て行く船こそは勇しくもあり、緊張してをり、そして、活動してゐるので、小さな船も、大きな船も、出船にしてみました。しかも、波をたて、出て行く船、また、波を乗り越えて出て行く船の二つにした。これは、對句にしても面白く、事實、鞆の港の波戸場を廻つて、仙酔へ行く―それは必ず、遊びに行くにきまつてゐる程、仙酔島は、のびかな島であり、近い島であるので、波もない鏡の様な海面であるので、「波たてて」であるが、南、多度津、西、尾道へ、更に遠くへの船は、沖へ出て行くにつれて「波こえて」である事が多いのである。

野菊の素様なその色、また、その形もさる事ながら、その可愛さは、まことに有つてもかはらない。如何にも靜かな花である。その咲くや、足らぬところなく花瓣を開ききつて、ゆるみのないのも嬉しく、野路に咲いても、花瓶に挿されてゐても、めづべき花である。それが鞆の幼稚園のシンボルの一つにえらばれてゐるのは、鞆の縁故が、海に深いほどの結合ではないであらうけれど、幼児には、ふさはしい。そして、もし、海が、波が、波をたて波をこえゆく船が、男性的ならば、花の野菊は女性的でもあつて、幼稚園々歌に取り入れるのに、まことにふさはしいものであつた。そこで、鞆の園児にまつては、遠足の時なき近郊の野路に、この一輪を見出した時、「僕の花」「わたしの花」として、何んかに懐しく、嬉

しく取りたい花であらう。それを思つて、幼稚園の先生は、秋は末まで、しほれるまで、花瓶に、一輪つゝを、絶えさせないであるであらう。さて、その色を、空の星にたぐへ、あの、うすい色彩を、誰か繪具で染めたのかを問ふのは、過ぎた事にも思はれて、恥しい。

一、小さなお船は 仙酔へ

大きなお船は 遠方へ

静かな海に 波たてて

荒れてる海の波こえて

いさましや

いさましや

二、野菊が 野路で ニッコニコ

野菊が 花瓶で ニッコニコ

空から 星が 落ちたのか

繪具で 誰か 染めたのか

やさしいな

やさしいな

2、 東京市 品川区 瑞穂幼稚園々歌

瑞穂の國の、豊葦原の、やつ國、めでたや榮ゆく大御代に、瑞穂幼稚園の園長土川五郎先生還曆の賀を祝ふ時、私は、

その賀の祝歌にかへて、園歌を獻する事にして、さて聞けば、

稻穂をあしらつた鏡に、鳩をまらせてあるのが

本園のメダルである。そこで、鳩、稻、鏡の三つに分けてみた。

一體、幼兒の歌に、三節は長すぎるけれど、これは仕方がない。三者中きの二つを選んで不足不可。その爲に、せめて、生々しく、各節に、「瑞穂幼稚園のみんなのやうに」を反復して、安心して高唱出来る様に工夫した。さて、鳩の第一節の

「仲よく きぶ鳩 あそぶ鳩 元氣が いゝな やさしいな 瑞穂幼稚園の皆のやうに」

は、たしかに、よいが、稻穂の第二節の

「日本の大事な寶です 瑞穂幼稚園の皆のやうに」

は、子寶でもあるから、まだ、よいとして、鏡の第三節は、むづかしい。

「はれます 光ります 何でも姿を うつします」

は六かしい。幼兒は、園兒は、曇つてゐる事はない、それこそ、いつも、ニコニコ、いつもピンピンである。いえ、時には、べそをかいたり、泣いたりしてゐます、ミは仰せたまふな。幼兒のべそかきや、泣き蟲は、實は、心のまゝなるべそかきであり、あーん／＼と聲張り上げて一生懸命に、全力をあげて、泣くのであるから、大人のべそや、大人の涙ミちがつて、最も積極的である。からして、幼兒園兒には、晴曇はない、ミもいへるが、それは、ちこ、こちつてであらうので、やはり、幼兒園兒にも曇はあるとして、さて、

「何でも 姿を うつします」

こいふ精神こそは、六かしい。心の鏡を磨くこいふ事は、小學生も低學年には分りにくい。しかし、しかしながら、この文句によりて、この歌詞の反復によりて、不知不識の裡に、「何物か」を感受させては置きたいものである。そして又平素は、此の第三節だけは省いて、最も天下泰平に、

「元氣がいゝな やさしいな」

「日本の 大事な 寶です」

こ悦んでだけ居らせてよいを考へてゐる。

さて、實際は、さうしてをられますか、土川先生。

一、野山に 海に 大空に

輝やく陽を浴び

よろこんで

仲よく 遊ぶ鳩

元氣がいゝな、やさしいな

瑞穂幼稚園の

みんなのやうに

二、春夏秋の雨風に

日和に のびては

花つけて

豊かな 黄金の稻の穂は
日本の大事な寶です

瑞穂幼稚園の

みんなのやうに

三、夜晝たえず 身につけて

鏡は 磨けば 磨くほど

曇りは はれます 光ります

何でも 姿を うつします

瑞穂幼稚園の

みんなのやうに

3、愛国婦人會の江東托兒所の歌

隣保館での托兒所の歌である。行つてみるに、その室内には、小鳥の繪が多く、小鳥の玩具も目についた。善哉々々ここのモットーは、「鳩のやうに」でなくて、

「小鳥のやうに」

こいふのである。即ち

「輕快に」

こいふのである。私からいへば、『いつも、ニコ／＼いつもピン／＼』である。さういへば、小鳥は、雀でも、カナリアで

も、凡そ、幼児の友達になつてゐてくれる小鳥は、全く、幼児と同じく、少しも、靜止してはをらないのである。そこで、私としては、考へなくてはならなかつたのが、「輕快」はよいにしても、似て非なる「輕卒」の陥入であつた。輕卒に陥らないやうな輕快でなくてはならないこゝであつた。そこで、敢て、

「小さな あんよ で 枝から 枝へ」

さいひ、重ねて

「小さな はね で 大空 高く」

を強調してしまつた。足も翅も小さいけれど、「枝から枝へ」、また「大空高く」、であり、特に、

「身も 輕々こ」

たり、さぶばかりでなく、

「こび かふよ」

をしたのであつた。

この心用意は、さうしても必要であつた、こいふのは、個人主義の發達しないではをれないのが、都會生活の、悲しい事實であるので、ひこり「こび」のでなくて、友だちも、「こびかふ」をしたのであつた。小さな足に、力をこめて、小さな翅にも力をこめて、なのである。

第二節も、同じ心から、まつ

「小さな目ん目で、物 よく 見分け」

ました。小さな目でも、よく、物を見分けなくてはならない。恵まれない境遇の幼児が多い此の托兒所である。そこに集

る多くの幼児の將來を思ふに、男兒にも女兒にも、極めて誘惑が多い。それを判断し、識別する事が、極めて必要である。その心を、小鳥に發見して自らのを喚び起さしたのである。

次には、小さい嘴ながら、

「こゑ はり上げて」

である。よいかげんではなく、全力を上げてである。前述の、べそかきなぎも全力を上げての時、その眞剣さには、うたれる。聲の限りなる小鳥の聲には、生命がある。かくて、

「よろこび あそび」

である。こゝにも、歌の心は深いものがあるのである。即ち、

「全力をあげるもの、よろこび」

であり、やがて、それが、慰安にもなるところの、「あそび」の心でもある。

由來、讀書百遍もすれば、その中に、その意は自ら通ずるのである。よし、稍々難解であつても、論語讀みの論語しらすにならずに、すむのが、反復の賜である。園歌は、よし、少しは難解であらうとも、在園二ヶ年の中には、何者かサマシツクを感受する事に、意義深いものがあるこゝを既述した。事物の判別もか全力傾注もか、六かしい事は、今すぐ分らないにしても、少くとも、小鳥が、

「こゑ はり上げて よろこび うたひ 歌ひ さへづる」

こいふ事は、何んな幼児にも本當である。それで、よい。それで、澤山である。それ以上は、望まないでも、よいのである。

一、小さな あんよ で

枝から 枝へ

小さな はね で

大空 高く

身も軽々こ 小鳥はごぶよ

さびかふよ

二、小さな 目ン目で

物 よく見分け

小さな くちで

こゑ はり上げて

よろこび あそび

小鳥は歌ひ さへづるよ

まごころに、方今、全国的に、歌謡の洪水である。殊に、各地の花柳界の爲に新作せらるゝまごころの「新小唄」や「音頭」の類の多いことである。「甚句」さへ名を替へて、新しいものの好みの、日本人の缺點を、いよゝゝ助長させようといふチクオンキのレコード屋の商略につりこまれて、新譜レコードを買はされ、都會では、店頭で、軒下に大文字にかくれてある歌謡を仰いで、店内からのレコード演奏に聞きまれさせられてゐるのが多いのである。自ら、ポカーンと口をあけて、

何さいふ情ない圖であらう。

しかし、大人は、まだ他に、それによつて教はれるところが、又別に、教はれる物もあるのである。しかし、凡てが凡てであるところの幼児―何事も、ひたぶるであり、眞一文字であり、全力をあげなくてはをられないところの幼児―一が一人であり、十が十であるところの幼児にまつては、ボカーンミ口は開けないでも、眼を輝かしながら、聞きこれるものが、「よい、よい、よい、よい、よい、よい」では、困るのである。必らず、

幼児自らの歌

を、聞かして貰はなくてはならないのである。幼稚園唱歌、幼児唱歌―ほんこの童謡。名は皆よい。けれど、さて、六かしいもの、それがコドモのものを作るこゝである。

六かしい。しかし、作らなくてはならない時、作つてやらなくてはならない時、今こそ、卑俗な歌謡の洪水の渦巻の中に、引き入れられようとしてゐる幼児を、正しいコドモ自らの歌謡の安全地帯へ引き戻してやらねばならない時が、今なのである。

所謂、童謡の中に、十年、十五年昔、センチメンタルなもの、續出に對して、聲を、からし、筆を、へらして、ニコピン主義を絶叫し鼓吹した私達は、近頃は、また、あまりに、鳴物入の卑俗な童謡の多いのにあきれてゐる。

園歌の制定―甚だしき園長先生方へ、聲を大にしたいところである。(未完)



月夜の太鼓 (幼児童話)

内 山 憲 堂

四〇

先生がこの間新聞を見てゐますと、お婆さんが大きな袋を持つて立つてゐるお寫眞が出てゐました、その横にたぬきさんがチヨコン坐つてゐます。このお寫眞は、お婆さんが堤を歩いてゐるきたぬきさんが怪我をしたのをたすけて、つれて歸つてあげたのですつて、面白いでせう。たぬきでも可愛がつてやればとてもよく人になつくものですよ。今日は、狸さん、花子さん、太郎さんのお話をしませうね。

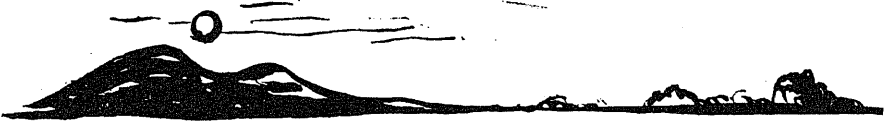
二

あるところに太郎さん、花子さん二人の兄妹がゐました、太郎さんが兄さんで、花子さんが妹さんなんです、二人はとても仲がよくてここへ行くのにもいつも一緒でした。

ある日のこと二人でお山へお花をこりに参りました。

「花子、お山の上は随分澤山お花があるね。兄さんは青い花をこるよ、花ちゃんは女だから赤いお花をこり」

「え、じゃ私赤い花をこりますわ」



太郎さんは青い花をさがして取り始めました、花子さんは赤いお花をぎり始めました。

「随分あるね、そら青い花、こゝにも青い花、……あそこにも青い花……」

「赤い花も随分ありますよ、そら赤い花、こゝにも赤い花、……また一つ……こんなきれいなもの……」
太郎さんは青い花をぎりながら谷の方へ行つて仕舞ひました。花子さんは赤い花をぎりながら、だんだんお山の上の方へ行つて仕舞ひました。

花子さんがヒョイと頭をあげて見ますと、太郎さんがゐらないでせう。

「おや、兄さんはどこだらう……兄さん。あれ、兄さんがゐなくなつた、兄さん、どこへ行つたのでせう……兄さん、おにいさん——」

いくら呼んでも兄さんはお返事をしません、もう、うす暗くなつて、夕方です、花子さんは、こまつて仕舞つて、ぎんぎんかけ出しました。けれど道の間違へたのでせう、お山の一番頂上へ出て仕舞ひました。

「あら、お山の上だわ、道の間違へたのかしら……こまつたわね、ぎんぎんませう」

花子さんは、もう、泣き出しさうになりました。すると花子さんの前へコロコロところががつて来たものがあります。よく見るさね、小さい子供の狸さんです。

「おや、まあ、可愛い、狸の子供だこゝろ」

狸の子供は、花子さんの前へ来てチヨコンと坐りました、そして前の足を花子さんの方へツミ出しました。

「まあ、さうしたの、足がいたいのだ……」

花子さんが足を見ます。足の先に、きげがさつてゐます。

「あ、これが痛いのだ、さつてあげませうね」

花子さんは、狸の足のきげをぬき取つてやりました。狸はうれしそうに、三べんべこんべこんべこんお辭儀をしました。

花子さんは、お腹はすいて来るしお家へは歸られないので心配さうな顔をしてゐます。狸はごんからか、おいしい果物を取つて来て花子さんの前へ持つて参りました。花子さんがそれをたべます。さつてもおいしい果物です。狸は花子さんをなぐさめるつもりでせう、後足で立ち上つて、お腹をポンポコポン、ポンポコポンさたくきながら踊つて見せてくれます。その内に日はくれて夜になりました。大きなお月様が森の上へボカリとお顔をお出しになりました。

三

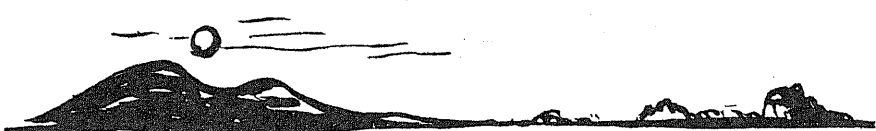
兄さんの太郎さんも、花子さんを見失なつたでせう。「花子はきつにお家へ歸つたのだらう」と思つて家へ歸つて來ました。そしてお母様に

「花子は歸つて來ましたか」

と尋ねます。お母様は

「いやまだ歸りませんよ」

と、おつしやいました。太郎さんはさつても心配になりました。



「こまつたな、さうしたんだらう、きつこまだお山にゐるにちがひがない。よし僕、迎へに行つて
来やう」

太郎さんは、玩具箱の中から太鼓をさり出しました、そして又お山を登り初めました。

「花子さんやーい トントントン」

だんだんお山の奥の方へ登つて来ました。

「迷子の迷子の花子ちゃんやーい、トントントン…花子ちゃんやーい トントントン」

するさ、さここかで「ボンボンボン」の音が聞へます。

「おや、おかしいな、花ちゃんやーい トン トン トン」

「ボン ボン ボン」 (小さな聲で)

「おや、面白いな 花ちゃんやーい トコ トン トン」

「ボコ ボン ボン」 (小さい聲で)

「あれ、太鼓の通りだ、よしあの音の方へ行つて見やう、花ちゃんがゐるかも知れないよ」

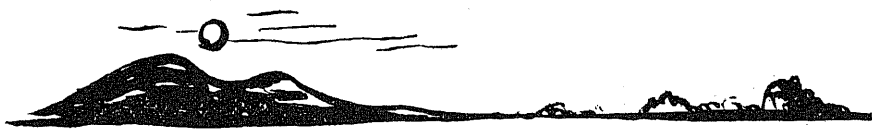
「迷子の迷子の花ちゃんやーい トーン トーン」

「ボーン ボーン」 (少し大きな聲で)

「面白いな、トコ トコ トン」

「ボコ ボコ ボン」 (次第に大きく)

「トトンのトン」



「ボコンのボン」(少し大きく)

「トトン トントン トコ トシ トン」

「ボコン ボンボン ボコ ボン ボン」(稍、大きく)

「トシ トン トン」

「ボン ボン ボン」(大きく)

太郎さんが、お山の上を見るに、小さい狸さんが、腹づゝみを打つてゐます。その後の方に花子さんらしい子供がゐます。

「あれ、花子だな……花ちゃん……」

「兄さんーん、こゝですよ」

太郎さんは、いきなりかけ上つて、花子さんのところへ参りました。

「よかつたね」

「兄さんありがたう、よく私がこゝにゐるこゝがわかりましたね」

「僕が、太鼓をトントントントンに打つて、ボンボンボンに聞へるから、その音をたよりに登つて来たのだよ」

「この狸さんが腹づゝみを打つてくれたのですよ」

「狸さん、ありがたう、さあ、花子、母さんが心配してゐらつしやるから歸らう」

太郎さん、花子さんとは、大急ぎでお山を下りてお家へ歸りました。



四

二人がお山の方を見ますと、丸いお月様の下で狸がさもうれしきうに

ボン ボン ボン ボンコボン

ボンボコ ボンのボン ボン ボン

ボン ボン ボンボコボンの

ボンボコ ボンの ボン ボンボン (證誠寺の狸囃子の曲で)

と腹づゝみを打つておぎつてゐるのが見えました。

實演上の注意

一、太鼓の音と狸の腹づゝみの音が反復するところがクライマックスであります。リズムカルに同じ調子の反復をして下さい。

二、狸に言葉を云はさすにすみませぬならこのまゝ話して下さい、極めて小さい子供の時は人間の言葉を云はせて下さつても結構です。

三、十二三分の話です、ゆつくり、技巧をあまり用ひず、自然に、一人一人の子供に話すやうな氣持ちで話して下さい。

四、この話は十二月三日の新聞に出てゐた、前足を鼠捕りにはさまれた狸をお婆さんがたすけて袋に入れて、つれて歸つたと云ふ記事にヒントを得、「迷ひ子のおのが太鼓で尋ねられ」と云ふ川柳の句の想を加へて作つたものであります。

五、童話は子供の生活であります、童話は私たちの生活の中にも發見されるものであると云ふことを忘れないで下さい。

日本幼稚園協會主催

保育項目の配當に就ての座談會

(昭和九年十二月六日 於附屬幼稚園)

出席者(五十音順)

近藤なほゑ	渡邊きよ
柴田みどり	和田實
白根美智子	主催側
土川五郎	倉橋惣三
徳久孝	及川ふみ
留岡よし子	新庄よしこ
坂内ミツ	菊池ふじの
檜山京	小島光子
堀七藏	村上露子
水野世志	小島その
渡邊えん	羽生京

(倉橋) 今日夜分、殊に昨日から急に御寒くなります。

た所を御招きしまして、却つて御迷惑だと思つて居ります。

せめて會場でも少し眼先きの變つた處を云ふ事に就て、

會場掛り、非常に苦心しましたが、何分暮に近いので市内

一流のクラブ、レストラン、ホテル皆な塞つて居りますの

で(笑聲)、残念乍ら手近な處に御招び寄せする様な形にな

りまして相濟ませんが、その代りまあ御宅の御部屋で御話

をして居る様な御心持で一層御樂に御話頂き度いと思ひま

す。御馳走の方も食事掛り色々苦心して居りましたが何分

にも餘り美味しいものを澤山差上げます血液の活動が盛

になつて後でいゝお話も伺へない云ふので、其處らの程

度を色々考へまして、口頭活動の方を澤山して頂き度いこ

思ひます。これでも相當苦心致しました。(笑聲)

今日の題目ご申しますが、保育項目の配當、配列、云

ふ様な言葉を使つてありますが、これは極く根本の理論に云ふ意味からも、それを實際に何う行はれて居るか、云ふ事に就ても、随分色々の御意見があらうと思つたので、我々自身も迷つて居りますし、殊に多くの幼稚園で此處の所で第一に迷つて居られる様な事を聞く事が多いのであります。其處で御意見を伺ひまして一つ大いに研究したい云ふ所から、斯ふ云ふ題が出ました。此の問題に關する皆さんの御意見はお互が大變に役に立ちますと同時に、廣く世間の幼稚園にも参考になり得るかと思ひまして速記の方を煩はして書いて頂く事にして居ります。ご申しますご大變表面の話ではありますが、これは編輯掛りの企らみでありまして、何分にも一月號の雑誌を賑やかして頂き度い云ふ所から折角のお話ですから皆な速記さして雑誌に載せさせて頂き度い云ふのであります。さう云ふ譯でありますから今日は充分この問題に就きまして日頃の御考、御實驗、又御理想、時にはそれから色々枝が出、花が咲き云ふ様に何處へ飛びましても宜しいのですが、充分一つ名論卓説を次ぎから次ぎへ伺はせて頂き度いと思ふ、唯餘りそ

の名論卓説で人を驚かしてやらう、普通の事は言ふまいなんて考へていらしつて唯考へていらしつて時間が経つて、

その間非常なる思想上の活動は行はれて居りませうが、速記には出来ませぬ。(笑聲) まあ八時頃迄に思つて居りますが、其の間はのべつ話して頂きまして、のべつ筆記が出来る様に、これが編輯者からの御願ひでございます。御挨拶云つても内輪の話ではありますが、何卒一つ宜しく……

座談會なるご座長、司會者云ふ様な事になります、何方か一つ願ひませうかな。

(土川) (堀) 何卒々々。

(倉橋) 今日は私は主人にして……御馳走の仕度で(笑聲) 疲れて居りますから……

(堀) まあ何卒。

○總論

(倉橋) それじや、まあ兎に角進行掛りを致しませうか、先づこの問題の全貌に涉りまして全面的なお話を伺つて

おいた方がそれ／＼の問題に行くのに都合がいゝと思ひます。和田實さん、殊に今日は中座してお歸りになります。云ふ事ですから、ごん／＼お話し下さいませんか。お名前通り實のある所を一つさうか。

(和田) それじや皮切に申しませう。一向名前の通り實のある：實があるんでせうけれどももう萎びちやつて、何しろもう数十年の骨董品ですから(笑聲)。さう召上される様な滋養分はないだらうと思ふ。兎に角遠慮ない所を申上げておきませう。實を申上げるに餘り大した考はないんです。唯長い間やつて居つたに云ふだけで今こんな風にして居るか、云ふ事だけ申上げてそれで御免蒙るより仕方がないだらうと思ひます。

それはこの保育項目に云ふものが私の考ではあれは子供の遊戯生活の分類であると思ふのです。子供の活動に云ふものが遊戯に總稱されたに云ふ意味で、それが學習に發達し、作用に發達して行く、云ふのが人間の活動の發達である。斯う云ふ立前から見るに、子供の活動に云ふものは總稱して遊戯に云ふ事が出来る。さう云ふ立前から考へて遊

戯の分類を考へる。さう云ふ風に考へて來るに、この子供が毎日の遊戯活動の上に保育項目の凡てのものを表はして居る、云ふ事は當然だと思ふ。毎日必ず遊戯の全體に涉つて生活をして居る。斯う思ふのです。その意味から言つて保育項目に云ふものは毎日繰返される、云ふ事が當然の事だらう、云ふ斯う考へて居ります。これは餘りに嚴重すぎるに云ふ御考への方もありませんかと思ひますが、毎日の子供の活動の中に大體の遊戯の種類に云ふものはきつ、出て來ると思ふ。ある市内の私立幼稚園ですけれども、其處の幼稚園では毎日先づ觀察、又はお話から始めて保育項目を一日の中に必ず繰返すに云ふ處があるさうです。そして五つの項目を毎日同じ順序で繰返す。その間に充分なる遊び時間を交へないで、ずつとその、學校に於ける課業の様に、談話の次は唱歌、唱歌の次は遊戯、遊戯の次は手技に云ふ様に順序を決めて毎日毎日繰返して自由な遊び時間をおかないで、それを續けて居る處があるさうです。随分亂暴な話ですけれども、何う云ふ譯でさう云ふ方針をこつたか考へて、若しその根據が私の考へる様に子供の生活は

毎日繰返されて居る、その繰返されて居る毎日の活動の中に子供の爲すべき遊戯の種類は自然出て来る、斯う云ふ風に考へてこれをやつて居るに似たならば、一寸面白い所に氣が付いたと思つて居る。無論亂暴な話ですけれども、實施すべき事ではないですけれども、その幼稚園のやつて居る意見には共鳴點がある。その共鳴點云ふのは毎日繰返されてもいゝものだといふことです。まあ大體さう云ふ風な考でなるべく子供の毎日の遊戯活動の中に凡ての遊戯の種類が萬遍なく出て来る事を望む。斯う云ふ方針が私の今迄まつて來て居つた方針なんです。それで毎日大抵午前と午後と一度づゝ指導的の何か仕事を、お話をするとか遊戯をするとか作業をするとか何かこの指導的の事を午前に一度と午後に一度する事に私の幼稚園では習慣になつて居る。その爲に五つの保育項目が凡そ毎週二度づゝ出て來る事になつて居る。唱歌が二度と遊戯が二度と云ふ風に指導的にやる事が二度づゝ出て來る事になつて居る。さう云ふ様な勘定でやつて居ります。そしてまあ一週間の中に保育項目が二度繰返される様な事になつて居ります。そんな様

な大體方針でやつて居ります。尤もこれはその時の計畫しました主體が異なるに従つて多少片寄る事があります。或は作業に片寄る事があり、談話に片寄る事があり或は唱歌遊戯に片寄る事がありますが、それはその次の週でそれを補つて行く、と云ふ様な事にして大體はさう云ふ風な方針でやつて居ります。まあ申上げる所は約めて申上げる所はそれだけです。前には材料の様なもの、内容を一つの遊戯とか唱歌とか云ふものの内容迄も一年分位豫定して居つた事もありますが、今は餘りさう云ふ豫定を作らないで大體さう云ふ方針でその時の遊戯の主體によつてやつて行く、臨機にやつて居る。大體申上げる所はそれだけです。

(倉橋) さうするに大體一つの保育項目が毎週二度づゝ出る、と云ふ事は、色々さうでない場合もあるし、さうでない場合もあつてもいゝが大體其處を狙つてやつていらつしやるのですか。

(和田) 指導的にやるのが午前一度午後一度一週に十一回、土曜が半日ですから十一回あるのです。五つの項目のものが二度づゝ出て來て丁度一ぱいになる譯です。中に三

度位出るのがあつて丁度十一になる。そんな風にして大體出て来る様に豫定して居る。

(倉橋) さうするに各保育項目はどれが多いとかどれが少いとか云ふ様な事のない、平均した配當をしていらつしやるのですか。

(和田) 大體さうです。

(倉橋) 分量は？ 一度の分量は？

(和田) 材料によつて違ひ、子供の大きさによつて違ひますが十五分乃至三十分位、何時も行ふ事になつて、小さい子供は時間が少い大きい子供は少し長いと云ふ事になつて居ります。

(倉橋) 坂内先生何うですか。大いに今のお話によつたつて見る事はありませぬか？……(笑聲)……

(坂内) 自分のして居ります事より申上げる事もないのですが、お早く御歸りの方から何卒。私は何時迄も居りますから。

(倉橋) 二度も三度も願ひますから。

(坂内) 本當は偉い方が後から出るに云ふ事でございま

すけれども、お早く御歸りのお方から……(笑聲)……

(倉橋) 皆さん泊る事になつて居ります。(笑聲)……大體今の様な……

(坂内) 午前と午後一回づゝと云ふ事でなく朝の内の方に續けて——續けて——幼稚園は凡てがさうだを感じたものでございますから、さう考へまして朝の中の方が纏りがいいので十五分位でお話が済みますと、手技なんかはそれ續けてやつて了つた方がよくないか。兎に角朝の中に續けてやつて居ります。さうして粘土の様なものを午後にする事もございますけれども、午後の長い時、二時のお終ひの様な時は使ひますけれども、さうでないに午後は忙しいでございます。お遊戯をして手技をするとか、唱歌をして手技をするとか、私の方は手技が少し多いのでございますから續けてやつて居ります。私の方では一つの幼稚園を少し人数が多いのでございますが一つの家族を見做して居ります。こちら(附屬幼稚園の意味)一寸趣きが變つて居ります。お遊戯なんかは總掛りでやります、そんな關係もございませぬか、十時迄、せめて十時半迄の方が子

供の集注力がいゝ様でございますから、觀察談話をかをし
ましても、一寸その態度を出したら、何かして出来る様な、
手技を續けてやつて居ります。其處に行かないものかと思
つて前から考へてやつて居ります。この間もある方がいら
しつてお伺ひしましたら、矢張り十時前の方がいゝ仰有
つていらつしやいました。

(和田) それは大變いゝお考です。朝の中に續けてす
る云ふ事はいゝ事です。

(坂内) すつゝ續けてやつて居ります。

(倉橋) 今のお話で比較的手技が多いに仰有りましたが
その配當は？ 其處は何うですかね。

(坂内) 六日の中、觀察談話唱歌遊戯その中を……二回
にはなりませんけれども、朝一回それからそれに續けて手
技を毎日致します。手技の種類は色々紙細工とか粘土細工
とかの様なものをやつて居りますが、それはその日程は私
の方は一週間づゝにつけて居ります。來週のものは今週、
土曜前に豫定し、内容は違つて居りますが毎日手技をして
居ります。大體そんな風に……。

(倉橋) さうするに手技を毎日やる主義(笑聲)でいらつ
しやるのです。その外に色々のがこんな風に配當を
されますか。

(坂内) 大抵遊戯が二回唱歌が二回それから談話觀察を
云ふ譯でございます。觀察に續けて談話、唯、談話は三つ
も四つも一遍にするかも知れませんが、唱歌も觀察が繋る
云ふ風になります。觀察はまあ毎日そんな場合でも觀
察させる心算で居りますが、特に氣を付けませぬに觀察が
抜け易い。出来る事であつて抜け易い様でございますから
殊に氣をつけまして一回させる様な心算で居ります。それ
が談話まつく事も唱歌まつく事もありません。遊戯二回唱歌
二回談話二回觀察二回……お遊戯も割合に新しいものを
教へる様に、一組だけで致します。一回は全體集めて樂し
く遊ぶ云ふ様にして居ります。お遊戯も一回の中は成可
く新しいものを教へ、一回は練習する。大きい組だけは男
女に分けて居ります。これもいゝか悪いか解りませぬが、
男子と女子とお遊戯だけ分けて居ります。一寸二組、大抵
同じ年で出来るものですから三十人づつ二組……一寸今三

十人越えて居ります。半数にします。さうして男子の方は男子だけで致します。新しい教材の時は遊戯は競技の様な事をさせて行く。男性的な事をさせて居ります。

(倉橋) 一杯言つても、私は御飯を三度食ふ、云ふのと同じですが、この中に在らつしやる何方か、同じ三度でも私の六度分位召上る(笑聲)。其處ははつきり解らぬのですから。茶碗ならちやんこ解るのですけれども、斯ふ云ふ事じゃ解りませぬ。多くても少くとも一度云ふのを一単位、云ふ考へてお話しして行きませうかね。

(坂内) 此方から豫定を立てゝするのがそれでございませぬ。自由に遊んで居ります時にはその時でも随分自分の好きな事を、好きで致して居ります。それは此方からしましな以外に何でもさせませぬ。させます事に就て随分迷つて居ります。少しも積木はしませんで飛行機ばかり作つて居る云ふ、その課し方が難しいので、何回云ふ回数に入れます時、自由にその人の意志から始つたものは別にして此方の豫定するだけを……。

○指導本位的か

(倉橋) ですから時間が長くても短くても、一単位をしまして、その他の所謂遊戯の中でするのを範圍外にして、……その意味は言ひ換へれば保育項目配當云ふ事は、まあ極く平らな言葉としては、矢張その和田さんの先刻仰つたように、指導的なところをいふのでせうかね。

其處でその問題に轉じて何の位、所謂指導本位的保育項目をお使ひになるか。指導本位よりも自由遊びの中で自ら出て来る所に重きをお置きになるか、まあ和田さんのお話で言へば、保育項目は遊戯生活から出たものに他ならないからその基の所に保育項目が行はれて居る御覽になるか、分れたものになつた時に保育項目御覽になるか。又其處の所の問題も出て来ると思ひます。

(和田) 子供の生活の中に保育項目が出て来ると思ふのですけれども、それに任せて置く、全體から見ますと凡ての項目は行はれて居るんですけれども、個人々々を見ました時に偏しますものだから、偏しない爲には指導的に

此方から引張る事も必要、それをまあさう云ふ風に決めて居る心算であります。これを御決めになつた基は幼稚園時代の子供の心身發達に必要だ、ミ云ふので決めて下さつたと思ひますから、偏しない様に何の子にも一通りはそれをさう云ふ方面で發達させ度いと思ひます。決めた時間にやらなければいけないミ云ふ風になりまして……。

(倉橋) 其處で今のお二人のお話は色々異なる所もありませうが、和田さんの様なお考から出て坂内さんの様な御考から出たにしても歸着する所、保育項目を理論的には遊戯生活から出て居るものだけれども、幼稚園の實際としてお取扱ひになる時は一つくのものとして配當して行かう、ミ云ふ主義によつていらつしやるのですね。

所で何うですか。さう云ふお話を伺つて、それミ反對、ミ云ふミ喧嘩面ですけれども、それミ反對的な御考でやつていらつしやる處はありますか。白根さんの所はどんな風に其處らの問題は？。今の所に結びつけて。

○單位的にか生活的にか

(白根) 結び付きますか何うですか。私の方では大體豫定を一年分大きく立てまして、それを一學期に分けて、それを凡そ一月に分けて、一週間に細かく分けて居りませぬ。それで一つのまあ作業はこの月はこの作業を始めるとして居ります、それを折を見て順々にして行くものですから、一週間に大體何をするか、ミ云ふ事は全然初めから考へて居りませぬ。唯、今度この座談會の御通知を頂きましたから今年の分ミ昨年度分ミ何う云ふ風にして來たかミ云ふ結果を一寸數へて纏めて見たのでございますけれども、あのこれは一年保育の年長組ミ二年保育の年長組ミ年少組ミ三つに分けて今年のを調べて見ました。その本當の結果だけしか申上げられないのでございますが、四月から今迄の一週間に分けて見ますミ項目の配當の數は毎週々々全然違つて居てちつとも同なしのがないんでございます。唯一學期一年分をずつミ數へて平均して見ますミ大體、殆ど同なし數で表はれて來るんでございますけれども、そんな風になつて居るものでございますから。

(倉橋) それをもう少し詳しくお話しして下さい。

(白根) それでは一寸例を、年長組で私の組の子供のな
 んでございますけれども、四月の第一週間目には手技一談
 話四觀察無し唱歌遊戯三。第二週間目は手技四談話三觀察
 無し唱歌遊戯二第三週は手技四談話二觀察一唱歌遊戯三第
 四週は手技二談話四觀察一唱歌遊戯四さう云ふ風に毎週變
 つて居りますけれども、それを一學期間を平均して見ます
 と手技四談話二觀察一唱歌遊戯三となつて居ります。二學
 期もさう云ふ風にして一週間づゝ出しましたのを平均しま
 すと云ふと、同なじ様に手技四談話二觀察一遊戯唱歌三と
 なつて居ります。それを同なじ年長組でございますけれど
 も二年居ります子供に就て調べましたら、矢つ張一週づゝ
 の全然殆ど同じになつて居る週はないのでございますけれ
 ども、一學期を平均致しますと一年保育の年長組、手技四
 談話二觀察一唱歌遊戯三、二學期も同なじになつて居りま
 す。二年保育の年長組になりますと少し變りますけれど
 も、矢つ張同なじ様にして調べまして手技が三談話四觀察
 一唱歌遊戯三、それが殆ど一學期二學期同なじ様に表はれ
 て居ります。

(倉橋) さうしますと、私頭が悪いからもう一つ伺はな
 いとつきりしないのですが、初めから計畫を配當的にな
 さらぬと云ふ表はれ方は原則としては大變に……。随分今迄
 のお話と違つた事があればあるものです。ずつとそれをさ
 せて御覽になる……。流石に白根さんだけあつて、分け
 登る籠の道は變れども……。其處には多少のあれですか。餘
 り片寄らない様に、からくり、仕組、インチキ、生活を見
 せかけて實は、と云つた様な手がありますか。自然にさう
 旨く合ふと云ふ點ですね。自然に。(笑聲)。

(白根) 本當に偶然に斯うなつて居るんでございます。
 餘り私の組で前學期のも今學期のも同なじに出まして、他
 の人の組のを調べましたら同なじになつたので、昨年度の
 も調べましたら同なじに出るのです。

(倉橋) 偶然が度重なつた時に當然と言ひますが、さう
 しますと今の様なやり方でインチキがないと仰有るごすれ
 ば、子供の自然に任して置くに云ふと其處へ來た、と云ふ
 とそれは何を意味するか、と云ふと、これ實に考へなければ
 ならぬ事でありませう。偶然と仰有るごすれば貴女の幼

稚園ではそれが兎も角も必然云ふか、當然なつたので
すね。その手技がいくつ、談話がいくつ、觀察がいくつ
云ふ其處の所は若し貴女が單位的に配當しやう云ふ立前
をおこりになつた時の配當比例も思召は適つて居りま
すか、大體？。その二回つゝ平均云ふ様なお話から見ると。
偶然揃つて居る所は何ですけれども。割合は？。

(白根) 大抵自分で思つて居るのにも合つて居るんで
ございますが。私大體幼稚園に這入りました初めから唱歌遊
戲、唱歌遊戲は續けて大抵一緒に致しますが、それは隔日
一週三回、お話は此方に居りました頃、自分で一回して實
習生にも一回させて大體さう云ふ風にして居りましたのが
今も習慣になりました二回位したいと思つて居ります。手
技の方は別に、手技の方だけはちつとも考へて居ないんで
ございますけれども。談話は少くとも一回は此方で指導的
に扱はうと思つたものを必ず一つはさせ度いと思つてして
居ります。さうしますと、唱歌遊戲談話は大抵自分の思ふ
通りになつて居るのでございますが、唯手技の方が四回出
て居りますのは大抵毎日二つ位づゝ何か續けてやつて、土

曜日は一つ位、ですから全體で十一回になりますので、丁
度手技が四回になる三十一回になるのでございます。大抵
思ふ通りになつて居るのでございますが。

(倉橋) 和田さんが御歸りにならない中にもう一つ捉へ
ておき度いと思ひますが、伺つて居る三和田さん坂内さん
單位配當主義で、今の様な何云ふのですか！それとつ
つそのポイントに於ては、原則は違つて、保育項目に對す
る態度がね。すつと深く又考へて見る三保育項目も自由生
活の中から出たものだ云ふ事は今の保育項目を單位的に
はつきり見做す見方が如何にも遊戯生活から保育項目が
出て居る事を側面的に立證して居る様な事で、其處では大
いに理論の根本に於ては合致して居る所がありますが、其
處で一週ちやん配當的に行つておいでになる様な立場か
ら今の様なのを――御遠慮はないが――御遠慮なくやつつて
下さいまし。(笑聲)

(和田) 今のを伺つて見る三表だけは一週間に二回さか
三回さか云ふ様に配當される三決めては居られない様です
けれども、然し矢張大體心構へをもつて居られる様ですね。

語りそれを露骨の申上げたゞけです。今、白根さんに伺つたのもその方は自分の心構へ、これは内證にしておいて云ふ風に。

(倉橋) 其處を私も突詰めたのですがインチキでないといはれた。(笑聲)

(和田) 心構へをもつて居られ、斯う云ふ風に一つの課程になつて居るに、實際の仕事を毎日繰返して行く上には何か心構へを持つて居なければ安心してやつて行くに云ふ事は出来ない。まあそれをほんの心構へにして持つて居つて實際の子供の活動の要素、それに當嵌めて行くに云ふ様なやり方をして結局は同じ事になると思ひます。私が二回凡そ二回さ決めたからと言つて學校の課程の様に必ず二回やるのではない。ですからその時の主體によつても違ひますし、或は年中行事によつても違ふし天氣の加減によつても變更されるし、實際の生活に云ふものに則してやつて行く爲には臨機の處置をしなければならぬ。ですからさう云ふ所から行けば結局は同じ事になると思ふ。さう云ふ様に大體の心構へを持つて居るに云ふ事は課程として已むを

得ない事かと思ふ。今のお話を伺つても私の方針を大して違つて居ないと思ふ。

(倉橋) 和田さんは和田さんでいかぬ。ア、和田さんでやつて下さい。座談會が沈んでいけない。對角線は最も(和田氏に白根氏の席が大机の對角線にあたつてゐる。)…

對角線的にこれを取扱つて座談會を賑やかして頂きたい。何うですか、心構へに仰有つたから其處は何うです。矢張りあれですか。子供の生活から出るが儘に、斯う言ひ度いところでせうけれども、まゝに、ですか？遊戯唱歌二回さか三回さか、何う云ふ機會を捉へていらつしやるのですか。今日は遊戯をしよう、さしてしたのが二回…。

(白根) 一寸此處に出て居ります表で二回の事も三回の事も四回の事も五回の事も…それが雨でも降りましてお遊戯をしたいに云ふ様なきつかけに向いて來ました時にするだけでさう云ふ様な結果になつて參りました。

(和田) 多少今週は遊戯が少なかつたからしよう、云ふ様な事も交つて居りませうか。

(白根) 少なかつたから云ふ事は別に考へないので。

ざいますけれども、唯あの子供のしたいのに任せます。女の子になんか毎日しないを聞かせぬ。無理にさせる。云ふ事よりはしたいのを止めさせる事がある位でございます。すけれども。

(坂内) 私、倉橋先生にお叱りを受ける心算で参つたのでございますが……。

(倉橋) 私が?……(笑聲)

(坂内) 私も此の夏講習を受けて、終りの日には休みまして承らないのでございますが、随分苦んだ譯でございます。毎日色々皆なにも随分相談致しました。致しましたが、さうも相談して考へて見る。先生の御趣旨で豫定を立て、おく様な風でいけませぬが、好きな事をさせる。云ふ譯にも行きませぬし、手技を決めお話を決め唱歌を決め、それを決めさせよう。云ふ事になる。一つほかないのを代り合つて何うしても使はなければならず、先生の仰有る様に生活本位に中々参りませぬ。やつて居ります事は今和田さんが仰有つた様に何回して行く。云ふ、設定的に見えますけれども、心持がさうでない、随分協議をしたのです。

ども、それをやつて居りますが。

(倉橋) 何うかくれぐも私の考を本體にしてこの會をして居りませぬから。それでしたら又別に私特に御集りを願つて一場の訓辭をします(大笑)。今日はさう云ふ譯でありませんから……。

(坂内) さう云ふ譯ではございませぬが。

(倉橋) のみならず私も實は其處に迷つて居ります。惱んで居ります。柄にもないがね……。その惱んで居ります點は、今白根さんに和田さんが御問掛けになつた點で、實に私は面白く拜聴して居つたのですが、古武者が血氣に早る若者に向つていらつしやる様に面白く承つて居たのですが、其處の所は、私は自分自身として保育項目は云ふけれども、何れもこれも基を糺せば自由遊び。云ふ親から生れて来たものですけれども、その中で保育項目。云ふ一人立ちをし、元服してからも、親の方にしよつちう、くつゝいて居るものもあり、一人立ちのものもあり、五人の兄弟が其處らの意味に於ていろく違ひますまいか。例へば手技製作。云ふ様な事になります。これは自由遊びの製作

も指導した製作もちつとも違はない、親子一緒にやつても、

自分一人でやつても違はない。ところが唱歌遊戯になりま

す、鼻唄を唱歌にも出来ず、何だか手をぶらぶらやつて

居るのを遊戯とも言はぬと思ひますから、遊戯になつて來

るに其處の所にある五人の兄弟が差別をもつて居ると思

ふ。今唱歌遊戯を何うするか、云ふお尋ねに白根さんは

「いえ、その」云言つて居りましたが、實際はあれでせ

うな。打つちやつておいたら物を作り出した、作り出すべ

きプロジェクトの中に置かれて自由手技でも指導手技で

も……。つまり生活をインテンシファイして行くに較

べまして、唱歌遊戯の方は、手を動かして踊つて居るか

ら、ずる／＼に遊戯室に行くと言つた様な事が、空論的理

想論としては別として實際としては違ふと思ふ。やつぱり

自由遊戯の中から所謂、今日云ふ唱歌遊戯にもつて行くに

は、設定ミや言はん、心構へミや言はん、此方へ此方へ引

張つて行く様な事が遊戯の場合には少し違ふと思ふ。觀察

の場合は手技ミ遊戯ミの間にあるものと思ふ。一つ／＼に

就て其處らの問題を兩方に秀で、いらつしやるオーソリテ

イーに伺ひ度いと思つて居りますが、私なんかと生活々々

さいふのも自分乍ら生活本位に傾いた論だ云ふ事を承知

して居ります。其處でまあ保育項目をその關係に於て區分

した上でないかあの問題が本當は徹底して來ない。それは

何れ伺ふ事にして。何うですか、ガソリンカーに乗つて、

千葉からいらしつた渡部さん、其處の問題は。

(堀) その前に白根さんに聞き度い。唱歌遊戯、手技、

何回云ふ様には決めないけれども、一年間なり一學期の

總計がどれだけ、云ふ材料の方から必然的に回数が出て

來る様になつて居やしないか。

(白根) それは私……。

(堀) 一週これを何回やる云ふ事から材料を選ぶので

なく、材料を選ぶから必然的に保育項目が回数が決る。そ

れだから自然一學期通して考へる云ふミ、大體回数が決

つて來る云ふ様になつて來やしないか。

(倉橋) この場合の材料は唱歌遊戯の種類、白根さんが

持つていらつしやる種類云ふもの、それが大體貧弱だら

うから(笑聲)……。

(土川) 大變に私いゝお話で。

(倉橋) お話、いゝ所に來ました。

(土川) 非常に拜聴して居ても面白いものを御出し下さつたと思つて喜んで居りますが、併し子供の朝、幼稚園に來て遊んで居る。それによつてその子供の活動して居る氣分を、それを唱歌遊戲に或は製作に談話に云ふ風に導いていらつしやる結果がさうなるのでございますか。

(白根) さうなつて居ります。

(土川) さうするさ一人で一組を持つて居る場合、その子供が三つにも、三方面にも氣分が別にして出て來た、云ふ場合は何うなさいますか。

(白根) これは先程申上げるのを落したのでございますけれども、私の組として全部の子供が這入りきれないでも、兎に角五人なら五人の子供が繼續した作業でございませうが、昨日の作業の續きをしたさ云ふ事になりますさ、全體の子供がしたいさ云ふ事ではないのでございませうけれども、ですから同じ時刻に片一方では本を読み、片一方で手技をしました時は手技と談話と兩方の數をさつて計算したので

ございませう。

(倉橋) 保育項目を一單位として先づ子供を離れて、机の上でさ申してはなんです、保育項目を今一つの位置に決めておく場合には機械的に理路整然さ、完全に行くと思ひますけれども、生活の中から捉へて行く、自分でも心構へて知るや知らずや、やつて行く場合は其處から先きの關係は、それ程はつきり、いきにくい性質を備へて居ると思ひます。

(坂内) 子供が作業なり談話なりに分れた時後の残りの子供が三つも四つも分た時はその一つを何うしてお置きになりますか。若しもいくつにも分れました場合、そちらの方の事は？

(白根) でもこれは前から繼續して居ります時で、唯子供が來て朝、勝手に塗繪をしたりお繪書きを毎日しない日はないのでございます。さう云ふのは入れてないのでございます。それはお遊びの中に。

(坂内) 自由遊びの中に。みんな御種類になりますか。お遊びの中には、みんなものがございしたら、こちらで

計畫して今の所迄？。

(白根) 動物園を手技ミして繼續して居ります。そちらを致しました時は手技。

(坂内) その他に繪を書いたり、塗繪をしたり、ミ云ふ時には？

(白根) それはこちらで觀察なんかで、這入りました時は入れてございますけれども、その他に子供が勝手に來て、「折紙して頂戴ミ言つて十人なり、十二、三人の塊つて折紙致しましたり、塗繪をしたり、そんなのは入れてないのでございます。毎日の事でございます。

(和田氏用事あり退席)

(倉橋) 和田さんが歸られましたので對角線の線が近付いて坂内さんになりましたが和田さんミ御一緒の事ミして一そのある點に於ては一單位で計畫なさる場合には今の白根さんの御質問から來た、組の全體ミしてお出しになる、その回数。

(坂内) 一回ミか二回ミか、兎に角こちらから心構へを、今度はお話をしよう、ミ云ふ心構へを持つて致します。そ

の時にそちらに行つてお話を聞いて居る人も、聞いて居ない人もございますが一私の方は一つの幼稚園が一家族ミなつて居りますから、何の先生に飛びついて行つても遊んで頂ける様になつて居りますから、何方か一人先生が何かして居りますミ、其處へ集つて繪を描く、ミ云ふ事になりま

す。さうしますミ、何の子供か、しない子供ミ、した子供ミ斷然解らないものでございますから、皆な組の人が一緒

ミ云ふ譯ではございませぬが、組ミしての單位を決めておきます。自分の組の方はお話は二度お遊戯はこの組は二度ミ云ふ事に決めて居ります。

(倉橋) 組で、ミ云ふのも、若し古いにしよへ何處かどこでやりましたやり方の様に、その計畫以外にこぼれ出て來る事を絶対に許さない、ミ云ふ劃一のやり方、その場合は極めて簡単な問題になつて來るのですね。それから劃一でない場合に於ては御計畫は御計畫、併し實際に於てはこぼれ出ていゝ形はかなりある。ですから何の組ミ云ふのがあつて、その組で一週二回やらうとしてしましても、一人々々の子供に就てはさう行つて居るか何うか。

(坂内) 矢つ張その組がお粘土だ、ミ云ふミその組が這入つて来るミ云ふ風に習慣的にはさうなつて居ります。お客様は参りますけれどもその組が餘計参ります様に。

(倉橋) 坂内さんの方のもう一つの計畫、繼續的な方のごくに就てさうぞ……

(坂内) 繼續的な計畫をちやんこして居るのはその組全體が、その生活に則して來れば、劃一を基こせずに揃つて行かないでせうか。あれもこぼれ出て行く事を求めて行く、斯う言つた様な、お話を伺つて居ります。

○保育項目の前に先づ幼

稚園は

(倉橋) 私の説明した事は保育項目を如何なる見方をすべきか、ミ云ふ事は計畫論としては對角線的に色んな意見が立ちますが、子供が實際に何うなつて行くか、實際に於ては何うなつて居るか、ミ云ふ事迄行くミその幼稚園の保育項目に這入る前の幼稚園のやり方ミ言ひますか、斯う出て行くのをこぼれるミ見るか、そのこぼれようこして居る

のが本體で、いくつかが集つて來たのは勿怪の幸ひミ見るか、そこらで大本で變りが出て來さうですね。其處でこれはその位で……大變難しくなりますから。追々。

先刻千葉のガソリンカーは停電しましたが、いかゞですか。(笑聲)

(渡部) 何ミ申上げていゝか。伺つて頂き度いのですけれども、申上げ憎いので。

(倉橋) 聞き度いけれども分らない。

(渡部) 昨年邊りから悩みが重なつて……。

(倉橋) 悩みが重つて、自分で笑ひ出したりする人はありやませぬ。(笑聲)

(渡部) 私が園長さまで主任さまでちやんこ何も彼も計畫的にやつたら、ミても素晴らしいものが出來やしないかと思ひます。

(倉橋) 大氣焔ですぬ。(笑聲)

(渡部) 堀先生には少し耳を塞いで頂かなければいけませんぬかもしれませぬが、さうも保育項目ミ云ふものを斯う小學校の教材的に考へていらつしやる方が、方々から見

〔書良の備必須必〕

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よここ先生共著
附屬幼稚園主事 保母新庄よここ先生共著
洋綴天金上製 菊判四八〇頁 定價三圓八十錢

本日幼稚園史

特色
一、二十年苦心の結晶漸く完成す 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。
二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
三、日本幼稚園史として比類なし 歴代 皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔。

〔内容目次〕

- 第一編 沿革及施設史
- 第一章 幼稚園開設前期
 - 第一節 明治文化の建設
 - 第二節 幼稚園開設の機運
 - 第三節 幼稚遊戯場
 - 第二章 幼稚園開設
 - 第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設
 - 第二節 幼稚園開設の經過
 - 第三節 開園及開業式―皇
- 第三編 行啓 皇太后兩陛下下
- 第三章 女子師範學校附屬幼稚園(一)
 - 第一節 創立當時の規則及學年休業日
 - 第二節 建物庭園及職員
 - 第三節 保育科目及保育用具
 - 第四節 幼稚園參觀記及追憶
 - 第四章 女子師範附屬幼稚園(二)
- 第一節 行啓 恩物の名稱その他
- 第二節 行幸
 - 第三節 保嬰養成機關
 - 第五節 保育見習生
 - 第一節 保母練習科の設置並に廢止
 - 第二編 保育の實狀(保育)
 - 第一章 一日の關係(保育)
 - 第二章 保育科目の恩物
 - 第三章 保育科目の改正
 - 第四章 博物理解
- 第六編 唱歌遊戯
- 第三編 公令、功績者、保育文獻
 - 第一章 公令
 - 一、中村正直氏
 - 二、關信三氏
 - 三、松野くらら女史
 - 四、豐田英雄女史
 - 五、小西信八氏
 - 第三章 保育文獻
- 第四編 其後の普及發達

幼稚園の名著 八版六十 森川正雄著 奈良女高師教授

幼稚園の理論及實際 價・三・六 送・三・六 森川正雄著 奈良女高師教授

幼稚園の經營 價・三・六 送・三・六 森川正雄著 奈良女高師教授

用 保 姆 教 育 法 價・三・六 送・三・六 託兒所 育 兒 法

東大 東 京 阪 東 東 洋 圖 書 株 式 合 資 會 社 發 兌

東京市神田區神保町一丁目・振替東京一〇三七番
大阪市南區內安寺堂一丁目八番地・振替大阪三九五六番

忽七版

東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三生新著

▲四六版三百餘頁頗る美本
▲口繪十六枚・挿繪多數入
▲保育法の實際實景紹介
▲定價二圓五十錢送十六錢

幼稚園保育法と眞諦

○倉橋先生保育眞諦

日本のフレイベル倉橋先生の代表的名著茲に出來。發行後僅に數ヶ月にして既に七版を突破し、我が國保育界の明星として一齊に大歡迎を受け愛讀又熱讀さる。東京女高師附屬幼稚園の園児等は先生を「おぢさん」と稱して相敬慕す。此の倉橋先生の保育法の眞諦即コソを悉く本書に披瀝さる。

○現代の保育法原論

本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備し且系統ある保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者著書少く系統ある力作は本書のみ。

○保育界耆宿の力作

著者は幼児教育並に家庭教育の第一人者として曩に長くも此點に御關心深き 兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢各宮家よりの御招聘ある我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事文部省社會教育官とを兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

本書の特色

- 第一篇 幼稚園保育法の眞諦
 - 一 教育に於る目的と對象
 - 二 幼児生活と幼稚園生活形態
 - 三 生活へ教育を施す
 - 四 幼児生活の自己充實
 - 五 幼児生活の充實指導
 - 六 幼児生活の誘導
- 第二篇 保育案の實際
 - 一 無案保育
 - 二 保育案の意義
 - 三 誘導の保育案
 - 七 幼児生活の教導
 - 八 幼児生活の陶冶
 - 九 幼児の個性
 - 十 幼稚園に於る保姆の位置
 - 十一 保育案の實際
- 第三篇 保育過程實際
 - 一 幼稚園の朝
 - 二 自由遊びから仕事へ
 - 三 個分團割
 - 四 個の時間割
 - 五 生活態度による分團割
 - 六 流れゆく一日
 - 七 流れの向け方
 - 八 生活の偶發性
 - 九 日々の實際生活の尊重
 - 十 おかへり
 - 第四篇 保育誘導案の試み
 - 一 旅へ
 - 二 人形の家を中心として
 - 三 大賣出し
 - 四 わたし達の自動車
 - 五 特急列車こうさき號

東京洋圖書株式會社

東京市神田區保一丁目
振替東京一〇三番七

いらつしやる爲に、それを何まかして表はさなくちやならない様に苦心をしなくちやならなくなるのですけれども、私自身としてはそんなに保育項目一つ／＼を表はして掛らなくても、一日過した、一週間過した後でいくらもその中から保育項目を拾ひ出せるミ、斯う思つて居ります。

(倉橋) 千葉の海岸の蛤の様にね。(笑聲)

(渡部) いつ何處から突込んで來られましても、唱歌もして居るし手技もして居るしお話もするし、忠實にやつて居ますけれども形もして表はれた所はそんな風に見える。いつも遊んで居る様に思はれて。何と言ひませうか。

その爲にも惱んで居るのでございます。項目ミ云ふものを一つ／＼を堅く考へて行けば、今の様に設定的な風になりますけれども、私の設定的でもございませぬしそれか言つて白根さんのようでもなし、自分としては一週間に、

一月、一学期ミ大きく分けなくて小さいのを段々大きくして、一週間の作業ミ云ふ事が中心になつて居るらしいですが、作業を生活の中に入れてしまして、四月、五月、月に分けたらさうなりますが、一週間に分けたら、今週は、夏

の頃でしたら何處か海岸にでも行きませうか、生活を中心にした題目を決めて、生活を中心にして生活を發展させて、その中から保育項目を斯う見付け出したのでございます。しかし又全然さうするミ、いくらか片寄つて來るミ思ひます。それで談話をこの位、唱歌がこの位ミ云ふ風に系統立つて表はず事は出來ないのでございませうけれども、一週間ミか一月ミか一学期ミか段々纏つて、その生活を發展させて行つて居ります。そして日誌に毎日書いて居ります事にも談話がこの位、唱歌がこの位ミ云ふ事になつては居りますけれども、一日中だけで何處で何うして纏つたものか、何時斯う澤山纏つて何をしたかミ云ふ事が表はれて居りませぬ。で其處を何まかしなければと思つて考へて居るのでございます。此頃は暮の町を、商店の賣出しなんかやつて居りますけれども、自由に、設定的じやございませぬけれども、「君達は此處のこれを拵へてね」ミ云ふものが段々纏つて設定的にやつて居る様に見えますけれどもさう窮屈に何をやるミ云ふ様な事でないに、自然にあればあれをやる、あの人はこれをやるミ云ふ様に片寄らないで出来る

事もございますけれども、其處を保育項目一つ／＼をさうやつてる言はれるこ、申譯ないこ申上げなくちやならな
い。

(倉橋) 其處で、すね。設定的にしても、遊びの中から
蛤を拾ひ出す様に拾ひ出して來ても、まあ要するに幼稚園
ミ云ふあの生活の程度の所では元々淡い生活であつて、設
定した所でさうがつちりした生活でもないでせうし、拾ひ
出しても淡過ぎて豊かでないかも知れぬ。此處に問題ミな
つて居る事は配當如何、ミ云ふのでありまして、設定的に
行くにしても、拾ひ出すにしても、又心構へがあるミ仰有
つても、ないミ仰有つても、坂内さんのいはれた様に、片
寄らないミ云ふ事は大きな心掛けてなければならぬでせ
う。打つちやり放しの偶然ミ仰有つたが、それは經驗をロ
マンティックに見て居られるので、配當ミ云ふ問題につけ
て行けば、矢つ張り、片寄つては居ないだらうか、ミ云ふ
氣持はなければならぬものだと思ふ。それを片寄せない
爲に、設定的にがつちりミ、分配主義に行くか、又其處は
少しさう思ふ様には行かないけれども、生活尊重ミ云ふロ

マンティックな立場から生活につくられて行く様な風にし
るか。片寄せぬミ云ふ事は考へて居るミすれば、矢つ張同
じ問題に歸着しないか、と思ふ。これが保育項目のある所
以じやないか。坂内さんが仰有る通りだと思ふ。それがさ
うも生活につかうか、教育目的につかうか、ミ云ふ所に誰
れかのように悩まされる人も出て來るのですか、要するに
淡さの故かとも思はれます。ミこころで、幼稚園よりは萬事
に濃い小學校の方では何うですか。作業主義ミか、合科的
ミか學科別の取扱ひでない行き方がある。幼稚園の淡さミ
は違つて學科ミしての部分も存し、學科でない部分も少し
ある、ミ云ふ事は幼稚園よりよく見定め易いかと思ふ。そ
れを我々の参考ミして堀さんにお話願ひませうか。小學校
ではどんな風になつてゐるか。渡部さんの様な人が悩んで
ゐるから教へて下さい。

(堀) 渡部さんの悩みをもつミ聞き度いと思つて……。

(笑聲)

(倉橋) 人事相談所。(笑聲)

○小學校と幼稚園

(堀) 今の様にやつて居つて、何うしても保育項目に何回も云ふ時間配當をしなければならぬのですか。

(渡部) いゝえ、構ひませぬ。

(堀) さうすれば其處で何うして貴女そんなに悩みますか。悩む理由がない様にも思ふのです。

(渡部) 小學校と同じ様な教授細目を作れ、云ふ事を何年前からか言はれて居ます。

(堀) それは保育項目に就て、小學校の教科の様に、教材を決めろ、云ふ事を註文して居るのですか。

(渡部) まあさうじやないかと思ふのです。尤も幼稚園としては小學校で教授細目を作る程、必要に迫られては居ないものですから、私共がするするやつて居るので、その儘、する／＼になつて居りますが。

(堀) する／＼になつて居つてする／＼でよければ。

(渡部) 悩みもなければいゝのですけれど。

(堀) 今日は小學校でわざ／＼さう云ふ風にしようとし

て居る所が多いのですが。

(渡部) でも……。

(堀) さうすれば何か何回数。談話の回数が二回、一週二回あるから、其處で回数を決めておいて材料を決めるか。それから白根さんの所の様に大體材料を決めて、貴女の所もさうだと思ふが、製作作業を子供の遊びを中心にして、材料を決めておいて、そしてそれをやらせ、自然の間にそれは談話も出て来るであらうし、觀察も出て来るであらうし、唱歌遊戯も出て来る。唱歌遊戯は一寸必然的に出た場合が多いかも知れませぬが。さう云ふ事の、それが先刻私が白根さんに質問したところで、回数を決めておいて材料を決めて立場も、材料を決めておいて自然に回数が出て来る云ふのも同じだらう。小學校の教授細目は回数を決めておいて今度内容を、材料を作ると言つて居る。新しいやり方では、さう云ふ教材を決めておき、時間配當はしておかない。子供の生活に則した近い材料をもつて来てそしてそれをやらして居る間に必然的に讀方にもなれば、圖書にもなる、理科にもなる、云ふ具合で、出来て居る學課を

教授するのでなく、寧ろ子供の生活作業を中心として自然に何か教課をやらして行く、云ふ事なんです。此處の小學校なんかでやつて居るのは月々の、まあ子供に適した行事を中心として材料を決めておいて、それでその間から色の教科が出て来る様にする。それですから多くの場合に於て先づ事實を直観する。直観してその得た觀念を今度は發表する云ふ事になるから、言語發表にもなり、文字の發表にもなり、繪の發表にもなり、立體的に手工の様な發表にもなる。勿論その間には多くの取扱ひもあるが、根本は直観を作業でやる云ふ事になります。するに、地方の人なき、それじや修身の時間を一週二時間なさらないのですか質問します。其處の所が大切な點だと思ふ。つまり今迄の小學校で教科を配當する様に、課程表を決めて一週何時間云ふ事を決めて、詰り指導する談話、それから指導する觀察、指導する手技、さうして、さうしてその材料を決めて行く行き方、先づ材料から自然に出て来る云ふ立場、それから一日の中で設定的保育の時間は二回なり一回にやつてその他は所謂自由遊び云ふ事に

してゆくの、其處で大きな問題が分れて来る。先程の話もさう云ふ問題だと思ふ。

(渡部) 時間を決めてないで生活を中心として、製作的なものを先きに決めて、初めの中は一週間で纏める材料、段々に進んで二週間三週間、いくら發展してもいゝ様に材料を探つて進んで行き度いのですけれども、それが中々旨く行かないのです。

(倉橋) 今日の座談會は渡部さんを中心に悩みを聞くの會になりますか。(笑聲)

(渡部) やめます。(笑聲)

○東京市で研究されたもの

(倉橋) 東京市では斯う云ふ事に於て御研究になり御調査になり、御決定になり御實驗になつて居るに聞いて居ますが、それをですね。一つの實行されて居る實例として何方かに承はる事が出来たらいいと思ひます。

(堀) それが是非必要だ。

(倉橋) 柴田さんに御願ひしませうか。

(柴田) 檜山さんさうぞ。

(檜山) 今夜の題目があゝ云ふ様に書いてありましたから、書いたものだけは持つて来たのでございますが、それがさう云ふ様に實行されて居る、云ふ事は別問題として聞いて頂き度い。これが決りましたのは昨年か一昨年……。

(柴田、水野) 一昨年。

(檜山) 大騒ぎをやつて夜も寝なかつた事を覚えて居りますが、過ぎて了ひましたらすつかり忘れて了つて……。

書いてある事だけを読んで見れば。保育項目は自由遊び及び躑躅、さう云ふ風に先づ分けて、それを何回云ふのでなく、時数になつて居りますから、何時間々々々とし……。

(倉橋) その通り仰有つて下さい。

(檜山) 毎週の保育時数になつて、年齢満三歳から四歳迄の組、四歳から五歳迄の組、五歳から六歳迄の組、三通りに分けてございます。初めの満三歳から四歳迄のは唱歌遊戯、毎週保育時数三になつて居ります。観察一談話二手技が二、自由遊び及び躑躅が十六になつて居ります。一週

保育時数二十四時間に就てゑす。それからその次の組が唱歌遊戯が四時間、観察談話は先の組と同じでございます。

手技が二だつたのが三になつて居ります。それから自由遊び及び躑躅が十四。それから満五歳から六歳のは、今の四歳から五歳迄は全部同なしでございます。それで其處に色々書いてあるのでございますが、「各保育項目は凡てに幼児の生活に則し……」

(倉橋) ちゃんこ読んで下さい。

(檜山) 「保育項目は互ひに相關聯せしむべきは勿論、幼児の心身の發達に鑑み、取扱ひ方法、時間の長短、宜しきを得るを要す。但し土地の状況、季節によつて保育項目の保育時数を増減する事ある可し」さう云ふ風になつて居ります。

(堀) その場合にです。時数云ふのは小學校の様な意味の時数ですね。

(檜山) 斯う云ふ事を何うしてもしなければならぬ云ふきめです。

(倉橋) 堀さんの御尋ねになつたのはその時数は何か

いふことです。私もそこをよく聞きたい。六十分云ふのですか。

(水野) 私、回数も思つてやつて居るのでございますが、幼稚園で何時間云ふ事は出来ないと思ひます。

(堀) 併し總計二十四時間になつて居りますが。

(倉橋) 全體で何うしても二十四時間はしなければいけないと思ひますが。

(檜山) その時三時間になつても四時間になつても全體として……。

(堀) 回数を決めず、大體六回やつても三回でも凡そ三時間になる。小學校で言へば、十五分の休憩と四十五分の授業を併せて何時、ミ斯うなつて居るのと同じな意味でせう。回数云ふ意味は這入つて居ないのでせう。

(倉橋) そこははつきりして居る筈でせうがね。

(檜山) はつきりそれは書き表はしてないので、いろいろにこられてゐるかも知れません。

(倉橋) 東京市は廣いですからね。(笑聲)時間数が如何なる意味を持つか、ミ云ふ事を暫くおいたとして、所謂配

當上の比を示して居る譯であるのでせう。

(土川) さうですね。

(倉橋) その中で何が一番多くなつて居りますか。

(檜山) 自由遊び及び躑躅十六時間。

(倉橋) 所謂保育項目としては？

(檜山) 唱歌遊戯四時間。

(倉橋) もう一度皆言つて見て。

(檜山) 唱歌遊戯が、……大きい組で？小さい組で？

(倉橋) 大きい組で。

(檜山) 唱歌遊戯四時間觀察が一談話が二、手技が三、う致します。これは大きい組でございますから、自由遊びや躑躅が十四時間。

(倉橋) さうするミ小さい組で……。

(檜山) 違ひますのは唱歌遊戯は三になつてその時間は手技は二になつて、其處からも時間が自由遊びの方に……

十六時間。

(坂内) 配當原則で二時間は手技をしなければいけないのですね。

(檜山) 配當原則云ふ話があつたので。

(坂内) 二時間云ふものはなんかやらなければならぬ云ふ事になるのですね。自由遊びでやつた事でもいけな
いのですか。

(倉橋) これはいろいろ御研究の結果で、澤山教へられるところがあつて思ひますが、兎に角此處に一つ明かなことは唱歌遊戯を第一におき、手技を第二におき談話を第三におき觀察を第四位に保育項目を配當する一つの立て方がある譯ですね。そこで市のきめ方さいふここから離れて、問題を保育項目の一つへ持つてゆきませう。これが、實は大に大事なことですからね。土川さんに一つ幼稚園保育としての唱歌遊戯云ふものがさう云ふものであるか、或は何うでもなるものか。従つてそれを何うして行くか、別格に扱つていゝか、そこらの點を伺ひませう。

○遊戯に就て

(土川) 何時鐘先が向くかと思つてゐたら、えらい所をもつて來られました。(笑聲)

私は自分の幼稚園に於きまして回数で分けて豫定は立て居ります。それで私はこの豫定を立てる前にこの項目の中のそれらの目的を色々考へまして、手技を一番多くこつてゐます。私は別に唱歌遊戯を特別に多くする理由は見付かりません。子供を纏める爲にすぐ歌はしましたりする人がある。唱歌が下手な人程ね。

(倉橋) 至言ですな。

(土川) 自分の趣味の傾向によつてその項目に非常に片寄つて了ふ。それを私は分けて居りますが。併し兎に角、保育ミ子供の生活との關係を考へて行くミ、手技が一番重いものミ斯う考へて、それに重きをおき、唱歌は三十分つつ一週間二回づゝ位です。但しその時は本當に唱歌を唱歌ミして見て行く。曲の氣持や緩急も表はせる様にして、子供の感情を養つて行き度い。斯う云ふ點が随分缺けてやしないかと思ふ。自分ではそれを考へてやつて居ります。唱歌なきは一週に二回遊戯は三回にしてそしてその中に皆な入れてやつて居ります。手技が四回、遊戯が三回、唱歌が二回、談話が二回、觀察が一回斯う云ふ豫定を立て、おい

てそして子供の氣持によつて多少の變更はして参りますけれども、まあお話の様に大體これによつて片寄らない様にします。斯う云ふ様に私、唱歌遊戯を特別に多くする理由は何處にもないを考へて居る。

(倉橋) その三回云ふ遊戯は？ 唱歌は少いが、回数
は少いが嚴密にしていらつしやる。それは私は或意味に於
て御同感と思ひますが、遊戯の方は何うなつて居りますか。
三回ではあるがまあ極く露骨に言へば、他のものは生活、
これから始まりちやん／＼と拍子木を打つたりしないでも
所謂先刻（さう）のする／＼の様にも引張つて行けるのですが、遊
戯だけは其處が違ふ様に我々思つて居るんですが。さう云
ふものでせうかね。する／＼遊戯がありますかな。

(土川) する／＼遊戯が大變いゝんです(笑聲)。私はそ
こに大に意を用ゐて居ます。遊んでゐる間から子供がスキ
ップを始めて一つの輪に習慣的になつて行く。其處で遊戯
を入れるとするミ、子供が生活ミしてやつて行く、ミ云ふ
様なその時の子供の顔はいゝですね。お部屋から一組がす
つミマーチで這入つて行つてピアノの音調によつて何かや

るミいふ時よりね。子供の氣持ミしてする／＼行く方が大
變にいゝと思ひます。そこでなるべくする／＼にしたいの
ですが、さう／＼するするばかりでやれない場合があるも
のですから、已むを得ず「お遊戯しませう」云つて……。

(倉橋) 一體さうなんですけれども、蕎麥のうま味ぢや
ないが、さうしてもする／＼にあるんだけれども、それだ
けでは何で、海苔だの葱だの、時に鶏肉だのちく輪だのが
入つて居たりして、する／＼ばかりでは扱へない保育項目
が多いでせうね。

(土川) 多いです。

(倉橋) 今の土川さんのお話を伺つて居るミ、先生がい
つも大きい人に教へていらつしやる初めから藝術的に纏り
のついた遊戯、あれをさういふ具合にそこへ合致させてゆ
くかですね。それにしても、土川さんから斯ういふお話を
伺ふミ大いに發明する所あるですね。次に渡邊さん。八王
子も随分御遠方ですが(笑聲)いかゞですか。大森ミ八王子
……。渡邊さん。

(渡邊) 私は至つて勝手に自由にやつて居ります。

(倉橋) 自由にやつて居る間に遊戯なんかは？

(渡邊) 矢つ張決めてやります。

(堀) 先刻、東京市のきめで遊戯のところに色んな話が
出たのですけれども、綱引、球投げを競技で遊ぶのも入れ
るのでか。

(檜山) その遊びは子供がしようと言つてする場合が多
いので、そんな事で時間は多くなつたのです。

(倉橋) 又其處に話がかへりますよ、さうするに自由遊
びの中で多く行はれて居る事ですか。

(檜山) あの中には自由遊びも云ふものは、別に書き出
してあるのでございますけれども、自由遊びの時は数へ入
れてない筈でございます。

(堀) それですすね。これはですね。一組が一つ纏つて
綱引をするのは遊戯に入れて、一組で色んな事をする、し
ないものもあるも云ふ時は自由遊びをしたんではないでせ
うか。

(檜山) 大體さうでございます。

(堀) それではつきりました。

(倉橋) あの幼稚園保育項目の中に於ける唱歌と言ひ遊
戯も云ふものは唱歌を使はない遊戯はない。遊戯は唱歌を
使ふも云ふので唱歌遊戯も云ふのでせうけれども、保育項
目で特に遊戯も云ふものは何ういふのでせうか。

(土川) 私は、設定的の様になりますけれども、綱引き
などは唱歌遊戯にして居りませぬ。鬼ごっこなども自由遊
びの方に入れて行く方がいゝかと思つて居ります。

(倉橋) なんですな。藝術的にか何にか云ふ事は別とし
て一つの纏りも云ふ言葉は強過ぎるが、組立も言ひますか、
コンストラクションが這入つて居るのが保育項目の遊戯で
せうな。ジャンケンをして二列に分れて何かして居るでせ
う。別の色々な違ふ遊びの中に出て来る……。これは遊戯
の中に這入らないも考へていらつしやるのですか。

(土川) 這入らないも云ふよりも入れない……。

(坂内) 綱引なども……。子供は當り前の事をして居て
は面白くない。規則によるものを規則による滅茶苦茶に
してさふ。さう云ふ時に規則的にさせなくてはならない。
させたいと思ふものもあるのです。でもその時に大人が這

入つて嚴格にさせる云ふ場合は何うしますか。矢張、自由遊び、綱引にしても人数もきちんと同じにして、子供は人数なんか構はず、私はこつちがいゝゝ…何うしても大人が這入つて居りませぬ、規則を守る事が出来ませぬ。さう云ふ時は遊戯の時にさせた方がいゝと思ひますが。

(倉橋) 遊戯の時に仰有るが、時は構はない。

(坂内) 時は構ひませぬが、時か回数が喧しいので。

それを入れる云つた所で…。

(倉橋) 役者が芝居で踊つて居る間に一寸、頭、かいたりしたら可笑しなものです…。

(坂内) 大人が這入つてさせますけれども、子供の氣分云ふものを育て度い時もございますが。

(水野) 聴覺の練習ですものなごは大體この遊戯でやる方の。そして折紙なんかの時、あつちは何時もやつて居る遊戯を始めるものもあり、又中には綱引をやるものもあり、分れて場所ごりを始めるものもある。それを適當に先生が子供を入れて参ります、やりいゝ様に補助して行く。さう云ふ風にしてやつて行つて僅かの短い時間でありませ

が、自分では毎日唱歌遊戯に、そして斯うその間に云ふ風にして自由の時に、斯う云ふ風にしたのがいゝと思ひます。

(倉橋) 矢つ張根據は取扱ひ上その目的を、我々として目的を達する事が出来る様なものだけを遊戯として、後は勝手に任しておく。

(堀) その問題に就ては小學校の方は、遊戯と競技と體操とがあります。低學年は遊戯に競技も體操も這入る。詰り正確には出来ない。本當の競技になつて來ない。それで低學年では競技に屬する様な事やつて居りまして、所謂競技云ふ立場でなく遊戯の材料としてやつて居る。

(坂内) 其處に含まれて居る規則なんかは。

(堀) 段々規則正しいものに。始めから規則を守る云ふ事でない。だから遊戯としてやつて居つて、それが段々進化して來るのです。

(坂内) 何年位から規則を守る…。

(堀) 小學校時代では殆ど競技に這入らない。

(坂内) 運動會に致しまして、矢つ張「用意ドン」規則

則を守つてやつて居るのですか。

(堀) さう云ふのは低學年の方では喧しくない。

(坂内) 幼稚園では規則的な競技云ふものは

(堀) 競争遊戯は競技じやない。だから競争遊戯、遊戯の中に競争を基にしたものがあつて。競争をする以上は一定の規則が出て来る運動、それに合して行く云ふ事になる。

(坂内) 例へば椅子まりにしましても規則がなしに滅茶滅茶にする事はございませぬが、子供のみの規則には合して行く。

(堀) さう云ふ場合には本當の所謂本當の自由の遊びでなく矢張競争を目的とした遊戯にして。

(留岡) 矢つ張先程坂内さんの仰有つた様に、綱引にしても自由遊びに入れないで、先生は遊戯の中に入れ度いさ仰有るのでせう。

(坂内) 其處で自由遊びする時でも大人が交つて椅子まりなんかおやりになつて、……實際は先生おやりにならないかも知れませんが(大笑)……先生の競技云ふ定義が

解らないのですが。

(堀) 競技は矢張最も複雑な規則があつて、絶対服従で。

(坂内) 東京市の批評はしない譯でございませうけれども

(倉橋) 東京市に行く前にお盆(お汁粉)に行きませうか。

○觀察に就て

(倉橋) お汁粉まつしよに。堀さん色々難しい事は別として觀察が一時間になつて居ますが、いゝでせうか。

(堀) 僕は觀察として回数に於て三十分なり一時間の觀察をやる人は考へてないだらう。要するにまあそれは一つ。これは一時間—小學校の子供に一時間やつたら大變。

(倉橋) 回数にしても時間にしても、他の保育項目に比して觀察が一番少い。

(堀) それはその方がいゝだらうと思ふ。

(柴田) 白根さんの仰有つたのミ東京市と同じと思ひますから、凡ての氣持が結局其處に行つて居るのではないで

せうか。傾きを見て。

(堀) 觀察は遊戯なんかも這入つて居るから、これは特に觀察云ふ時間を置く云ふのが無理と思ふ。

(倉橋) 土川さんのお話にしても、今の堀さんのお話にして、實に天下の皆なに聞かしたくないですね。あお餅を嚙まずに呑んで了つた。(笑聲)

○談話に就て

(倉橋) 次に談話はさうです、東京市のきめでは大きい組では三番目、白根さんの方では？。

(白根) 三番目。

(倉橋) 三番目ですね。あの談話云ふものは何う云ふ風に考へていゝのですか。

(堀) 私一寸質問したいのですが、東京市のにしても二回云ふ回数はいゝが、二時間云ふ事になると、これは寧ろ喧しく言へば、話の長さによつて、所謂お話云ふのも談話云ふ事になる。談話の内容をお話云ふとすれば、子供にお話をするのに十五分掛るのをして行けばこれで六

つなくちやならない。保母の方が毎週六つづゝ新しいのをやらぬでも一前のを蒸し返しても一繰返しても一面白い話、子供は何度聞いてもいゝのですが一さう云ふのでやるにしても、やらぬにしても、その意味の談話にするに大變ですね。

(倉橋) だから難しい。

(檜山) でも先生、子供はお話が好きで……。それに居るお話ばかりでなく子供から聞くお話も中に這入つて居る。

(堀) 子供が話して代りゝゝに聞く。

(檜山) それにしても談話。

(倉橋) 留岡さんの方ではどんなに。

(留岡) お話は毎日、土曜日は時間が短いですがから致しませぬが他の日は大概致します。十分か長いのは三十分位さうして日によりますに二度位する事もございます。時によりますけれども全體で一週間に三時間位お話をする時もございます。

(倉橋) そのお話云ふのは所謂童話云ふ様な纏つ

たものを先生が聞かせるのですね。

(留園) そして大概月曜日は子供がお話をする。私が幼稚園の方を始めました初めに、一體何にも正式に教へて頂かなくつて幼稚園を始めたのですけれど、竹早町で伺つて来て、その保育項目配當を参考しました。その印刷になつて居つたのは談話が三時間、私調べて見まして二時間の事もあり、大抵三時間の事もあるので大概いゝんじやないかと思つてその様に致して居ります。

(倉橋) 水野さん。

(水野) 私は未だ幼稚園に参りまして日が短いので檜山さんがお読み上げになつたのを實は時間だと思つて居りませんでした。保育項目時数は二十四時間、配當回数云ふ風に今日迄思つて居りました。先生が自分で案を立てまして子供に聞かせるお話は二回だと思つて居りました。

(倉橋) 大變な相違になつて來ました。

(水野) その間にお話し乍ら躰をする云ふのは殆ど毎日の様にして居ります。

(倉橋) 八木澤さんの家庭的幼稚園に於きまして、お話

は何う云ふ事にしていらつしやいますか。お話は何うお取扱ひになりますか。

(八木澤) 大概一週間の豫定を立てゝ居りますがその豫定が中々實行出来ないでございます。初めの一週間にさう云ふ豫定を立てゝ出来ない惱みが次の一週間には出来なかつたものを何う云ふ風にしてするか、又それを變へてして見たりして居ります。一番お話は致しますけれども、そのお話は私の方の子供は中々注意が大變に散漫で注意させる云ふ點が……お話を私の方がお話を致しますのが一週間に一度お子さんの方からお話を聞くのは決りなく何度も聞く。時によります。殆ど毎日の時もあります。矢張、私が氣が小さいからお子さん達も氣が小さいので、解つて居るけれども言ひ現はせない人が随分ございますので子供等も談話、話せる様にしたものですから、決めは一週間に一度云ふ豫定は立てゝ居りますけれども、回数は何回も言へない位致します。

(倉橋) さうするに一週間に一回案を立てゝおいて實際は何回するか解らぬ。假に白根さんの様に實驗的にお拾

ひになつて見たらばぎの位になりますか。

(八木澤) 私の方で保姆が致しますのは一回でございます。お子さんが致しますのは二回。

(倉橋) お話ミ纏つてするのはそれで。

(八木澤) それ以外に自由遊びの系統、さう云ふ何ミ言ひますか。自由遊びミして澤山お話を。

(倉橋) 自由談話。

(八木澤) さうでございます。言葉の言ひ様も存じませぬので。

(倉橋) その自由談話の中には「蛙が居たのよ」云ふのも自由談話ですが、所謂纏つたお話、童話ミ言つた様なものを含んで居るのですか。

(八木澤) 纏つたお話を致します。さう云ふのを、纏つたお話ミなりますミ、何うしても系統正しく話を致します。それは本を讀んで聞かせる事もあるらしいです。

(倉橋) それは子供がするのは二回ミして、自由談話ミして纏つた話をするのは數へず、させるミか、するミかで區分があるので話は同なし様な事をするのですね。

(八木澤) 唯、一番嬉しいミ思ひますのは、庭が廣いものですから、自然物に接して、今頃になりますミ、お天氣のいゝ日、風の當らない日は出す様に成可くして居りますけれども、誰かが風邪を引いて居りますミ何時も出していいミ云ふ譯にも行かないので、特に暖たかい日だけしか出せないでございますから、今頃は子供達が家で本を讀んで聞いて居りました話は、ちゃんミ、昔話ミか歴史的な話も致しますし……。

(倉橋) 所謂童話の方の専門家が幼稚園に於ける話、その話ミしてミなく、童話そのものミ云ふものを抜きミして、自由さを、それを効果ミして、それを出さうミして居られる、あの意味に於て談話を談話ミして與へられるのが先生は一週に一度ミ解釋していらつしやるのですね。

(八木澤) さうでございます。

(倉橋) 新庄さん、貴女の幼稚園(笑聲)では何うしていらつしやる? 今日主事が出て居りませぬので。(笑聲)

(土川) 私も是非、こちらの幼稚園の。

(倉橋) 何でも今聞く所によるミ、組によつて違つて居

る様なお話ですから、貴女のお話を以て幼稚園全體を代表なさるご云ふ様な意味でなく、貴女のやつていらつしやる事をお話下さつていゝじやないでせうかね。

(新庄) 數で表はさなければならぬならば、先生が――保姆が致しますのは、二度位でございませうか、一週に後ごう云ふ風に……。

(堀) 子供に或時間纏つた、或子供から順々に話をさせるご云ふ談話の時間もあるんでせう。さう云ふのは？

(新庄) まあ二度位と思つて居りますけれども。

(堀) それからさう云ふ場合に子供が聞いた、所謂お話、童話の様なものをですな、八木澤さんの所では家で聞いた事で澤山……。こちら邊りでは何うです？

(新庄) 一日の中で何度もして居りますものですから、數で何うご言つて、數で一寸斯う表はせない。

(堀) 時間數で言つて一週間に？

(新庄) さう云ふのは時間で表はして居ないんでございませけれども。子供の方から色々家であつた事や聞いた事や、時には昨日さか今朝聞いた色んな話を先生が、子供に

する様に、子供が私にして聞かせる事もございませうがさう云ふのはごうも。

(堀) はつきり解らなくても、凡そ何の位になります？

(新庄) 時期によつて違ひ、組によつて違ひますし、大變に言ひたがる――發表型の子供はしよつちう、他の子供がそれ程話題にしない事でも随分話にしていらつしやる。其處の、さう云ふのは時間でさか回数では。

(倉橋) 貴女の幼稚園は随分ぼうごして居る。(笑聲)

(堀) 其處で私がお聞きするのですが、話型の者に話させるご云ふ事は當然でせうが、話をしない子供に話を仕向ける事は？

(新庄) それはさう云ふ事は、あの子は話が出來ない様だから、何かの折にしよつちうその事を氣をつけて居りまして、何かの折に何うしても話さなければならぬ様な事を聞いたり、その子に言はせたりご云ふ事を、一日の中に何度もして居りますものですから、さう云ふ風にして居るもので。

(堀) 其處で幼児が小學校に來る迄の間にこれだけの事

を言語發表の練習としてやらなければならぬ。それでそれをやるには何の位の時間が要るか、教育的、自然に出て來るのではなく大人の方から、まあ發音を正しくないから幼稚園時代の發音を凡ての子供に普通の言葉だけでも正しく發音する様に。

(新庄) それは絶え間なくして居ります。

(堀) それは時間が出て來ませぬか。

(新庄) それは……。

(倉橋) 新庄さんは墓口の中にお金を澤山持つて居るので自分で却つて幾らあるか解らない。(笑聲)

(新庄) 勘定は不得手で困ります……(笑聲)

(倉橋) お話の場合は、所謂兒童文學として價値あるものを子供に幾つ位なさつたらいいか、云ふ話數、回数でもなく時間數でもなく、話數云ふ事は問題になりますまいか。

(渡部) 私伺ひ度いと思つて居りましたが、私の方はずる／＼。私は主に製作的の事をやつて居りまして、もう一人の方がお話しか畫をやつていらつしやるのでございます

が、そのお話を好きな子供は三つも四つも「それからそれから」何うしても止められない、「しててもいいでせう」、ご仰有るからその儘にして居るんでございます。さう云ふ子供は後に残つて居る、のが十二、三人位ございますから何うしても三つか四つ位ないさ。

(倉橋) お汁粉だつて一杯に限られて居るからこれで止めるのですが、幾杯でも出る云ふ事になるさ(笑聲)……。今のは多過ぎる方のお話ですが、少な過ぎる場合もあるかも知れない。世の中には、殊にお話、兒童文學の數云ふ方から言へば何千何萬あるか分らない。長さの方云ふ事になりますさ「あゝ／＼」なんて言つて居れば、いくらでも長くなる。(笑聲)それを東京市に報告すれば。保育時數を出すさなるさこれは先生は他の保育項目でもさう云ふ事があり、法規の場合はさう云ふ事もあるが、始終いゝ話を選んでストックを持つて居て、お母さんならばおは、一番、十八番でなくても通せる、さう行くさいゝのですが、幼稚園の先生が談話云ふものを一つの重要な幼児教育の手段として居る、云ふ事になるさ、仕入れに力の入れ方が

足りないのではないでせうか。自分の知つてるのを勘定して見たら實に僅かであつた、云ふ事はあり得る。お話は文學でありますから一體幾つ位、幾つ位云ふのは三回をひつくるめて一回、三つ話せば三回ミ單位の名前を變へれば大變違つたものになりませうけれども、一體まあ一週間に話を幾つ聞かせたいものでせう。

(堀) それを一つ柴田さんに伺ひ度いが。咄家はなしが何う云ふものミ註文するのは別問題ミして、兎に角幼稚園の子供を扱つて居つて、これ位の話は二年間に話してやり度い云ふお話の見當はありませぬか。

(柴田) そんな難しい見當はありませぬけれども。

(倉橋) 簡單なる答だね。(笑聲)

(柴田) お話、大變子供は好きでございますけれども毎日居ります云、毎日お話しして聞かします云飽きる様でございます。自分の感じで申上げて失禮でございますが、一日置き位。

(倉橋) 一日置き。

(渡部) 私のお話、お汁粉で消えて了ひましたけれども。

(倉橋) 段々其處へ行くミ思ひますけれども。

(柴田) 幼稚園ミしては隔週にはきつミお話する事になつて居りますけれども、私の組ミしては一日置き。

(倉橋) 幼稚園ミしては隔週?

(柴田) 全體ミしては代り番ミに、紙芝居ミお話。自分ミしては一日置きに。子供の方からも要求されます。

(堀) その一日置きのがまあ大體に於て一週間に三つミするミ、一年間に百位になりますか。新しいのを百位。百云ふものをするんですか。その中にはまあちつミ、五十位繰返すのが、五十位ですか?

(柴田) 大きい子供は變つた話を、小さい子は先せんした話が好き。

(倉橋) 兒童の心理の中であの位都合のいゝものはない。(笑聲)

(坂内) 小さい子供ばかりの組でございますが、四つ位の子が十人位でございますから、二つ位して欲しい様に思ひますけれども、小さい子供はもう飽きた云言ひますから。大きい組ならば長いお話を一つ。

(倉橋) 一回ぎの位聞かしたらいゝ下せうね。

(堀) 長いのもあり短いのもあり、お蕎麥でも長いのもあり切れたのもあり、今日は此處迄云ふので残して置く。

(笑聲)

(柴田) 子供はそのお話はそれでお終ひになつたと思つて居ないんです。「これでお終ひ」言つてもお話のお終ひ、大人が考へる様に考へて居ないんです。

(倉橋) 反對に續いて居ても切れてる。

(堀) それからそのまあ、大體に於て一回平均するに何れ位になりますか。最も長い話云ふので、こちらの方では三十分ミ豫定しようとしても、飽きるのではありませんか。

(柴田) 大概飽きない。

(堀) 上手だからですね。

(倉橋) 其處で話を幾つ與へるべきか、云ふ貴方の理窟から決めても、渡部さんには別の悩みが出て来る。詰り幼稚園にみんなお話を整へておくか。何でも彼でも澤山、多くあればいゝ云ふのもいゝのですが、少くもこの位用意しておかなければ、自分が覺えて居ても忘れて居ても、

いざとなれば書いてあるのを見ても(笑聲)、それをもつて居なくちやならない。これは數は何の位なければ保姆さしてはいけないか、はつきりしませぬか。談話も兒童教育で、何う豫定して何う云ふきの位持つて居なければならぬか、云ふ事は始終選んで居るですが、何の位あつたら足りるか、云ふ事は、小學校の讀本は教材が限定されて量的にも決めて居るが、あれに似た様な意味でお話にしては何の位持つて居たらいゝ下せう。一體先生方何の位お持ち合せのものですか。

(柴田) 本當の得意の話は一つ位。

(倉橋) 「エヘン」ミ来る。その代り本當に上手だ云ふ……。(笑聲)

(留岡) 幼稚園協會の御本でございますが、あれも勿論結構でございますが、興味の深さ、小さい子は宜しうございませぬが、大きい子供はもつと、面白いの、云ふ言葉を使ひますが、刺戟の多いの、つて申しますか、御本の中にあるお話が變化がなさ過ぎる云ふのか、この節の子供があの頃より複雑になつたのか、刺戟的なものを、多少刺戟

的なものを喜ぶんでございますけれども。

(倉橋) さう云ふ事はありません。まあ、私、あの本に關係した時の、皆さんと話合つた心境を基にして言へば、刺戟の多い話が多過ぎたのに對してあゝ云ふ本を作つた云ふ氣持だつたと思ひます。それが過ぎたるは及ばざるが如し、になつて居るかも知れませぬ。それが何の位あつたらうか、云ふ事は解らぬ。又追々々の位に解つて來るでせうけれども、結論はこれないとして、自分にもいゝお話がたんまりないに困るので、實は幼稚園協會に於きましても、來年、幼稚園に相應はしき童話を募集、廣く世に募集したいと思つて居るのであります。色々な懸賞をつけて募集したいと思つて居ります。これは是非皆様にも應募して頂きたい。本協會主催のこゝですから今から申上げておきます。

さあ、其處で残る保育項目

○觀察・唱歌

(八木澤) 子供がお話へ自分で作つたお話を致します。

それは私から纏めいゝお話が、外遊びの出來ます時に、庭が廣いのでお庭で遊んで居ります時に、自分達が觀察云ふ事で質問致します。それを忙しい時には「一寸待つて頂戴ね」つて頼んでおきまして、翌る日か都合のいゝ時に聞いて居ります。その事が今頃になりまして、時期が過ぎました今、自分からお話させます時にそのお話が這入つて來ます。蟲の話とか木の話、そんな話を私達が聞くに、嬉しくつて仕様がなものですから自分のお話が大變多くなります。大變に觀察の方になつて行くのでございませうが、そんな話は子供の言つた時に、子供の間違つて居た時には一寸口を入れた方がいゝでせうか。子供が折角空想してさう云ふ風に話をして來た時に「あゝさう」言つて聞いて居た方がいゝでせうか。

(倉橋) 何うでせうか。堀さん。間違つて居れば直すんでせうね。

(堀) 其處の程度、子供が空想的なお話にしてつて居ればそれを無理にさうも、あれが話して居るから言つて咎むべきではない。言葉が違つて居る事は後で直してもい

い。その話の中でもい。

(倉橋) うれしいお説ですね。流石に偉い。實にさうです。

(堀) それと同時に唱歌、これだけ教へ度いミ云ふ唱歌、それはありませぬか。それによつてこの唱歌の時間も決つて来る。

(水野) 私の方でさう云ふ問題が出まして、時間ミ言つてはいけませんねが、回数に關しまして、一寸配當ミ云ふ程でもないのですけれど、これだけのものは是非教へ度いミ云ふものを擧げて見たのでございます。公けには出来ないのでございますが、近藤先生が主任で調べて下さいましたが、かなりございますが、方々の幼稚園から集めました子供の好きだミ云ふものを集めて見たのでございますが。

(堀) これが小學校になるミ大變問題になつて来るのですが。それでまあ、この唱歌時間配當が問題になつて來て、もう時間も八時になつてお困りです。

(倉橋) このポイントだけ、一つ述べておいて下さい。

このお話を纏める迄。

(堀) 小學校の先生の方のは、小學校でやるのを幼稚園

でやつて、程度の高いものをやつて悪い癖をつけて貰ふに困る。幼稚園では小學校でやる様なものを無理にやつて貰はぬ方がいゝ、ミ云ふのが小學校の唱歌あたりを持つて居る先生の要求。それでその小學校の方では、幼稚園で唱歌を習つて來たから、もうこれは習ひましたから、ミ云ふので、幼稚園保育を小學校で否定する論據が潜んで居ると思ふ。其處で私の考からすれば、幼稚園に適當なものがあるか、ないか知りませぬけれども、何れ位この、やらなければならぬ、ミ云ふ事が出來て來、それからそれに相當したものがあるか、差支へなければ幼稚園協會で募集して頂いて、談話ミ同じ様。

(倉橋) それは結構です。

(坂内) 音樂教材はそれで生れたのですか。

(堀) 幼稚園では材料が出て來ないので困つて居る。

(倉橋) 菊池さん、貴女の幼稚園では。(笑聲)

(菊池) 二週間に一つか三週間に一つ教へ度いと思つて居りますが、小學校ミ重複しない様な。主觀的に氣に入つ

た唱歌がなくなつて困つて居ります。二週間に一つか三週間に一つ新しいのを。その唱歌の難しい程度にもよりますが、二週間に一つか三週間に一つ新しいのを教へ度いと思つて居ります。

(堀) 平均二週間に一つにするに二つ一年に二十位ですか。

(倉橋) それさずつき、かけ離れた数をお考へになつて居る方ありませんか。一年に新しい歌を一つ、云ふ様に

……。(笑聲)

(留岡) 私の方はもつと澤山。大概一週間に一つ。

(倉橋) 先生がお聲がいゝさうなる。(笑聲)それは教材の問題は多ければ多い程、さう云ふ問題は、結果は兎に角、氣をつけていらつしやるに多くなつて来るのですね。

一週間に一つ位ですか。

(留岡) 秋ならば菊さか落葉さか紅葉さか、時期で。兵隊、つここさか色々。

(倉橋) その所謂ネタがありますな。

(白根) 私の方も多いのです。お唱歌の先生さよく連絡

をこつて居ります。小學校を重複するものを教へ度い時は見て頂くので、小學校の先生も幼稚園で教へてちつとも差支へないさ仰有るので、後で直すのも研究になるから思ふ通りにおやりなさい云ふので、材料はさても豊富になつて従つて多くなるのでございませう。

(倉橋) 八時なんです、もう一寸延ばして頂いて。

○手技に就て

手技の問題も一つ一番初めに大いに出た話ですけれども、保育項目の扱ひさして入れておき度いと思ひますが、これは他の保育項目に比べますと、餘ッ程生活的で、自然の中に生活誘導云ふものでやつて居る。生活の中からさつと指導が導びかれに導びかれる、云ふに丁寧ですが、或はプロジェクトでお育てになつたものさ、子供が自然に探し出したものをテクニクの指導の方に導いて行くものも出来るし、随分かう云ふ問題があるのですが、所謂手技を手技さして保育项目的にする云ふ様な事は徳久さん、何うやつていらつしやいますか。

(徳久) 手技を手技として。

(倉橋) 自然に子供がものを作り出して来て居るのを自由手技でも言ひますか。それもあるし、プロゼクトの中に自然に出来て行くのもありませうし、又特に粘土製作、粘土をさして上げますか、今日は何か作らうとか云ふ様な事が御ありになるか、何う云ふものか。

(徳久) 私の方でも手技を一番多く致して居ります。矢張一學期位に大きな目標を立てましてその目標によりまして、共同製作を致しましたり、一人一人塗繪を致しますか、貼繪を致しますか、手技を致して居ります。大概毎日致して居ります。

(倉橋) さうするに何の位の分量になるんですか。毎日相當の時間をそれに、各子供が。

(徳久) はあ、さうでございます。共同製作になります、その日によりましてある子供はするし或子供はしない事になります。全體の時間数から考へますとかなり多くの時間を使ひます。

(倉橋) あの例へば天下に有名なあなたの自動車會社で

自動車を製作した時、或者はヘッドライトを作り或者はタイヤを作る、さ云ふ様な事で色々する時間としては相當多い。さう云ふの、他に所謂何と言ひますか、それを繼續的計畫、さうでない個單製作で、一個をそれ一個として作る。その個單製作が、昔の様にそれを作りつ放しの個單製作か。作つたものは後に運用して行くさ云ふ傾向に御導きになるか。この話は暫く別にしてまあある何分か掛れば出来る個單製作の様なものなざる、粘土製作なんか板が廻つて、お盆が廻つてそれに山が一つ載つて居るのが配られますね。それで取敢へず銘々違つたものを作るにしても、個單製作をする、私は粘土は左官屋の様に壁塗をするのかと思つたら、矢つ張個單製作。粘土以外に於ても所謂共同製作さ云ふか、繼續製作の他に矢つ張していらつしやるか。

(徳久) 或は畫を描きますか、塗繪を致しますか。或は何も申しますか。

(倉橋) それは共同製作さ云ふ方は其處に先生を離れ、幼稚園を離れ、共同製作のテーマが中心になつて子供の生活を引き張つて行くと思ひますから、何時やることもなく、何

時やることも知れず、しよつちう、一人く違つて居てもいいのです。或時は興味がすつと續いて當分そればかりでやつて居る事もあり、飽きる事もあつたり、變化したり何かある様です。さうでなく先生の方から手技の目的を示して、斯う言つた様な教育効果を計らうと云ふ事

なさるゝすれば、これは先生の量的回数で配當の問題になつて来るのですから、それはやつていらつしやいますか。

(徳久) やつて居ります。

(倉橋) 何の位？ そればかりやつていらつしやる、手技に何時間？ 何回数と仰有るか。共同製作をやつて居る時は個單製作は少いかも知れない。共同手技のない時は個單手技が非常に多くなつて来るかも知れない。其處に多少の違ひが出て来ると思ひますが。昔の幼稚園は個單製作ばかりやつて居たのですが。貴女の所ではさうでない様に洩れ承つて居りますが。

(徳久) 致します時によりまして大變違ひます。例へば動物園とか、賣屋を計畫して居ります時は品物を色々作つて居りますと、自然に粘土をするとか、塗繪をするとか

云ふ事が少くなります。店の品物を作るので。その時によ

りまして大變違ひます。

(倉橋) 一年間なら一年間、幼稚園に居る間にこの位の個單製作をさせ度い云ふ標準はお立てにならないのですか。

(徳久) まあ共同製作が主で、別々に之を仕上げ

する、云ふ事は別に決めてございませぬ。

(倉橋) 其處らの問題 大體に手技—粘土は何の位、紙細工は何の位させる、云つた事を矢張配當として計算出て来る様に、やつていらつしやるかは思ひますが。坂内さんの方は何うですか。

(坂内) さう詳しくして居りませぬ。矢張共同製作も致しますが。

(堀) それでその手技を、種類を何れ位、個單製作の方の手技がどれ位、種類があつて、それから實際、現在どの位種類、やつていらつしやる？ それで粘土細工なら粘土細工が一週に一週とか、割合はありませぬか。

(坂内) 粘土は板が全部の設備がないし、準備が小使も

出来ませぬし、季節のいゝ時は一週一度位日を決めてして居りますが、教材の都合があります、寒くなれば致しませぬし、餘計曇つて居りますと致しませぬから、凡そ設備的には一回、本當の個單製作の時。

(倉橋) 共同製作—合複製作。(笑聲)

(坂内) 合複製作が多いかも知れませぬ。白狀致します。大きな合複製作は出来ませぬけれども、合複製作は考へ様によつては色々出来ますのですから、最後に合複製作にするにしても、或は何の子を見ても個單的にやつて居りますけれども大きな所に纏める様にやつて居ります。それに就てもこの頃の様に玩具屋さんしようと言へば、毎日く紙細工をやつて居ります。さう云ふのも大きく一學期の終りに玩具屋に纏めます。後は七夕とかお雛様とか、年中行事に支配されます。

(倉橋) 土川先生の所では手技に重きをおいていらつしやいますが、所謂手技に重きを置くのも、手技が多いと云ふだけでなく、一層保育項目を系統付けた、システムティックにやつていらつしやる事と解して、何う云ふものを何

の位、云ふ配當は？

(土川) 配當？

(倉橋) 所謂共同製作の方で必然的に導き出す事によつても指導は出来ませんが、個單製作と云ふ意味から言つても、粘土製作價値と云ふものが特別に研究されて居ないから粘土製作を幼稚園ではうつちやつておく、と云ふ、これも問題になると思ひます。

○個々の子供として

(倉橋) 扱て色々して参りましたが、その配當に就て何處かにしよつちう、奥歯に挟つて居るが—私の蟲齒の中に小豆が一つ這入つて居る。家迄保存して歸らうかと思つて居りますが—所謂配當して見た所で劃一齊主義的に配當されて居るか何うかは別問題であります。今日のお話は全體幼稚園と云ふ保育そのことに於て何う配當したらいか、と云ふお話ですから其處の問題を徹底して置くこと云ふは、所謂一人一人への配當關係と云ふ様な問題こそ、實に大事なものになつて来ると思ふ。それが旨く出来れば、

所謂先生の配當の教育の目的論ミ、個をきんな風によつて行くか、ミ云ふ生活形態の問題ミが其處で旨く調和して行くかも知れないと思ひますが、個の配當ミ云ふ事に就ては随分面倒な事です。個の配當は難しいのでありますが、確か及川さんが御自分の幼稚園で（笑聲）さう云ふ事をお試みになつた様でありますから、その時の話をして下さいませぬか。

（及川） あれは今年出た組でございますから大きい組でしたね。二年目の幼児に一年位して見たのでございます。何枚か表が溜つて居ります。未だ結末が付けてないのでございますが。毎日日誌の代りに一人づゝの日誌をつけますが、言葉で書くのは面倒でございますから符牒でやりました。それを纏めておけば今日何か御参考になつたかも知れませぬ。

（倉橋） お纏めになるミ結論が出て又別に非常にいゝお話が承る事が出来る。今は未だ個の配當ミ云ふ事ははしりの問題だと思ひますが、それを餘程書き通したミ云ふのですか。

（及川） 何うしても私は堀先生や土川先生の方の様にさせませんで、手技を澤山して居りますの。さう云ふ様に傾いて居つたと思ひますけれども、男の子なんかこても嫌がる子供もございすし、何れだけ構はないで置いて置かうか、ミ云ふ様な一あの組が大變亂暴な子供が多かつたせいもございすすけれども一さう云ふ風な子供はちつとも何にもしない様な日が、幾日も續く。それを見てびつくりして、

（倉橋） 實にびつくりして。（笑聲）

（及川） その子供をつれて来て殆ど手傳つてやつて興味を湧させようとして、拵へてやつたりいたしました。それが動機であんなものを作り出したのでありますから、その作つたそれを、

（倉橋） それをやつて御覽になつたやり方を。

（及川） それは出席簿の様につつま横に子供の名を書きまして、縦に日を書いておいて、唱歌遊戯お話、さう云ふものは赤で一吋印しをつけ、印しのついて居る時は唱歌をした。皆なしな様な日もございすから、した子の下に

印しをつけ、印しのついて居る子でその子が皆なミ致した時は皆な何の子にも印しをつけて。それで遊戯なんかは新しいのをした時は遊戯の名だけ書いておきまして、一人の子供の所に書いておきました。手技だけは銘々進度も違つたり、材料も違ひますからそれだけは記しておきました。

(倉橋) 全體的結論を纏めておらぬさうですが、ずつみやつていらしつて初めびつくりなさつた如く、實にびつくりする様な個の差が出ますか。

(及川) 自分では今迄唯の保育日誌をつけて居りました時には何々製作を書きましても、誰が何をした云ふ事は解らない。特に嫌ひなもの、何にもしない様な子は一人か二人、覚えて居りますが、したのかしないのか解らないもやくくした子供が何時も残されて行く。中間の者が多いのでございますね。好きでてもする子供ミ嫌ひで砂場ばかりで遊んで居る様な子は普通の保育日誌でも、つけなくても長く記憶に残つて居りますが、ごつちこもつかない様な、何時の間にか逃げて行く様な子供、さう云ふ子供の進度な

んかもよく解る。

(倉橋) 伺つて居るミ所謂子供に何う云ふ差が出るか。びつくりしたから、卒倒なさつたから(笑聲)、差を個性的に明かにしよう云ふだけで、科學的目的ではなくて、すぐ片寄らない様にしよう云ふ教育的な目的でお作りになつたのですから、あれをつけようとするのが。成可く片寄らない様ななさつた結果が變つて出て居るのですね。

(及川) 好きのはい、んでございます。消極的になるのでございますが。

(倉橋) これは一つ、私力を入れて申上げますが、これからも大いなる研究問題ではないかと思ふのです。さあ幼稚園としては何う云ふ形、研究問題ミしますか。私達がよく聞かれる話では保育項目の夫々に對する子供の型ミ言ひますが、傾きミ云ふものが違つて居つて、ある保育項目に非常に片寄る子ミさうでない子がある。中には全然したくない。それをさせれば幼稚園に行かぬ、云ふ子供がある。先程先生の方の御都合次第です。斯う云ふ問題に觸れて來るミ子供の方にさう云つた事が事實の上に表はれて來

る。事實の上に出て来るミ云ふ事は、先生の個性心理學に基くものであるか、先生の指導宜しきを得ないか、却つて教育の缺陷によるものか、それは暫く別問題であります。

其處でそれらの事で多くの幼稚園の先生は、兎に角困り抜いてその子だけに全力を其處に注がなければならぬミ云ふ様な、いミ惱しく考へる。唯さう云ふ實際問題のみならず家庭の方でそんな話を言つて來ます場合は親は親馬鹿か何か知りませぬが、片寄る所にその子の價値を認識しようとする。さう云ふ様に天才だミ見て居る。子供が天才であるか何うか解りませぬが、其處で傾く子ミ、これも程度により事情により色々あるでせうが、それに對する全體的の教育的……小學校に於ては一層問題になつて來るミ思ふ。併し小學校も幼稚園も原則ミして、幼稚園ミして考へなければならぬ事がありませうし、其處を堀さんに何つて……。

(堀) それは困つたな。皆さんの實際家に聞き度いミ思つて居た。さう云ふ場合何うなさるか。

(倉橋) 何うすべきかに就て、大體でも。

(堀) 我々聞く所では所謂無理をしてはいかぬのでせ

う。所謂保育に於て無理をするのはよくないのかミ思ふ。

(水野) 私嫌いやな事でもさせなくてはいけないミ思ひます。嫌な事をさせないミこれから社會に出ますミ、嫌な事が澤山ありますから嫌な事をしないで居りますミ、人後に落ちて了ふ。嫌な事を嫌でもさせるのがいミ思つて居ります。

(倉橋) 御同感です。けれどもそれは訓練論的立場に於てのお話で、その保育項目の持つ幼稚園の訓練もありませうけれどもその保育項目の一つミが持つ效果に於てどうするか。好き嫌ひを勝手にする、我儘を許すか許さぬかミ云ふ事でなく、教育ミしても其處に問題が起つて來るのではないか。誰も我儘者ミしては、積極的に同意する人はないミ思ひますが。

(水野) 一寸斯う云ふ事がございます。その子供が手技が、自分がその嫌いやなんでございます。嫌いやだから嫌きらひだしするからさせない。他の子供は作つたものを持つて歸る、その子は持つて歸らないミ、先生は家の子供に教へて呉れないミ云ふ御不満が出た事がございました。

(倉橋) 遊びの嫌ひな子供、サークルに這入らぬ子供、

これは遊戯ミ云ふものが一種の、これ個單遊戯、遊戯の方は個單でせうけれども、一人踊りなんかいでせう。一人談話、一人製作はあるでせうが。其處にその嫌ひな子供を入れる、その遊戯が旨いかぬミか、遊戯が旨く行かぬ爲に他の子供に及ぼす保育項目ミしての保育効果を完成せしめない、ミ云ふ事に於て、御心配になつて居らつしやる。

その子を入れ度いミ非常に骨が折れる、ミ云ふお話があつたら、それで私ならば優れたる技倆をもつてその嫌ひな子供を遊戯を好きにして見せる、ミ確信をもつてをりますが、これ、容易ならざる事だから、後日御質問が出るミして、

何處迄もその人の努力を豫想しないで、さうしなければいかぬ、ミ言つた所で概論にはなるけれども、その子供に對する答にはならない。概論は講義には言へるのですが、私に聞きに來た人に、その人が困り抜いて居る時に、「いや何うしてもやらなくちゃならぬ」ミ云ふミその人、泣き出しちやふ(笑聲)。「それはまあ、仕方がない。さうしておいて大勢の子供の方に遊戯ミしての効果を充分にしてやつたら

いゝでせうから」ミ何時でも逃げておく。

(堀) 其處が矢張り。小學校の教課目ミ違ふ所でせう。保育項目ミ云ふものが、時間數も決めてないし、これだけミ云ふ程度も言はない様に、中の種類も喧しく言はない。それで劃一に是非これだけやらなくてはならぬ、ミ云ふ事を要求する事も出来ないし、する必要もないじやないんですか。僕はさう云ふ風に解釋して居る。

(坂内) 子供の習慣で初め幼稚園の生活に這入つた習慣で違つて。

(倉橋) 大分おそくなりました。堀さんのお話を聞いて安心して寢ようじやありませんか(笑聲)。さうも大變いろいろ有難うございました。後は御都合で御ゆつくり。

(以上・文責在編輯部)

何だかまだ伺ひ足りない様な氣持で、けれどもいろいろと心身に榮養を、研究のヒントを、澤山にあたへられて、満足な心持で散會いたしましたのは午後九時も大分すぎた頃でございました。

兒童心理學文獻抄 三

牛島義友

九〇

親の職業、貧富の影響

C 親の職業

家庭の職業の如何によつて子供の知能や性質が相違して来る。この事は如何なる理由によるのであらうかは後の問題として事實を少しく述べる事とせやう。

松井詮壽氏（親の職業と其子の知能との關係 教育心理研究第二卷）が東京市の約二千名の小學校六年生に知能検査を施し親の職業別に分類した所、次の様な結果が現はれて居る。之は學校の成績ではなく生來の知能であるから、たゞひその差は小さくとも、注目すべき現象である。

知能指數の平均

専門的職業

一〇四・三

事務的職業

一〇一・二

商業

九八・〇

特殊營業

九五・七

無職

九六・八

技術的職業

九五・六

半技術的職業

九三・四

勞働

八九・八

此中専門的職業（醫者、辯護士、教授等）と勞働者との子弟の知能の相違は非常に著るしいものである。尙以上の職業を頭腦勞働者と筋肉勞働者とに大別して見るに前者は平均九八・八七、後者は平均九二・八三となつて居る。かう云ふ事實はその他の研究にも同様に表はれて居るが家庭的狀況の研究の代表的なものとしてターマンの天才兒に就ての研究を詳細に述べやう。

天才の發生的研究 (L. M. Terman: Genetic studies of Genius, 1925)

彼は知能指數百四十以上の天才兒童一千名に就てその身體、精神、學業成績、家庭狀況等に就て詳細なる調査をなし、而も六ヶ年後に同一兒童が如何に成長し、初めの期待を果しつゝあるかを研究したもので天才研究の權威とされて居るものである。今かゝる天才兒童の家庭狀況に關した點のみを見る。先づ家庭の職業を次の四つに分け天才兒の家庭の分布狀態と一般職業の分布狀態を較べて見て居る。一般に云ふのは天才兒を選び出した地方即ちロサンゼルスサンフランシスコ一帯の職業の分布狀態を指すのである。

	天才兒の家庭	一般職業分布狀態
専門的職業	二九・一%	二・九
官吏	四・五	三・三
商業	四六・二	三六・一
工業	二〇・二	五七・七
専門的職業	は辯護士、技師、教師、醫者、宗教家、藝術家等であつて、一般の分布は非常に少いにも拘らず澤山	

の天才兒を出してゐる。次にこの場合の官吏は郵便局員、陸海軍人、巡查、消防、が主であつてまづ下級官吏である。之からは餘り多くの天才兒は出て居ない併し一般の数も少いのであるから其割合は第二位である。商業は米國の中堅階級を構成する分子であるが此の中からは多くの天才兒が出て居るが人口の割合から云ふと専門的職業に及ぶべくもない。工業の中には大工、機械師、仕立屋、ペンキ屋、床屋、寫真屋、等が實際に含まれてゐるのであつて、一般職業の過半を占めるものであるが、その中からは割合から云ふと極少數の天才しか出てゐない。次に經濟的狀態を見る爲にその家庭の年收を百七十家族に就て調べた所次の様になつて居た。

年收	家族數
一二・五〇〇弗以上	七
一一・五〇〇	四
一〇・五〇〇	三
九・五〇〇	八
八・五〇〇	二

七・五〇〇	五
六・五〇〇	五
五・五〇〇	十二
四・五〇〇	十五
三・五〇〇	十九
二・五〇〇	三〇
一・五〇〇	五二
五〇〇	八

平均は四七〇〇弗であつて六十名(三五・三%)は年収二五〇〇以下である。この額は當時の北地方に於ける普通の熟練職工の年収に相當するものである。又七・五〇〇弗以上は二十九名(一〇・七%)に過ぎず大部分の者はその中間にあり經濟状態から云ふに中産階級が多い。

次に家庭の狀況が子弟の教育に好ましいかきうかを學校教師に問合せた折、次の様な報告を得て普通の子供に比し天才兒の家庭は恵まれて居る様である。

A、好ましき事情

天才兒の家庭	普通兒の家庭
八五・一%	六五・八%

内

組織的家庭教育	四三・四	三〇・七
善き環境	四一・〇	三〇・四
両親の高等教育	〇・七	〇
その他	〇	〇・六
B、好ましからの事情	八・六	二四・一

内

溺愛	三・四	四・四
親の死亡	一・二	四・四
離婚	〇・五	〇・六
監督不完全	一・四	三・八
下宿生活	〇・七	三・一
苛酷	〇・二	二・八
その他	一・二	四・九
C、その他	六・二	一四・一

かくの如く天才兒には好ましい條件が多く、好ましくない條件は普通兒より少い。尙又家庭の監督状態を見ても遙かに好ましくなつて居り、その状態を別の立場から點數で示して居るがそれによるに不良兒の家庭が一・八四に對し、普通兒の家庭は三・七、天才兒の家庭は四・六になり、不良

兒を生むか、天才を作るかには親の配慮が非常に關係して來るこ云へる。

尙その他ターマンは家庭の教養状態を知る爲に是等天才兒の家庭所藏の書籍數を調べて居るが平均三二八冊で次の様になつて居る。

書籍數	家庭數
〇	七
一〇	一五
二五	四一
五〇	一一九
一〇〇	二二五
五〇〇	一〇六
七五〇	五七
一〇〇〇	四三
二〇〇〇	六

此の數を見るに少數の家庭を除く他は藏書數が案外に少く、百部以下の家庭が多いのに驚く、之は米國にいふ實際的國民の生活を反映してゐるものであらうが、子女の文化的教養の爲には多く讀まるべきだと思ふ。

以上は天才兒に就ての話であるが低能兒の場合にも同様な事が云はれる。バタソンがミネソタ州の低能兒學校に入學してゐる者(八百二十三名)並びに入學を待つてゐる者五百十二名の親の職業を調べた所知能の高い事を必要とする職業よりも知能を必要としない非熟練工等の家庭から非常に多くの低能兒が出て居る事を知つた。是等の事實は家庭の職業、貧富とその子弟の知能との間に密接な關係のある事を示すが、こゝから直ちに親の職業、階級が知能優劣の原因であるを推論する事は正しくない。むしろ、その反對に知能の低い者は生存競争裡に於て自然下層階級に遂ひやられ、下層階級の者に知能の低い者が集まつて來る。此の低い知能が子供に遺傳されて來たを考へられる。

併し斯る一般的關係の他に親が職を失ふといふ様な事に遭遇するに子供は精神的に非常に大きな衝撃を受け、學校成績等はその爲に急に悪くなる事がある。ブーゼマン及びバールの研究によるに失業者の子弟と非失業者の子弟との學課成績を較べた所、前者の平均點三・一五であるに對し後者の平均點は二・八〇であつた。(但しこの點數は一點より

五點までで、一點が最高で數の多くなる程成績の悪くなる事を意味する。即ち失業者の子弟は非失業者の子弟より明らかに劣つてゐる。而るに是等失業者の子弟といへば、親の失業前は平均二・八一點を得てゐた。之で見ると親の失業が明白に學業成績を低下させた事が分る。

以上は主として知能に關係して述べたが、知能即ち生來的素質ですらもこの様に家庭の状況により影響されるが性格の方は一層多く家庭の状況に支配される。之に就ては一論述するまでもなく吾々の日常見聞して居る事實であつて子弟の教育には健全なる家庭が絶対に必要である。

不良兒の發生する原因として家庭的環境を考へて見るに普通兩親の有無が問題とされて居るが、眞に大切な事は何歳位の時に親と別れたか云ふ事である。最近の調査によるに三歳以前で親を失つた者が不良兒の中の親無し子の三割を占めてゐる事が明白になつた。即ち、親に早く別れる程不良化する割合が多くなる事が判る。又親の無智、無能、疾病、或は父の不在勝ち、母の職業等の爲に家庭の監督不行届が不良化の原因となつたり、兩親の極端な無頓着が災

ひする事が多い。ウィリアムスはオハイオ州の少年審判所にて扱つた四千の事例の中から不良化の原因を二百程數へて居るが、その中でも重要なものは監督訓練の不足、惡友、怠惰、家庭の不和、家庭に於ける道德標準の低い事、等であつて、身體的條件とか遺傳、疾病等よりも遙かに重要になつて居る。

又不良化の原因としては貧困といふ事が中々重大な問題である。浪速少年院兒に就て調べた所によるに、月收五拾圓以下の者が

月 收

五拾圓以下

五一・九%

百五拾圓迄

三四・九

百五拾圓以上

一三・一

大半を占めてゐるのに驚く。上層階級から不良兒の出る事も屢々耳にするが之は特殊なセンセーショナルな出來事であるので新聞紙上に大きく報導されるのだが、不良兒の實際の大部分は細民階級から出るものである。又東京府兒童研究所に於て扱つた不良兒の家屋の (以下一二頁へ)

手技の材料

及川ふみ

幼児に何か製作させる時のやり方に、二つの道があると思ひます。その一つは、製作するものを先づ最初きめておいて、それに入用な材料をあれこれ集めてやり出す一つの方法、たゞへば一つの家をつくるこいふこをきめて、堅いボール紙も入用だ、うすいボール紙もほしい、模造紙もラシヤ紙も、こいふ様いろく様々の材料を集めて製作にこりかゝる、これ一つの方法であります。

あこの一つは、ある材料でもつてそれを利用していろいろのものをつくる、これ又一つの方法であります。この二つをどちらがより多く行はれておりませうか。製作に必要なものをあれこれ集めてつくる方法、あるものを利用し製作する方法、この二つがいつれが優劣、いつれが難易、こいふ事は時々場合によつてきめかねるのであります。けれども幼稚園で實際やつてゆくこいふ事になります。

ある材料を利用して何か製作するこいふ事は經濟的に樂なこころでありますから實行しやすいわけであります。けれども實際の様子ではそのやり易い廢物利用的のものが少い様に見受けられるのであります。幼児に廢物利用ばかり指導してゆくのはあまりにも消極的手段に見えるかもしれませんが製作の教育的價値なこいふ事になります。一方の方よりも優るこも劣る事はないのであります。

幼稚園だからこいふのであへて新しい材料ばかりのへなくともよいのであります。

普通家庭で母の手あそびであり合せのもので何かつくつて幼児をたのしませ、又幼児自らもつくるそのたのしみは幼稚園にもあつてほしいものであります。寒くて外あそびの困難なこの學期なごお部屋のお仕事をたのしくさせる事は私共大いに考へなければならぬ事でありませう。

その一例に別圖の様なもの御参考までにのせて見ました。パットの空箱、これはごこのお家でも捨てるのにこまるほぎたまります。

外箱を胴にして、内の白い部分で顔や首や尾をつくつて見ました。これは私がこしらへましたものですから、きちんときちんさいやに整つた形になりましたが幼児に箱を與へてすきな動物をつくらせましたなら、ミウのはない味のあるいろくのものがつくられる事と思ひます。先生がこんなものを幼児の眼前でお話でもしながらこしらへて見せます。面白がつて自分でもつくり出します。材料は一人くんの幼児に豊富にあたへられますし、費用はいりませんしこんな重寶な材料はありません。

動物ばかり出来るものではありません、汽車にもなり、電車にもなり、軍艦にもなり又女兒には小箱なごにもなります。生地のみでもよければ、色紙をその上にはつたり繪具でぬつたり工夫をすればいろくのおもちやが出来ませう。

材料も煙草の箱に限られた事ではありませんキャラメル
の箱でも石鹼の箱でも何からでもはじめられるのでありま

す。

キリン、ゾウ、カバ、ウシ、ウマ、のつもりでこしらへて見ましたがは何にお見えになりますか、幼児にはそれぞれ墨やクレオンで顔の諸道具をおかませ下さいませ。

お人形の仕舞ひ方の歌

山田徳兵衛

地久節もひいなの前に壽きて

晴れたる日にぞ仕舞はるべし

羽根ばたきとばら毛の筆にこまんと

埃拂へば色は變らず

人形の顔に肌へに指先の觸れずば

永久にしみをのこさず

柔かき薄き紙にて包まれよ

いさゝかとても綿な用ひそ

蟲除けに新聞紙はよけれど

直に觸れては變色の原因

箱毎にほのぼの匂ふナフタリンか

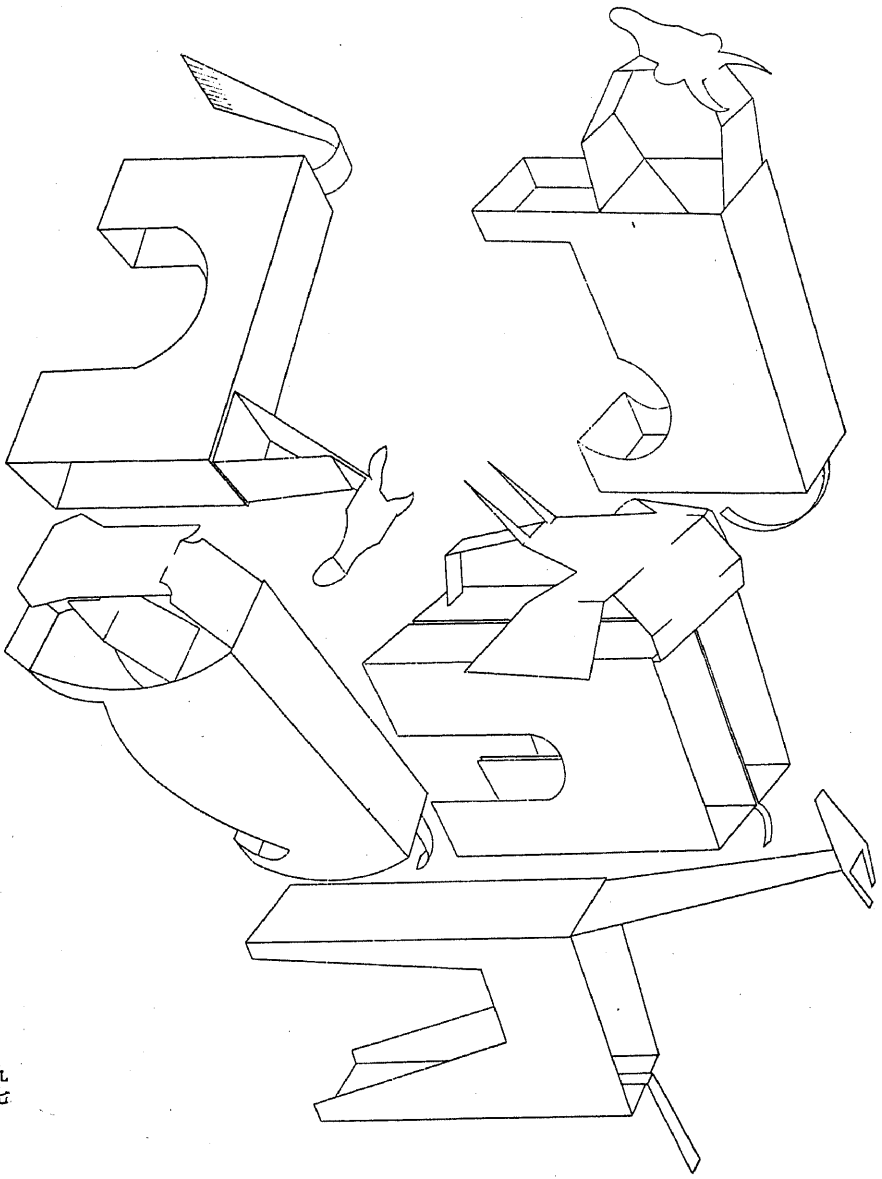
樟腦の香に蟲は生れず

矢羽根など鳥毛は蟲を除き得ず

離して藏す事が安全

濕氣なき場所に置かれよ

さりとても乾きすぎればひたわれのもと





あなたの机上へ

性格心理學と兒童研究

文學博士 小野島 右左雄著

個性及び性格諸問題について、特に兒童を對照として説かれたものである。保姆としての立場から云へば、前半が殊に直接關係深き部であらう。

最初の「態度と性格」の種々相を讀んで見ると、心理的同一事實に對して、世界の心理學者が各々異つた見方をしつてゐるのを知るのも面白い、と同時に自分の組の子供の一人づゝの生活態度が髮髻として思ひ浮ばれる。

次に、著者は、保姆が幼兒の精神生活日誌を丹念につける事によつて、個性及び性格を知る最もよい方法であると説かれてゐる。氏獨特の位想觀察法

を讀んで見ると、「若し、根氣よく研究出来る人であるなら唯一人の子供だけに就て一ヶ月位毎日觀察記述すると、次第に兒童そのもの興味が起り、自分の考へつゝあつたものと或は一致するに驚き、時に之から可なり偏異するに氣付くこともあらう。若し根氣よく研究出来る場合でも同一兒童を一週間も觀察すると可なりの習練が得られるであらう。従來何等の實驗的研究に習練を持たぬ人々は最初數人に就ての記録は放棄する覺悟を持たねばならぬ」と教へられてゐる。これについて、小野島式個性調査表を示されてゐるが、幼兒の生活をこゝ細密に記録する表として大いに參考となる。

國語に於ける心理學的な問題につい

ては必讀の要がある。幼兒の個性や性格を知る方法として、繪文字や表意文字、音聲文字の研究が説かれてゐるが、就中繪文字發展の段階と、幼兒の繪畫の發展との平行については、最も興味ある問題であらう。

この書の後半は心理學一般に關する問題であつて、世界に於ける最近の心理學の諸問題又は現代の心理學の諸相その他であるから、いさゝか専門に互る部である。

この外「學習と性格」、「思想統制の理論」、「體育の心理學的研究の二、三」も特に幼兒生活に關連深い記事として讀まれた。

但しこの書は、心理學に相當の造詣を有ち、且つ幼兒の實際生活にかなりの經驗を経てから見る時は一層得る所が多い。今少しく易しく書かれたこの種の書が欲しいと思ふ。(中文館書店 定價金貳圓七拾錢) (新庄よしこ)

情操保育の一日

名古屋市松若幼稚園

幼児時代の凡ての生活が、その性情を造り、或は其の一生を支配する程の、大切な事であるやうに思はれるれば、親や教育者はいつもこゝに注意し、たへすよい環境におかねばならない。

我園々主の夫人(幼児一人の母)家庭教育に熱心な、こゝに情操教育につぎめおられる方だが、或日一組の友達を招いて遊ばせたいとの相談を受けた、前にも一度よせて頂いた事もあつたので又々喜んでお邪魔することにした。

おしらせ

菊ももみぢも名残をおしむ頃になりました、幼児達は相變らずお元気で真によろこばしい事でございます、さて来る十一月二十日園主後藤さんのお宅へ本園榊組幼児全部お招きに預りましたからお連れします、左様御承知下さい、當日はおかばんおべんごうはいりませぬ、午前十

時出園午後三時半歸園いたします、ごうぞそのおつもりにてお迎を出して下さい

十一月十六日

松若幼稚園

榊組幼児

保護者 殿

毎日の如くに幼児らが、先生もいくつか寝る光ちやんのお家へゆくの、お母さんがね、お行儀がわるいこ連れていつて頂けないよこ、いゝなさつたよ、なごゝ保育の折々に、幼児の口から洩れる、受持の先生も嬉しさうなお顔つきである。二十日誂へたやうなうす雲さへない小春日和であつた。

出席幼児 三十四名

缺席幼児 二名

保 姆

三名

前日先生が、「みんなお洋服だつてよい、お母さんのきせ

て下さるものをきていらつしやいよ、お小言なごいはないやうに其代りお鼻汁を出したり、お鼻糞をつけてゐたりしては幼稚園でお留守番してゐるのよ」ミ御しやつたこの事道理でいつもお鼻汁の大將のTちやんKちやん今日は奇麗なこも、先生ニコくして他の組の先生に「今日は満點でせう」ミおつしやる、幼児等はハンカチツリをつけなほしたり鼻紙をたゝみ直したり忙しさうであつた。

十時四臺の自働車に分乗して園主のお宅へミ走つた。

光彌さんミ佐保子さんが、お祖母さまやお母さまにお手を引かれてお迎ひに出て下さつてる、常に締めてある裏門が明いてる、ドヤくミそこからお庭へ入つた。

先生方がお家の方ミ御挨拶をしてゐる間に、もうブランコ、迂り臺、砂場、に走つたのである、キャツくミ喜んで三輪車に乗かへ自働車やトロッコの遊びに夢中になつておる、仔犬を抱いて母性愛を發揮してゐる女兒もあるが、犬はやゝ迷惑らしく感じておつたらしい。

お家の中にもお縁側にも、三人四人ミ固まつて遊んで誰一人手持不沙汰な兒がない、お卓の上にもミ道具一式

がある、大根人參お菜つ葉が排んで美しき彩を示してゐる、抽出の中から炊事前垂を出してちやんミかけて、はやお勝手料理をしてゐる、お座敷が明けはなされて廣々してゐるので、長いくレールをしきボツくシユツくミ汽車を走らせる、積んではくづし崩しては積む建築家も鐵道技師も、今日は温順しい、寢臺にお布團をしき靜かにおねんねをさせられてゐるお人形も幸福だミ思ふた。

所狭きまでに柵に飾られた玩具スクラップブックをほんその他のお遊び道具を、遠慮なく使はせて頂く興悅のおかげで先生方もものんびり傍觀させて頂いた。

十二時幼児本意の食堂が設けられ他からおいでになつてるお客さまミ四十五人キチンミ座して、ズラリミ排べられた「子供ランチ」一皿ミお飲物ミの美しい色ミ香が味覺神經をそゝつておる。

一同初めてお家の方に御挨拶をし、光ちやん佐保子さんの祖父様(前園主)の額に禮拜し、いたゞきますの聲にお食事が始まつた。

A 幼兒 おいしいな

B 幼児 ウン、松坂屋の食堂よりおいしいな

C 幼児 光ちちゃんのおばさん松坂屋の店員になるさい、

わ

ミ一同ドット笑ふ、おばあさまお母さまのお心づくしの程がこの一言で現はれた。

此日幼児の爲にミ、童話家松永亮逸先生を招待して下さつたので、御飯がすむミ面白いワン〜のお話をして頂いた。

上品で而も巧妙なお話振りに一同落ついた、幾度か吹き出したが引きつけられて仕舞つた、ながい〜お話も短くて終つたやうにもう一つも一つミ遂にお副物までして頂いたがお話のすむミア一面白かつた、サアまたお遊びミ午前にも増して大元氣である、その後繪を畫くものもあつて時の移るも知らぬ程である、二時半お手々洗ふてお八つを頂く、サツサミ頂戴して「やさか皿」のまゝハンケチに包み、「お母さんのおみやげ」こいひながら高く上へ上げれば、僕は「お皿だけお土産よ」こいふのもあつて又笑はせた、木工のトラックがキャラメル荷物載せて男兒の前に停りお

布團の上に寝かせられた愛くるしいお人形が女兒の前に
り何れも有難う〜喜んだ。三時十分豫定より少し遅れ
て又も自動車に送られて園へ歸つた。

東京女子高等師範學校 保育實習科生徒募集

一、一月二十一日の官報で發表される筈です。

(詳細を學校宛お問合せの場合は貳錢切手封入のこに)。

一、願書受付は二月八日から三月九日までの間の由です。

童話 王女の猫の話

— カレル・チャペック —

1011

五

さて魔法使ひは見事にシドニー・ホール君に捕まつてしまひましたので、今度はいよく盗まれた猫を取返す裁判が開かれることになりました。

高いテーブルの向ふ側には嚴格なので名高い裁判長閣下が、デッブリ肥えた體を威儀を正して坐つて居ります。被告席には魔法使ひが手を縛られたまゝ席につきました。

『不埒者、立て!!』と裁判長は雷様のやうな大聲で申しました。其方は當國の生れ、當年三つで一歳に相成る王様の小猫スーザンミやらを盗みこつたと言ふことであるが、しかみ左様であるか、それとも何ぞ異議があるか。』

『しかみその通りで御座います。』魔法使ひは低い聲で答

へました。

『嘘を申せ、不届者めが。』又しても雷が落ちました。『其方の申すことなご一言も信用しはせん。證據固めを致す必要がある。コラコラ者共、證人を呼び出せ、エート、最初は王女様から御連れ申上げるがよい。』

で人々は證人に王女様を御連れ申しました。

『これはこれは王女様、裁判長閣下は急に可愛らしい猫撫聲を出して申しました。』この不届者が王女様の猫を盗み取り出したので御座いませうな。』

『エ、そうだわ。』王女様は御答へになりました。

『この不埒者めが。』又しても大雷であります。『さてこそ貴様は有罪と決つた。だが一體、何故あつて盗んだのぢや

中野好夫

『イエ、實はあの猫が私の頭の上に落ちかゝつて參つたので御座います。』

『又しても嘘を申す。』裁判長は魔法使ひを頭からきめつけるミ、クルリミ王女様に向き直つて、これはまたひびくやさしい聲で、『王女様、王女様、彼奴はさうして王女様の御猫を盗み取りましたので御座りませうな』。

『あの人の言つた通りだわ。』王女様は御答へになりました。

『これややい、嘘吐き。其方がぎの様にして猫を盗みさつたか、よく相分つた。だが何故あつて盗んだミ申すのぢや』。

『イエ、その猫は實は落つこちまして、可哀相に足を折りましたもので、私は繃帯で出してやつて、なほしてやらうこ存じまして、外套の下に抱いてつれて行つてやつたので御座います。』

『大それた奴ぢや、其方の申すこゝなご、みんな眞赤な傷りぢや。あゝ、證人を呼び出せ。居酒屋の亭主をこれへ呼

そこでまた人々は證人を連れて參りました。

『これや亭主。』裁判長閣下は聲高に申しました。『其方はこの犯人に就いて、ごのやうなこゝを承知致して居るかな』。

居酒屋の亭主はおそろしく申上げました。『これはこれは裁判長様。イヤほんの、この御方は手前の店へ一寸御出でになりましたな。なんでも外套の下から黒い猫を一匹御出しになつてな、足に繃帯をしてやつて御出でのやうで御座いましたつけが』。

『フーム、多分その方の申すこゝは嘘であらう。だが、コレコレ、それから此の男はその猫をいかゞ致した』。

『それからで御座んすよ、』亭主は申しました。『その猫をホイミ放しておやりになりましたな。猫の奴め、喜んで逃げて行つてしまひましたよ』。

『コレやい。獸物いじめを致す不届者。』裁判長は魔法使ひに躍りかゝらんばかりに、怒鳴り立てました。『貴様は猫を逃がしたのだな。猫は逃げてしまふた。今何處に居るそ

の王様の猫は』。

『イヤモウ多分あの猫の生れた家へ歸つて居りませうと存じます。』魔法使ひは申しました。『裁判長様、それが猫の



天性で御座いますよ。』

『おのれこの恥知らずめが!!』裁判長は獸のやうに唸りました。『貴様はこの俺に説法致す所存か。これはこれは王女様、』又しても王女様の方を向いて、ひびくやさしい聲で

申しました。『王女様御寵愛のその小猫ミやはまついかほごの値打のもので御座いませうな。』

『そうネ、御國を半分やらうと言はれても、妾、スーザン人を人にやらないわよ。』

『コラ聞いたか、さうだ、不埒者め。其方は王國を半分盗み居つたも同然ぢや、あゝ、勿論死刑ぢや、可哀相ぢやがな。』

それを聞くミ王女様は魔法使が何だか可哀相に思はれて仕方がありませんでした。ですぐに、
『そうネ、妾、お菓子一片でスーザンをやつてしまつてもいゝわ。』

『ホホウ、御菓子一切の値打ミ申しますよ、一體王女様……』

『そうネエ、胡桃の御菓子なら壹錢、莓の御菓子なら貳錢、クリームの御菓子ならば參錢……』

『それで王女様はスーザンの代りにごの御菓子がよろしく御座いませう。』

『それや、妾、クリームの御菓子がいゝわよ。』

『コレコレ、被告。してみるに其方は參錢がものを盗んださまづ同然さいふわけぢやな。では法律によつて、エート、三日間入牢申しつける。サア、サア、三日間牢屋へ參れ、アーン、この不届不埒不所存千萬の惡黨め。こころで王女様、』又しても王女様の方を向いて申しました。『誠にさうも王女様の御發明御賢明な御言葉、千萬有難う御座ります。さうか陛下によろしく御申傳へを願ひ上げます。』

そこで人々は魔法使ひを牢屋へつれて參りました。そして黴の生えた一片のバンミ、水差しに腐つた水を一杯さおてがつて行つてしまひました。それでも魔法使ひはじつみ坐つたまゝ、ニコく笑つて居りましたが、その二つの眼は段々美しく輝いて參りました。丁度真夜中頃でありました。魔法使ひはムクく起き上るに、サツミ手を一振り致しました。サア、するさうでせう、それは美しい音楽が聞えてくるし、まるで何千さいふ花の上を吹いて來る風のように、室の中の空氣まで何にも云へない芳い香りで一杯になりました。それから御覽なさい、青い物一つ見えなかつた牢屋の庭に今を盛り咲き誇つた薔薇の樹がヒョト飛

び出して來ました、眞白い百合の花は一齊に頭を上げて銀色の御月様を見上げました。バンジーや鈴蘭の花壇がアツさいふ間に一面に花を着けました。ガマズミや芍薬の花は重そうな頭を風にユラユラ揺られてゐました。サンザシの木は身體一ぱいに薄桃色の衣を着け、一番高い梢では夜鶯が咽喉一ぱいに歌をうたつて居ります。

するに牢屋の中では、死刑囚の人殺しがフト眼を覺ました。硬いベットに眠つてゐた重罪犯の男も眠い眼をこすりこすり起きて參りました。刑期をつめてゐる惡漢も驚いて起き上りました、盜人も驚きのあまり叫び出しました、詐欺師も何が何だかわからないやうな顔をして兩手を組合はせました。さいふのは、あの冷いジメくした牢屋の壁がすつかり廣々打ち開けて、圓天井のある美しい圓柱が見える限り竝んでゐるではありませんか。そして薄汚い囚人の寢床はまるで雪のやうに眞白な亞麻のシートで包まれて居ります。掛金も門もすつかり失くなつてしまつて、五六段ばかりの石段が眞直に花園に通じて居るではありませんか。

『オイ、ビル公』人殺しが重罪犯の男に申しました。『寝てるのかい』

『インヤ、起きてるぜ』重罪犯の男は申しました。『だが變な氣がして仕様がななんだ。まるでこゝ何だか牢屋に居るやうな氣がしないんだがなあ』。

『オイ、皆の衆、』悪黨が大聲で叫び出しました。『俺あもう死んじまつて、天國へ來てるんぢやなからうかな』。

『ナニ、天國だミ』詐偽師が申しました。『俺達なんぞに天國があるかい、一體。だが實はそういふ俺もまるで天國にでも居るやうな綺麗な夢を見てたさころなんだがな』。

『夢ぢやねえ』。盜人が申しました。『眞實ほんのこさだぜ。ホラ見ろ、百合の花だ。あいつが一本欲しいもんだなあ』。

『お取りなさい』。突然やさしい、それでゐて嚴かな聲が聞えました。ふみみるミあの魔法使ひが眞白な衣を着て皆の眞中に立つてゐるではありませんか。『みんなお前方ののだ』。

『ハア、お前様はこゝの看守さんですかい。』ミ重罪犯の男

がおそるゝ訊ねました。

『私もお前方ミ同じ囚人だよ。』魔法使ひは申しました。

『お前方ミ全く同じ人間だよ。こゝの花園は私達のものだ。あの木蔭の御馳走のテーブルも私達のためだ。あの夜鶯が歌つてゐる、あの薔薇の木が花を着けてゐる、あれもやつぱり俺達のためだよ。サア、みんなおいで、一緒に晩飯にしようぢやないか』。

でみんなの者は立派な御馳走の一ぱい並んだテーブルに坐つて、いよゝ御馳走をはじめました。魔法使ひは一同にすばらしい御馳走をこり分けてやつたり、葡萄酒をついでやつたり致しました。丁度魔法使ひが詐偽師の杯に葡萄酒を一杯注いでやつた時でありました、詐偽師は俯伏したまゝ、蚊の泣くやうな小さい聲で申しました。『イエ、イエ、私は結構で御座いますから』。

『ホウ、何故あんたは否やなのかな。』魔法使ひは訊きました。

『イエイエ、私のやうなものがさうしていたゞけませう。』

私のやうに澤山の人をひさい目にあはせました人間が、ミ

うしてそんなお酒を頂戴出来ませう。』

するに魔法使ひの眼が何かキラリミ光つたやうでありました。でも何んにも言はないで、次ぎ次ぎへミ葡萄酒を注いでまはりました。丁度人殺しの順番になつたミき、その男は急に手をブル／＼ミふるはせて、杯の眞赤な葡萄酒が二滴三滴テーブル掛布の上へこぼれました。

『あゝ、この葡萄酒はさうしてこんなに血の色を思ひ出させるんでせう。罪もない人の血を流しましたこの私、私はもう浅間しい極悪人で御座います。』

魔法使ひは何んにも申しませんでした。でもその眼は一層キラ／＼ミ光りました。その次に例の悪黨に注いでやらうミ致しますミ、その男は急に叫び出しました。『私はこのお酒をさうすればよいので御座います。私は面白半分他人様を打つたり、他人様の足を踏にして面白がつてみたり、折角親切に差し出してくれた手を打つてみたり、私をほんミに愛して下さる人々を苦しめてみたり……』

魔法使ひの顔はいよ／＼輝きわたりました。がそれでも何一つ言はないで、今度は盗人に向かつて、一番美味しそ

うな果物のお皿をすゝめました。』お取りなさい、いゝですか。これはあなたのものなんですから。』そう心からやさしく申しました。

『私は人様の物を盗んだ者で御座います。でこれはたゞへ私のものかは存じませんが、何卒御取上げを御願ひ申します。』

魔法使ひはニコリ笑ひました。そして今度は重罪犯の男の所へやつていつて、『ではあなたはさうですか。美味しい果物です。』

『イエ、イエ、私は私に親切にやさしくしてくれる人々の家に火を放けたおそろしい人間で御座います。その人達は可哀相に今は乞食になつてしまつて、一片のパンを他人様からいたゞかなければならないようになってしまひました。あゝ、私のために苦しんでゐる人々に一口でもいゝから、この果物をやりたいもんで御座います。』

するに魔法使ひの眼はまるでお星様のやうにキラ／＼光りました。そしてスツミ立上るミ、『皆さん、長い間あなた方は美味しいものも食べない、心に喜びさいふものも知ら

なかつた。何故食べて、飲んで、楽しくなつていけないことがありませう。サア、さうぞおあがりなさい、あなた方のものなのです」。

たゞ丁度その時でありました、庭の方からまるで澤山の足音のやうなものが聞えて参りました、そしてみる／＼うちに澤山の可哀相な貧しい、跛な、乞食の群がゾロ／＼ゾロ／＼現はれて参りました。

「アツ!! あれは私がひびい目にあはせた人達だ。ミ詐偽師が叫びました。

『あゝ、あそこに私が殺した人が居る。』人殺しは半分おそろしいやうな、そして半分うれしいやうな大きな叫び聲をあげました。

するゝ悪黨もつゞいて、『さうだ、あの怪我をして跛を曳いてゐる人達は私がひびい目に合はした人達だ』。

『おゝ、私が盗みをした人達だ。』盗人はもう嬉しくてたまらないさいつた風に叫び出しました。

『さうだ、この乞食達は私が火を放けた家の可哀相な人達だ』。

その時でありました。詐偽師はツカ／＼立上るゝ、御

馳走やら葡萄酒やらを自分がひびい目にあはせた貧しい人達のミころへドン／＼運びはじめました。人殺しは人殺しでテーブル掛布を小さく裂いて、自分が殺した人の前に跪いて、流れ落ちる涙でその傷口を綺麗に洗つてやつて、すっかり繃帯をしてやりました。悪黨は悪黨で、自分が怪我をさせた人達の傷口に葡萄酒ミ油を流してやりました。盗人は盗人で、テーブルの金の裝飾かざりや、銀の裝飾かざりをすつかりかき集めて自分が盗みをした人達に無理矢理に取らせました。それを見るゝ重罪犯の男は俄にわつ／＼泣き出して、『ああ、私はあの貧しい人達に何を上げればいゝのだ、私が何にもかもすつかり取つてしまつたあの人達に、』そしてこの男は大急ぎで、庭中の花をすつかり摘みこつて、その乞食達の腕に押しこむやうに抱かせました。

詐偽師が自分のひびい目に合はせた人達に御馳走ミ葡萄酒をわけてやり、人殺しがその可哀相な犠牲いけにえの傷口に繃帯をしてやり、悪黨がその怪我をした人々をいたはつてやり、盗人は盗人で、自分が盗んだ人達かざりに裝飾の金銀を集めてや

り、重罪犯の男は男で、乞食達のボロ／＼の着物を花で一ぱいに飾つてやるに、サアもうあそこには自分達は食べるものも、見るものも、何一つ残つて居りませんでした。でも一同はめい／＼のお客様を宮殿の中へ案内して入つて、眞白なベッドの中へ靜かに寝かせてやりました、そして自分達自身はその傍に、堅い床の上に横になつて寝みました。

魔法使ひはたつた一人、靜かに手を組んでいつまでも庭の中に立つて居りました、二つの眼はまるでお星様のやうに美しく輝いて居ります。牢屋の中には靜かな靜かな眠りがそつ／＼忍び足に降りて來て、やがてすつ／＼物音一つ聞えなくなつてしまひました。

する／＼突然扉をたゞ／＼大きな物音がして、獄卒が入つて參りました。

『起きろ、起きろ』獄卒は大聲に怒鳴り立てました。『貴様達はもう今日で三日も眠りつゞけてゐる、それでさうしても起きないのだ。』

囚人達はハツ／＼ばかりに飛び起きました。起き上つてみるに、自分達はみんなあの堅い汚いベットから降りて床の

上に寝てゐるのに氣が付ききました。そしてあの美しい柱の行列はやはりもこのジメ／＼した牢屋の壁に歸つて居り、あの一ぱい花を着けた樹も草も一つ残らず消えてしまつて居ります。たゞ一つ残つてゐるものは、地面の上に二片三片、薔薇と百合の花弁が淋しくこぼれてゐるばかりでありました。

『俺達は三日の間眠りつゞけてゐたんだ』人殺しは驚いて叫びました。それにつゞいて重罪犯の男も叫びました。

『何んだつて、あゝ夢だつたのか』

『看守さん、盗人は不思議さうにたづねました。俺達の外に誰れもこゝに居なかつたかね。』

『居たことも、獄卒は答へて申しました。』王様の猫を盗んだこいふあの男が居た。あいつは三日の間ズツ／＼眞中に身動き一つしないで立つてゐた、あいつの眼はまるで星のやうに輝いてゐた。こゝろが今日刑期が終るに、フツツリ居なくなつてしまつたのだ。おかしな奴だつた。そうだ、そうだ、それにあいつは例の魔法の術で、今日も消えてなくなるお土産に、裁判長閣下のお耳をまるで驢馬のや

うにピンミ長くしてしまつたさいふのだ。だが、さうでもない、貴様達は、サアサ起きろ、起きろ。』

そんな風にして、牢屋の囚人達にはまたしてもいつもの定まりきつた一日がはじまりました。だが何一つ變つたところがないさいふわけではありませんでした。あの水差しの腐つたやうな水がいつもく上等の葡萄酒のやうな味が致しました。微かびだらけのあのパンが、みんなの口に入るか入らないかに、すつかり何言へない美味しいパンに變つてしまひます。そして時々思ひだしたやうに、牢屋の中を美しい花片が一片二片風に乗つて舞ひ降りて参ります。夜は夜で、みんなが寝る時になるさ、汚いベットがすつかり眞白なシートで包まれてしまひます。毎晩、毎晩、靜かな靜かな眠りが牢屋にソツミ降りて来て、苦しみも惱みもない平和を持つて来てくれました。

(つゞく)

(九八頁より)
疊数は中數九・六疊さいふ貧弱な數であつて、此の狭い家屋の中に多數雜居せねばならぬさいふ境遇から不良傾向が醸し出されて來るのである。

以上家庭の職業並びに經濟的關係が子供の知能、性格に影響する事實を述べたが、その他家庭の影響として親の精神的感化さいふものを忘れてはならぬ。今之に就て述べる餘裕はなくなつたが精神的に優れた親の感化さいふものは上述の物質的、社會的な不備を補つて餘りあるものであつてこの點を没却して物質的な環境の改善のみを考慮するが如き政策は眞の教育云ふ事は出來ないのである。此の親の精神的感化、即ち健全なる家庭を第一義として更にそれを補ひ、子供をより幸福に導く手段として家庭の環境の改善を企圖して行かねばならない。

大阪毎日新聞が此の正月、こどもの世紀」といふ大見出しで、「世界幼稚園巡り」を連載してゐるのは嬉しい。それもニューヨーク、パリ、モスクワといつた風に、各地の特派員の筆になつてゐることは、記事としての價値を高めてゐると共に、此のテーマが大阪本社編輯局で特に選ばれたものであることなうかいはして尙ほ嬉しい。幼稚園のことが斯うした記事として大新聞で取扱はれることは、幼稚園の教育的意義と共に社會的意義の普遍的認識が加はつたことを立證するもので、此の上もなく嬉しい。殊にその一つ一つの寫眞が流石にそれだけの幼稚園のランドコロを捕へてゐるのも嬉しい。さて「世界幼稚園巡り」であるからには我國のものも入れられる筈と思ふが……それはどこの特派員を煩はしたらう、だらう。(S.K.)

第二十五回福島縣保育會總會並に二十五年記念式

雜 錄

き、喜多方園、郡山園の園舎模型等は珍重すべき出品であつた。

二、實地保育參觀

福島縣保育會は、明治四十三年十月十八日郡山幼稚園幹旋の下に、創立したもので當時八幼稚園に過ぎなかつたが、二十五年を閲したる今日に於ては、縣内四十五ヶ所の幼児教育機關があるに至り、本會に加入せるもの三十五ヶ所に及びその會員數百二十餘名の多きに達した。其第二十五回總會を、須賀川町第二小學校内で開き、創立二十五年を記念して、式も舉げ、功勞者の表彰、關係者の追申會も行つた。

1、須賀川町保育所に於て、午前九時半から同町理髮業組合の人々が出張して百名の幼児の理髮を奉仕的にして居らるゝ様は涙ぐましいものがあつた。五ヶ年間に延三千九百二十四人の多數幼児を理髮してくれた、功績顯著なものであつた。

第一日 昭和九年十月二十日(土)

2、須賀川幼稚園の誘導保育によつた、お月見會の催しで、部分的に觀たら、一寸妙な所もあるが、絶えず引き續いて誘導して來て居る様が、よく窺はれた。

一、手技製作品展覽會

三、開會式

縣下各園の幼兒、保姆の製作品展覽會を須賀川町保育所内に開き縦覽に供した、自然物の應用、立體的の作品、木工細具等があり、近年急激に進展した跡が見え、白河園の郵便遊び、若松園の大名行列遊び等格段の注意を牽

1、開會の辭 主催地の代表保育所長
2、國歌合唱
3、會務報告
四、保育關係者追申會

午前十一時半より曹洞宗長祿寺に於て行はれた。故原喜多方園長外十五名の靈位を安置し、莊嚴なる中に慇懃なる讀經があり、保育會長の悲痛なる弔辭の朗讀があつた、

白河町、郡山市等より特に臨席せられたる遺族、並に會員一同の嚴肅なる裡に燒香をなし、追慕の念深き法要を勤修した。

五、創立二十五周年記念式

- 1、舉式の辭 主催地側の園長
- 2、表 彰

(1)本會の創立に盡萃し、會務の進展に努め、本會出席二十五回の功績者

郡山幼稚園長 松山 政治
 若松幼稚園保姆 入間田 よしの
 勤續十年

若松幼稚園保姆 麻生 しけの
 同 理事 生龜 藤 吾
 同 同 齋 藤 義 雄

勤續五年

(3)在職五年以上にして退職せる功績者

會津幼稚園保姆 高橋 なみ
 外五名
 會津保育園長 松山 良純
 外六名

(4)感謝狀(多年保育事業に援助したる團體又は個人に捧呈す)

(私立三春幼稚園) 東北日本基督教會幼稚園委員會
 (小野新町兒童遊園) 同 園 青年後援會
 (須賀川町保育所) 同 町 理髮業組合
 (同上並に同幼稚園) 園 醫 太田 貞喜
 (會津保育園) 理事 小林 傳七
 (會津幼稚園) 同 田村 綱宗
 (白河幼稚園) 同 小野 龜次郎

(郡山婦人會保育所)後援會長 阿部 よし

(同) 理事 湯淺 榮子

(同) 同 横山 ここ

(若松保育園) 幹事 山口 きち

松山園長には感激に満ちたる謝辭を、勤續者を代表して
會津保育園長、保育援助者を代表して太田醫師より、鄭
重なる答辭をのべられた。

六、會議

1、協議題

○保育大會を左の二部に別ち、協議する必要ありと認む、

如何

(一)幼稚園部(教育本位の關係者)

(二)社會事業保育部(保育園託兒所關係者)

(可決)

高田保育園提出

2、研究題

○如何なる計劃を以て、幼兒の遊びの發展に力を注がれ

つゝあるか。

白河幼稚園提出

3、談話題

○誘導保育をこり入れらるゝ上につきての感想承りたし

郡山幼稚園提出

○近來強調せられつゝある「日本精神」を本縣保育界に於

ては如何様に迎へつゝあるか 須賀川幼稚園提出

○幼兒身體検査表に於ける「概評」算出に際し、各園使用

の早見表は統一する要ありと認む

須賀川幼稚園提出

○炭火を用ふる辨當溫め箱の設備如何

須賀川町保育所提出

○保護會若くは母姊會等の方法竝に狀況承りたし

一喜多方幼稚園提出

○保姆及園兒の服裝につきて研究考案せられたる向あ

ば承りたし 同 園提出

○冬季の保育を以て特に實施されつゝある事項承りたし

福島幼稚園提出

七、研究發表

○夏休中の手技製作(母ミ子の手すさび)について

郡山幼稚園保姆

○大名行列について

若松幼稚園保母

八、演説

○根本的教育

博愛幼稚園長 兼 子重 光

九、町長招待會

午後四時より會場内に於て、須賀川町長の招待會あり、

土地名産の記念品を贈られた。

一〇、遊戯交換會

今夏文部省主催の講習會竝に昭和保母養成所講習會に出席せられたる七人の方々講師となつて共々研究し合つた

かくて午後五時退散

第二日 同二十一日(日)

一、手技製作講習會

1、會場 前日に同じ

2、講師

東京女子高等師範學校附屬幼稚園保母 及川ふみ先生

廢物を利用して種々立體的の手技品につき午前九時より午後三時半まで懇篤なる教授があり、會員は極めて熱心にその指導を受けた。

二、園長會

別室に於て種々の打合せ、協議があり、來年度の會場は、若松市で引き受けらるゝこととなり、いづれ確定の上、通知するこゝを議した。

三、記念撮影

會場入口に於て二十五年記念の撮影をなした。居竝ぶもの八十七名、第一日だけの出席で今日缺席せる方の多數あつたのは聊か残念であつた。

四、參會出席者

○參加幼稚園三十一ヶ所

○園長、所長、館長等十九名

○主事、理事、書記等十二名

○保 姆 七十三名

○來 賓 十九名

計百二十三名

五、社會事業保育者の懇談會は、第一日の夜、その宿舍虎屋旅館で催された。來年度からは保育會も部會制が成立されたので、この會合は、自然それの方に移るのである。

本年度保育實習科卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は本年三月左の廿四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ／＼適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望にもえてゐます。御採用を願ひます。

姓名	出身學校	生年	月	日	姓名	出身學校	生年	月	日
井田 淑子	佐渡相川高等女學校	大正五年七月十二日			坂田美寶子	釜山公立高等女學校	大正五年八月一日		
伊佐山 靜子	仁川公立高等女學校	大正六年九月十六日			末光トミ子	大分縣立第一高等女學校	大正五年三月九日		
磯野 泰子	縣立和歌山高等女學校	大正五年十一月十二日			鈴木 貞子	愛知縣立第一高等女學校	大正六年一月一日		
大岡 薰	東京府立第二高等女學校	大正五年八月十五日			田中 秀子	東京府立第五高等女學校	大正五年十月十二日		
川上 須賀	東京府立第五高等女學校	大正六年二月五日			田中 ゆき	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正五年十二月二十八日		
川野 留	東京私立櫻蔭高等女學校	大正六年一月三日			竹内喜美子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正五年八月二十五日		
北澤 淑子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正五年十月十七日			谷川 玲子	福岡縣立門司高等女學校	大正七年一月三日		
橘川 ちゑ	東京私立精華高等女學校	大正六年一月十二日			戸川 貞子	東京府立第三高等女學校	大正四年七月二十九日		
工藤 茂子	東京府立第五高等女學校	大正六年二月二十四日			松本 菊野	鎌倉高等女學校	大正三年十一月二十日		
葛岡千枝子	東京市立忍岡高等女學校	大正五年十一月十日			矢島 八重	滋賀縣立大津高等女學校	大正五年四月二十六日		
後藤富美子	東京私立櫻蔭高等女學校	大正五年六月九日			矢田伊豆江	女子學習院	大正三年六月八日		
齋藤 保	福島縣立會津高等女學校	大正四年七月二十三日			山中 勝子	私立東京高等女學校	大正五年八月二十二日		

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校校長 吉岡郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ融出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼児教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼児教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會務ヲ掌理ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更改スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金參拾圓金貳拾圓
一年分	金四圓拾錢	一等面一頁一頁以下
拾貳冊送	料共	金貳拾五圓御斷
拾貳冊送	料共	神田區駿河臺ノ三品田
		廣告社に御申込下さい

(外國行郵税ハ一部金拾貳錢ノ割にて御拂込下さい)
 昭和十年一月十五日發行
 昭和十年一月十五日發行
 昭和三十五年 第一號
 幼兒の教育 第三十五卷

不許複製 禁止轉載

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 編輯者 倉橋惣三
 發行所 柴山則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 杏林舎
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 振替口座東京一七二六六番

發行所

日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

大好評 東京女子高等 前附屬幼稚園主事 堀七藏 著
 師範學校教授 現附屬小學校主事 堀七藏 著
 四六判四一六頁美本 口繪寫真十數葉入 價二圓八十錢 送十六錢

幼稚園保育の諸問題

一・幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針
 本書は幼稚園經營並に保育實際に關する(一) 理論(二)實際(三)小學校との連絡問題につき 長く幼稚園主事たりし堀先生が現に同一校の小學校主事たる地位より懇説詳述されし絶對無比の名著である。

二・小學校との連絡問題についての詳述は大特色
 (一)小學校入學の準備(二)入學檢定の受け方(三)入學檢定の所感(四)入學檢定の結果(五)小學校入學に關しての注意云々小學校入學後の考察等についての詳述は最も權威ある本書のみの特色である。

三・理論的見地に立ち保育實際に理論付けらるる
 兎角、母の愛の如く嬌々しさのみ陥り易き保育實際に父性愛の或る強さを加へたる。此點も見て本書は又稀なる權威書である。

●明晰なる理論を以て、保育實際に理論付け且其の進むべき方向を明示する。

東京女高師主事堀七藏先生著 四六判三百餘頁 定價二圓五十錢 挿繪多數文平易 送料十六錢

▲新科學教育の根本問題科 學高潮時代に忘れられたる而も根 本的な重要問題を解決指示する。

▲新家庭教育の中心問題新 家庭教育は娘の問題等止ま らず須く時代人として活躍 するを得る基を與へねばならぬ。

▲母姉の良師・教師の伴侶 自費ある母姉、幼稚園保姆 必讀の最良書である。

(好評五版)

我が兒の科學教育



東京市神田區保町一丁目六十七番地 振替東京一〇三七番

お子様の満悦100%の手技用品と表簿類

◇菱形——赤白草三色の菱餅を重ねたやうな厚紙菱紙に、チリメン摺紙で雜な折つて貼ります。
 菱 形 五 十 枚 金 一 圓 五 十 錢

縮 緬 大 15cm x 15cm 一〇〇枚包一把 金 五 十 錢
 摺 紙 小 12cm x 12cm 一〇〇枚包一把 金 三 十 錢

◇屏風形——雛祭り又はお人形遊び用、金屏風の華麗なもの、これに貼紙の櫻その他を以てお子様方に美事な意匠がでます。
 五 十 枚 金 一 圓 五 十 錢

◇繪馬額——厚紙で作つた繪馬額、クレオン貼紙等でお子様御自身がいろ／＼意匠する大歓迎の手技用品。
 五 十 枚 金 一 圓

◇保育證書——厚い堅緻な上質紙に文字を墨、周圓輪廓を金刷、そして姓名年月日を書き入れるやうになつてゐます。御園名入のものは二月末日迄に御註文、無名ならば何枚にても即時お間に合ひます。

御園名入の保育證書
 二 月 末 日 迄
 に御註文下さいませ

一〇〇枚園名入 金 四 圓
 五〇枚園名入 金 二 圓 五 十 錢
 無 名 一 枚 金 五 錢

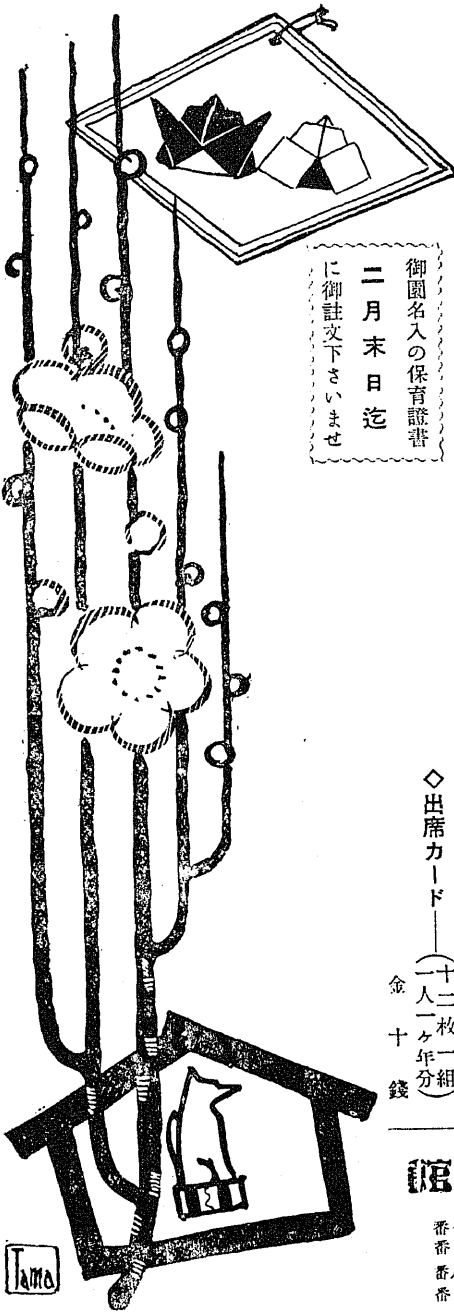
◇出席簿用紙——一〇〇枚 全 一 圓

◇豫定案日誌——一冊(二年分) 金 一 圓 二 十 錢

◇在籍簿用紙——一〇〇枚 金 八 十 錢

◇月謝袋——一〇〇枚 金 一 圓 四 十 錢

◇出席カード——(十二枚一組) 金 十 錢
 (一人一ヶ月分)



株 式 會 社 三 井 物 産

東 京 都 神 保 町 二 段 九 番 三 三 (33) 番 七 二 八 三
 振 興 會 東 京 四 九 六 〇 番 〇 四
 振 興 會 大 阪 區 東 區 二 丁 五 番 八 三 九 一 (21) 番 八 三 九 一
 所 張 出 大 阪 區 東 區 二 丁 五 番 八 三 九 一

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回十五日發行)
 昭和十年一月十三日印刷納本
 昭和十年一月十五日發行

定 價 三 十 五 錢